

南原遺跡 VII

埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

埼玉県戸田市教育委員会

はじめに

埼玉県南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口13万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も変わってきておりますが、古来より受け継がれてきた伝統や文化を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護が求められています。

今回報告いたします南原遺跡第7次発掘調査は、共同住宅建設工事に伴い、平成15年に緊急発掘調査が行われたものです。この発掘調査により、弥生時代後期から中世に生活を営んだ人たちが遺した貴重な痕跡を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を確認することができました。本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができれば幸いです。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、ご尽力、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

戸田市教育委員会
教育長 戸ヶ崎 勤

例 言

1. 本書は埼玉県戸田市南町2274番地の一部、2275番地の一部に所在する南原遺跡第7次発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は個人事業主による共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として、事業者から調査委託を受け戸田市遺跡調査会（担当：小島清一、平成21年度まで）が実施した。また、整理作業、報告書作成作業は、平成15年度から平成23年度までは事業者および戸田市からの委託を受け戸田市遺跡調査協力会（担当：小島清一、平成21年度まで）が、平成24年度から平成28年度までは戸田市教育委員会が（担当：岩井聖吾 平成27年度まで、担当：長澤有史 平成27年度から）実施した。
3. 発掘調査および平成16年1月20日から平成16年2月27日までに実施した整理作業の経費は事業者の負担による。また、平成17年4月1日から平成29年3月24日までに実施した整理作業および報告書作成の経費は戸田市の負担による。
4. 南原遺跡第7次発掘調査は、平成15年11月10日から12月28日まで実施し、出土品整理は平成16年1月20日から2月27日まで、平成17年4月1日から平成29年3月24日まで戸田市教育委員会生涯学習課埋蔵文化財整理室（戸田市立戸田東中学校内）および戸田市役所生涯学習課執務室で実施した。
5. 本書は、戸田市教育委員会が刊行した。
6. 本書は、長澤有史が編集・執筆を行った。
7. 発掘現場の記録写真は佐々木潤が担当し、出土遺物の写真撮影は長澤有史が担当した。
8. 本書の著作権は、戸田市教育委員会が保有する。
9. 発掘調査成果の周知と活用または学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製して利用できるものとする。
10. 出土遺物及び発掘調査に伴う各種データ等はすべて戸田市教育委員会が保管し、活用を図るものとする。
11. 本事業は以下の組織により実施した。なお、平成15年度の戸田市遺跡調査協力会の役員は、記録が残っておらず不明である。

【発掘調査・出土品整理】（発掘調査：平成15年11月10日から12月28日まで、出土品整理：平成16年1月20日から2月27日まで）

調 査 主 体 者 戸田市遺跡調査会

会 長 伊藤 良一

事務局兼調査担当 小島 清一

調査員（発掘調査・出土品整理） 佐々木 潤

発掘調査参加者

梅澤 光枝 榎本 昇 岡崎 久子 尾形 美枝子 加藤 晴美 小林 幸恵 湖山 淳子

早乙女 孝子 佐藤 香 莊 由香 関 徳太郎 高橋 富美子 平吹 久美子 広瀬 幸子
本田 五月 渡辺 豊子

整理作業参加者

梅澤 光枝 岡崎 久子 尾形 美枝子 加藤 晴美 小林 幸江 湖山 淳子 早乙女 孝子
佐藤 香 莊 由香 高橋 富美子 平吹 久美子 広瀬 幸子 本田 五月 渡辺 豊子

【出土品整理】

戸田市遺跡調査協力会

(平成16～17年度)

会 長 関 徳太郎
副 会 長 広瀬 幸子 渡辺 豊子
会 計 尾形 美枝子 加藤 晴美
監 事 嘉規 小夜子 小林 幸江
理 事 梅澤 光枝 榎本 昇 高橋 富美子 早乙女 孝子
事務局兼整理担当 小島 清一

(平成18年度)

会 長 関 徳太郎
副 会 長 広瀬 幸子 渡辺 豊子
会 計 尾形 美枝子 加藤 晴美
監 事 嘉規 小夜子
理 事 梅澤 光枝 榎本 昇 高橋 富美子 早乙女 孝子
事務局兼整理担当 小島 清一

(平成19～22年度)

会 長 関 徳太郎
副 会 長 広瀬 幸子 渡辺 豊子
会 計 尾形 美枝子 加藤 晴美
監 事 二瓶 貴美子 本田 五月
理 事 梅澤 光枝 榎本 昇 高橋 富美子 早乙女 孝子
事務局兼整理担当 小島 清一 (平成21年度まで)

(平成23年度)

会 長 渡辺 豊子
副 会 長 尾形 美枝子
会 計 榎本 眞由美

監 事 本田 五月
理 事 梅澤 光枝 榎本 昇 早乙女 孝子 高橋 富美子

【出土品整理及び報告書作成】

平成24年度～平成28年度

教 育 長 羽富 正晃（平成27年3月31日まで）
戸ヶ崎 勤（平成27年4月1日から）
教 育 部 長 奥墨 章（平成25年3月31日まで）
山本 義幸（平成25年4月1日から平成27年3月31日まで）
中川 幸子（平成27年4月1日から平成28年4月30日まで）
鈴木 研二（平成28年5月1日から）
次 長 江添 信城（平成26年3月31日まで）
小沼 利行（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）
鈴木 研二（平成27年4月1日から）
生 涯 学 習 課 長 頓所 博行（平成27年3月31日まで）
津田 孝一（平成27年4月1日から）
生 涯 学 習 課 主 幹 津田 孝一（平成27年3月31日まで）
石橋 晴美（平成28年4月1日から）
生 涯 学 習 課 副 主 幹 雨宮 博子（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）
生 涯 学 習 課 主 任 吉次 良介（平成28年4月1日から）
生 涯 学 習 課 主 事 池上 裕康（平成27年3月31日まで）
岩井 聖吾（平成28年3月31日まで、平成26年度まで整理作業担当者）
田中 聡（平成27年4月1日から）
長澤 有史（整理作業、報告書作成担当者）
整 理 補 助 員 榎本 眞由美 尾形 美枝子 平吹 久美子

12. 調査および本書を作成するにあたり、次の方々・機関にご指導、ご協力を賜った。

岩井 聖吾 小島 清一 吉田 幸一 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 戸田市立郷土博物館 （敬称略 五十音順）

凡 例

1. 挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。
2. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に即している。
3. 遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。
なお、遺構略号は下記のとおりである。
SI：竪穴住居跡 SD：溝状遺構 SE：井戸跡 SK：土坑 P：ピット
4. 発掘調査時の土層観察における色調の記録は、記録者の主観に基づいている。一方、遺物観察における色調は、『新版 標準土色帖』2013年度版（小山正忠・竹原秀雄 編・著者、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所 色票監修、日本色研事業株式会社 発行）を参考にした。
5. 遺構断面図内の土層説明は、全て記録者の記載に従う。
6. 出土遺物で赤彩がなされている箇所は、グレートーンにより実測図中に示した。
7. 遺物拓影図は、向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。また、底面は下に示した。
8. 遺物の種別の内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭に属する土器は、すべて「土師器」と標記した。
9. 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、その他の土器は断面を白抜きにした。
10. 遺物実測図および遺物写真図版の個別番号のうち、「①」のように示した遺物は出土状況図中に出土地点を示した資料であり、遺物出土状況図中の「①」に対応している。一方、「1」のように示したものは一括取り上げ資料であり、遺物出土状況図に出土地点を示していない資料である。
11. 遺物観察表のうち、法量の [] の値は残存部からの推定値を示す。
12. 遺物実測図および遺構実測図、写真図版の縮尺はすべて挿図中に示した。
13. 標高は、T. P（東京湾中等潮位）を基準とした。
14. 遺構実測図の水系レベルはすべて標高2.80mに統一した。
15. 遺構実測図で、竪穴住居内のピットは、P①と表記した。
16. 出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：MY. 7. SI - 1 - 1
遺跡略号 調査次 遺構種別 遺構番号 遺物番号

表面採取遺物や攪乱層出土遺物については、遺跡略号および調査次のみを記載した。

なお、写真図版中の遺物写真には、旧遺構番号のまま註記を修正していないものがある。

目次

はじめに

例言／凡例

目次／挿図目次／挿表目次／図版目次

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯 1

第2節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査 2

2 整理作業 2

第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境 4

第2節 歴史的環境 5

第3節 遺跡・調査の概要 8

第4節 基本土層 12

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

1 竪穴住居跡 14

2 溝状遺構 46

3 土坑 48

4 井戸跡 52

第2節 その他の遺構と遺物

1 溝状遺構 54

2 土坑 66

3 井戸跡 70

4 ピット 71

5 遺構外出土遺物 73

第4章 まとめ

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭 76

2 中世 77

3 結語 78

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録／奥付

挿図目次

第1図	埼玉県地形	4	第22図	第6号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI06)	33
第2図	戸田市地形	5	第23図	第6号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI06)	34
第3図	南原遺跡及び周辺の遺跡位置図	6	第24図	第7号竪穴住居跡実測図 (SI07)	35
第4図	南原遺跡調査区位置図	9	第25図	第7号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI07)	36
第5図	基本土層図	12	第26図	第7号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI07)	37
第6図	調査区内等高線図	12	第27図	第8号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI08) (1)	39
第7図	調査区全体図	13	第28図	第8号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI08) (2)	40
第8図	第1号竪穴住居跡実測図 (SI01)	15	第29図	第8号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI08)	40
第9図	第1号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI01)	16	第30図	第9号竪穴住居跡実測図 (SI09)	42
第10図	第1号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI01) (1)	16	第31図	第9号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI09)	42
第11図	第1号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI01) (2)	17	第32図	第10号・11号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI10・SI11)	44
第12図	第2号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI02)	19	第33図	第10号・11号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI10・SI11)	45
第13図	第2号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI02)	20	第34図	第8号溝状遺構実測図 (SD08)	47
第14図	第3号竪穴住居跡実測図 (SI03)	22	第35図	第8号溝状遺構出土遺物実測図 (SD08)	48
第15図	第3号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI03)	23	第36図	第2号土坑実測図 (SK02) (1)	49
第16図	第3号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI03)	24	第37図	第2号土坑実測図 (SK02) (2)	50
第17図	第4号竪穴住居跡実測図 (SI04)	26	第38図	第2号土坑出土遺物実測図 (SK02)	51
第18図	第4号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI04)	27	第39図	第1号井戸跡実測図 (SE01)	52
第19図	第4号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI04)	28	第40図	第1号井戸跡出土遺物実測図 (SE01)	53
第20図	第5号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI05)	30			
第21図	第5号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI05)	31			

第41図	第1・2・3・5号溝状遺構実測 図(SD01・SD02・SD03・SD05) (1)……………55	図(SD05・SD06)……………62	
第42図	第1・2・3・5号溝状遺構実測 図(SD01・SD02・SD03・SD05) (2)……………56	第47図	第7号溝状遺構実測図・遺物出土 状況図(SD07)……………64
第43図	第1・2・3号溝状遺構出土遺物 実測図(SD01・SD02・SD03)……………57	第48図	第7号溝状遺構出土遺物実測図 (SD07)……………65
第44図	第4・6号溝状遺構実測図(SD04・SD06) ……………60	第49図	第1号土坑実測図(SK01)……………67
第45図	第4号溝状遺構出土遺物実測図 (SD04)……………61	第50図	第1号土坑出土遺物実測図(SK01) (1)……………68
第46図	第5・6号溝状遺構出土遺物実測	第51図	第1号土坑出土遺物実測図(SK01) (2)……………69
		第52図	第2号井戸跡実測図(SE02)……………70
		第53図	ピット全体実測図……………71
		第54図	遺構外出土遺物実測図……………73

挿表目次

第1表	南原遺跡周辺遺跡の概要……………6	第16表	第1号井戸跡出土遺物観察表……………53
第2表	第1号竪穴住居跡出土遺物観察表(1) ……………17	第17表	第1号溝状遺構出土遺物観察表……………58
第3表	第1号竪穴住居跡出土遺物観察表(2) ……………18	第18表	第2号溝状遺構出土遺物観察表……………58
第4表	第2号竪穴住居跡出土遺物観察表……………20	第19表	第3号溝状遺構出土遺物観察表……………59
第5表	第3号竪穴住居跡出土遺物観察表……………25	第20表	第4号溝状遺構出土遺物観察表……………61
第6表	第4号竪穴住居跡出土遺物観察表……………29	第21表	第5号溝状遺構出土遺物観察表……………62
第7表	第5号竪穴住居跡出土遺物観察表……………30	第22表	第6号溝状遺構出土遺物観察表……………63
第8表	第6号竪穴住居跡出土遺物観察表……………34	第23表	第7号溝状遺構出土遺物観察表(1) ……………65
第9表	第7号竪穴住居跡出土遺物観察表……………38	第24表	第7号溝状遺構出土遺物観察表(2) ……………66
第10表	第8号竪穴住居跡出土遺物観察表……………41	第25表	第1号土坑出土遺物観察表(1)……………69
第11表	第9号竪穴住居跡出土遺物観察表……………43	第26表	第1号土坑出土遺物観察表(2)……………70
第12表	第10号竪穴住居跡出土遺物観察表……………45	第27表	ピット計測表……………72
第13表	第11号竪穴住居跡出土遺物観察表……………45	第28表	遺構外出土遺物観察表……………74
第14表	第8号溝状遺構出土遺物観察表……………48	第29表	遺構別出土点数・重量一覧……………75
第15表	第2号土坑出土遺物観察表……………51		

図版目次

図版 1

- 1 調査区全景（北東から）
- 2 調査区全景（南から）

図版 2

- 1 SI01 調査状況（東から）
- 2 SI02 完掘状況（東から）

図版 3

- 1 SI03 完掘状況（東から）
- 2 SI03 遺物出土状況
- 3 SI04 遺物出土状況
- 4 SD07 完掘状況（北東から）

図版 4

- 1 SI05 完掘状況（東から）
- 2 SI01・02・03・04・05、SD07
完掘状況（東から）

図版 5

- 1 SI07 完掘状況（南東から）
- 2 SI06・07 完掘状況（東から）

図版 6

- 1 SI08 完掘状況（東から）
- 2 SI09・SK01 完掘状況（東から）

図版 7

- 1 SI10 調査状況（南から）
- 2 SI11 完掘状況（北から）

図版 8

- 1 SK01 完掘状況（南西から）
- 2 基本土層
- 3 調査風景 1
- 4 調査風景 2
- 5 調査風景 3

図版 9

出土遺物写真（1）

図版10

出土遺物写真（2）

図版11

出土遺物写真（3）

図版12

出土遺物写真（4）

図版13

出土遺物写真（5）

図版14

出土遺物写真（6）

図版15

出土遺物写真（7）

第 1 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯

平成15年、事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教育委員会」と略す）に対し、戸田市南町2274番地の一部、2275番地の一部における1,423.14㎡の共同住宅建設事業計画と埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

市教育委員会では、事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地（南原遺跡）内に所在しており、開発工事中に埋蔵文化財が発見される可能性が高いため、事業者に対して工事着工前に試掘調査を実施するように指導した。

これを受け、事業者から市教育委員会に対し、試掘調査の依頼書が提出され、試掘調査を実施することとなった。

試掘調査は平成15年10月16日・17日の日程で、市教育委員会生涯学習課の小島清一が調査員となり、戸田市遺跡調査協力会（以下、協力会と略す）が実施した。試掘調査では、住居跡、溝等の遺構を検出し、これに伴い、弥生時代後期から古墳時代前期及び中世に帰属すると思われる土器等を検出した。

この試掘調査結果に基づき、市教育委員会と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、事業計画の変更が困難であるとの結論に達し、基礎工事等で埋蔵文化財が破壊される場所については、記録保存のための緊急発掘調査を実施することで合意した。

平成15年10月27日、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教育委員会は平成15年10月29日付戸教生第499号にて埼玉県教育委員会（以下「県教育委員会」と略す）あてに進達した。

これを受け、県教育委員会から事業者に対し、平成15年11月14日付教生文第3-646号で、事業計画地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査および出土品整理については、事業者と市教育委員会の協議の結果、事業者が戸田市遺跡調査会（以下「調査会」と略す）に委託して実施することとなり、平成15年11月6日に事業者と調査会で締結された「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」に基づき、平成15年11月10日から同年12月30日の期間で実施することとなった。

調査会は、文化財保護法第92条に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出を平成15年11月6日付戸遺発第2号にて市教育委員会へ提出し、市教育委員会は平成15年11月7日付戸教生第513号にて県教育委員会あてに進達した。

文化財保護法第92条の届出に対して、県教育委員会から調査会あてに平成15年11月21日付教生文第2-66号にて発掘調査を実施するように指示通知があり、これを受け南原遺跡第7次発掘調査が実施されることとなった。

第 2 節 発掘調査と整理作業の経過

1 発掘調査

南原遺跡第 7 次発掘調査は、平成 15 年 11 月 10 日から 12 月 28 日まで実施した。調査面積は 800.0 m²である。11 月 10 日から調査に先立ち、調査区内に機材を搬入し、調査区を設定する予定であったが、雨天により中止となった。その後、12 日から重機により表土を掘削し、表土除去に 3 日間を要した。表土掘削時の排出土は、調査区北側に仮置きを行った。

その後、人力により遺構確認を行い、それと同時に基準杭が委託業者により打設され、4 m²四方のグリッドを設定し、全体の測量図を作成した。調査初めの段階で大型の住居や調査区を東西に横断する溝が検出された。竪穴住居跡同士の重複が 3 カ所、溝状遺構と竪穴住居の重複が 3 カ所確認され、遺構の切合関係や埋没の過程を把握するべく、セクションベルトを設定し、遺構掘削を行った。途中、雨天により 11 月 20 日、12 月 1 日が作業中止となった。遺構の精査を進め、出土した遺物は出土状態の写真を撮影したのち、地点取上を行った。また、竪穴住居跡の床面や、溝状遺構の底面まで掘削が進んだものは、簡易遣り方測量により平面図を作成し、遺物の出土地点は同様に平面図上に記録された。その後、土層断面図やエレベーション図等の各種記録を行った。その他、ピットが 87 基検出され、平面図やエレベーション図を作成し、記録を行った。

12 月 25 日には付近の建物に許可を頂いた上で、高所より調査区全景写真を撮影し、また各遺構の完掘状況写真を撮影した。26 日には機材の撤収を開始、27 日には埋め戻しを始め、28 日に埋め戻しが完了し、発掘調査が終了した。

2 整理作業

当該調査にかかる出土遺物及び図面の整理、報告書作成作業は平成 16 年 1 月 20 日から 2 月 27 日まで、また平成 17 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 24 日まで実施した。

平成 16 年 1 月 20 日から 2 月 27 日までは、事業者と調査会で締結した「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」に基づき、出土遺物の洗浄と註記作業、原図の整理等を実施した。

また、平成 17 年度から平成 23 年度は、戸田市と協力会との間に締結された業務委託契約書に基づき、協力会が出土遺物の接合および復元、第 2 原図作成作業、版下作成等の整理作業を実施した。各年度の業務委託契約書名および契約締結日は以下のとおりである。

【平成 17 年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成 17 年 4 月 1 日締結）

【平成 18 年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成 18 年 4 月 1 日締結）

【平成 19 年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成 19 年 4 月 1 日締結）

【平成 20 年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成 20 年 4 月 1 日締結）

【平成21年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成21年4月13日締結）

【平成22年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成22年4月22日締結）

【平成23年度】

「南原遺跡等出土品及び図面整理等業務委託契約書」（平成23年4月21日締結）

平成23年度には市教育委員会から株式会社東京航業研究所に委託し、出土土器の一部について実測図作成を実施した。

平成24年度から平成28年度は、市教育委員会が協力会に代わり整理作業および報告書作成作業を実施した。協力会にて作成された遺構図面等の版下を確認したところ、適宜修正する必要があり、再整理を実施した。

遺構平面図、断面図、エレベーション図等は、原図からスキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化を行った。その後Adobe Illustratorを用いてデジタルトレースを行い、遺構全体図、および遺構ごとの図版を作成した。

出土遺物は、図版に掲載する遺物が選定されていなかったため、掲載遺物の抽出から行った。拓影図を採り、スキャナでコンピュータに取り込み、Adobe PhotoshopおよびAdobe Illustratorにて修正を行った。実測図については、株式会社東京航業研究所に委託したもの以外について、断面を実測した後、スキャナで実測図をコンピュータに取り込みAdobe Illustratorにてデジタルトレースを行い、図面掲載遺物の版下をAdobe Illustrator上で作成した。

発掘現場で撮影した写真は、フィルムスキャナを用いてネガフィルムをデジタルデータ化し、その後Adobe Photoshopにてコントラスト調整、グレースケール変換およびTIFF形式に変換した。遺物写真は、Nikon D610を使用してRAW（NEF）形式で撮影した。そしてAdobe Camera Rawにより現像処理およびホワイトバランスの調整を行い、TIFF形式ファイルを作成した。また作成したTIFF形式ファイルをAdobe Photoshopにて縮尺し、背景等を調整した。

全てのデータが完成した後、Adobe Illustratorにて版下を作成し、文章はMicrosoft Word、表はMicrosoft Excelの各ファイル形式にて入稿した。

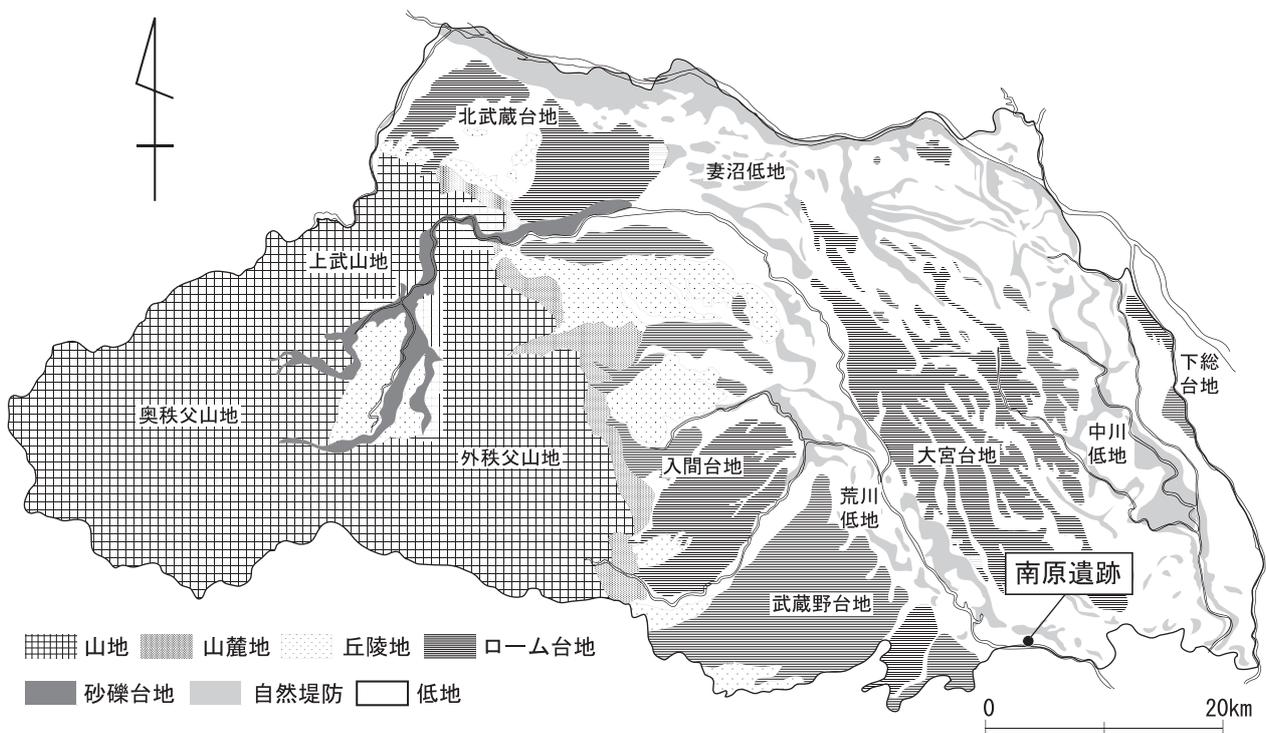
第2章 周辺環境と遺跡・調査の概要

第1節 地理的環境

南原遺跡が所在する戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約6.0km、南北約3.0km、面積18.17km²の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市と川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市と和光市、南の東京都板橋区と北区には荒川を隔てて接している。市域には国道17号線(中山道)や新大宮バイパスが南北に走り、また首都高速5号線や東京外郭環状道路、JR埼京線の開通により、交通の利便性が高まり急激な市街地化が進んでいる。さらに、都心に近い立地のため、工場や流通センターなども数多く所在する。

戸田市の地形は、埼玉県西部の山地に端を発する荒川によって形成された平坦な沖積低地(荒川低地)が全域を占める。荒川の氾濫や流路の変更によって、市域の中央部を西から東にかけて自然堤防を形成している。この自然堤防は荒川旧河道に沿うように発達し、戸田市域では美女木から笹目を通り、本町、上戸田を抜けて川口市へと断続的に延びている。

南原遺跡は、JR埼京線戸田公園駅から南西約500mの戸田市南町を中心に広がる遺跡である。遺跡の南側には戸田漕艇場が所在し、その約500m南には荒川が東流する。遺跡周辺は、昔から「高知^{たかちつ}原^{ばら}」と呼ばれ、遺跡の所在が確認された当時は戸田市域の中でも比較的起伏の見られる高所であったと言われている。遺跡の北側には、治水のために掘られた菖蒲川が東流するが、この周辺にはかつて「菖蒲沼^{しょうぶぬま}」と呼ばれた低湿地が広がっていた。この低湿地は長年に渡り水田として利用されていたが、

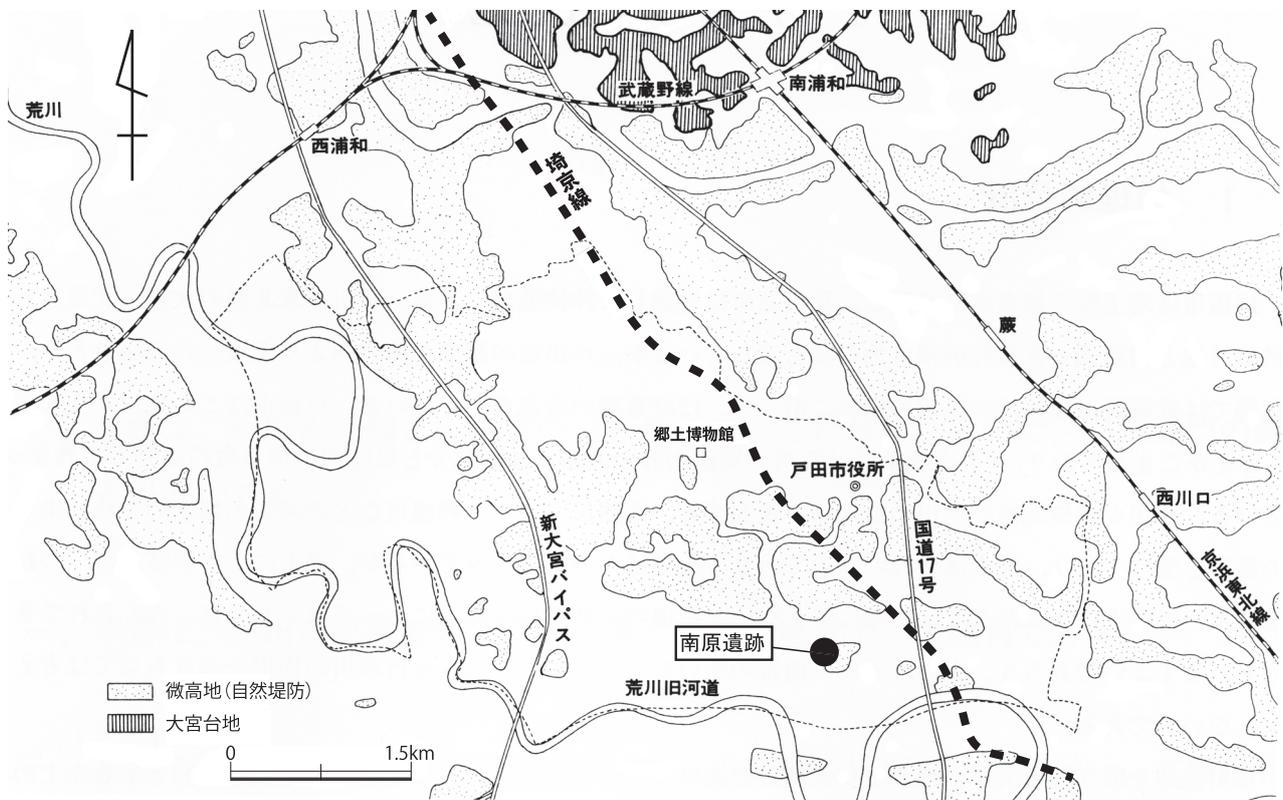


第1図 埼玉県の地形

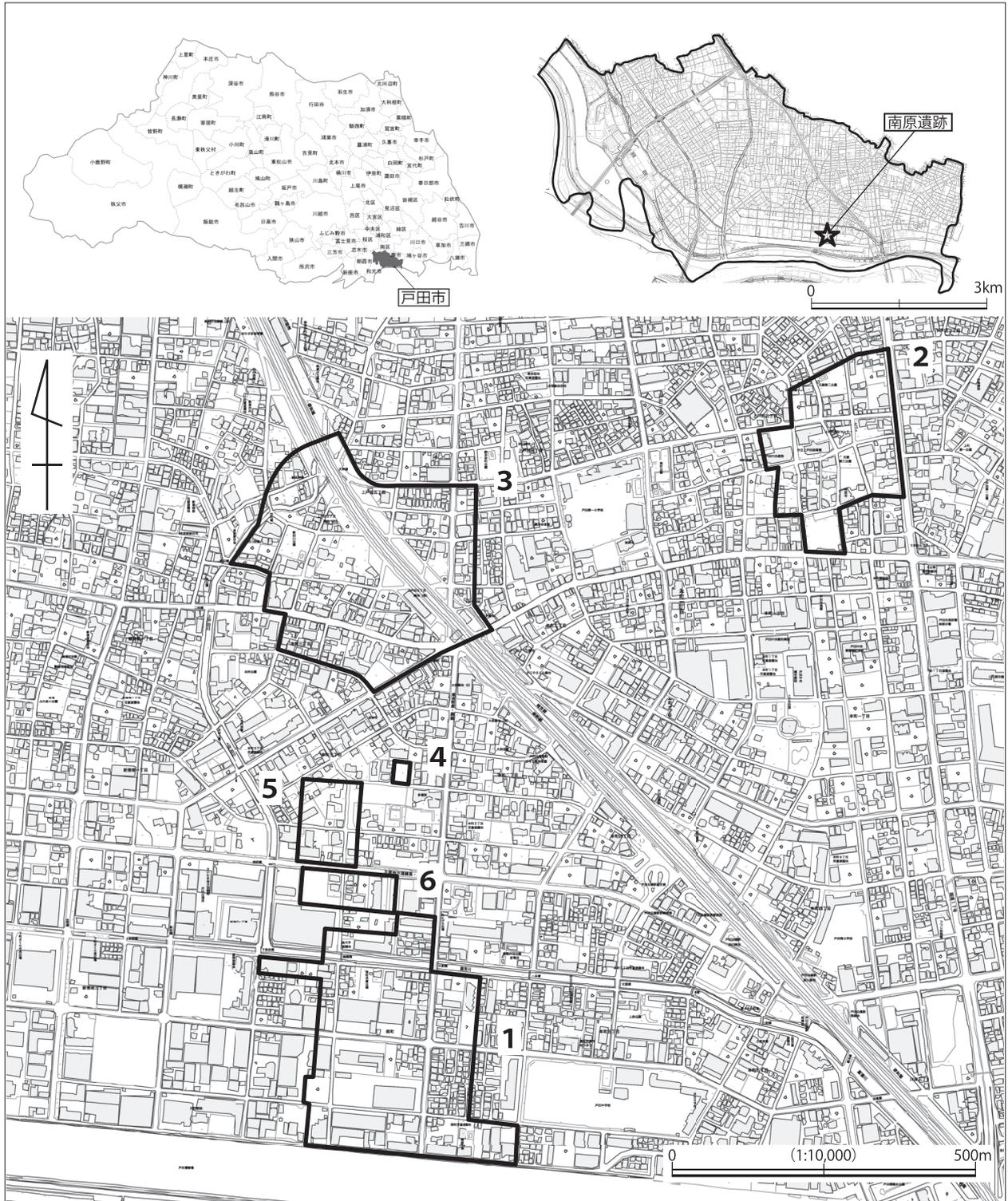
現在は土地区画整理に伴う埋め立てや整地が行われ、倉庫や工場、住宅などが立ち並ぶ平坦な市街地となっている。過去の発掘調査では、遺跡の南東部に南西―北東方向に流れた旧河道（支流）が確認されており、遺跡が立地する微高地を東西に分断していることがわかっている。今回の調査地は南原遺跡のやや北東に所在している。

第2節 歴史的環境

戸田市では旧石器時代の遺構・遺物は確認されておらず、過去の生活の痕跡が見え始めるのは縄文時代からである。現在、縄文時代に帰属する遺跡は確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が確認されている。縄文時代前期では、堤外から前期後葉諸磯a式の破片資料1点が出土しており、本町からは前期末十三菩提式深鉢形土器の大型破片1点が出土している。縄文時代中期では、中葉から後葉にかけての遺物が出土している。鍛冶谷・新田口遺跡では勝坂式や加曽利E式の破片資料の出土が報告されており、南原遺跡でも阿玉台式や加曽利E式期の土器片が微量ながら検出されている。縄文時代後期は、前葉から中葉にかけての遺物が出土されている。鍛冶谷・新田口遺跡では堀之内式、加曽利B式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器破片が出土している。縄文時代後期後葉から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期から古墳時代前期になると、戸田市域の自然堤防上に多くの遺跡が形成されるようになる。弥生時代後期から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上



第2図 戸田市の地形



第3図 南原遺跡及び周辺の遺跡位置図

第1表 南原遺跡周辺遺跡の概要

NO.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉	自然堤防
2	前谷遺跡	戸田市上戸田2丁目	集落跡・城館跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	自然堤防
3	鍛冶谷・新田口遺跡	戸田市上戸田3・5丁目、本町3丁目、大字新曽	集落跡	弥生後期・古墳前期	自然堤防
4	大前遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	自然堤防
5	上戸田本村遺跡	戸田市本町3丁目	集落跡・円墳	古墳後期	自然堤防
6	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	自然堤防

戸田本村遺跡、根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡が検出され、弥生時代から古墳時代に低地に形成された稀有な集落遺跡として、昭和51年に埼玉県選定重要遺跡に選定されている。

上戸田本村遺跡では、2次・3次調査において環濠と思われる溝状遺構と、溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出しているため、遺跡周辺に当該期の環濠集落が存在した可能性が高い。

古墳時代中期の遺構・遺物が検出された遺跡は少なく、南原遺跡2次調査B区で竪穴住居跡3軒、9次調査で井戸跡1基、10次調査で竪穴住居跡1軒と土坑2基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内にはかつて「くまん塚」と呼ばれた古墳が所在した。「くまん塚」は円墳で、墳丘の盛土が僅かに残存していたとされ、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀2振が出土したと言われている。また、上戸田本村遺跡では1次調査において鬼高式期の竪穴住居跡2軒、4次調査において馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が1基（上戸田本村1号墳）検出され、南原遺跡では1・2次調査A区で円墳2基（南原1・2号墳）、3次調査D区で鬼高式期の竪穴住居跡1軒と屋外竈1基、4次調査F区で円墳2基（南原3・4号墳）、6次調査で円墳1基（南原5号墳）、8・9次調査で円墳2基（南原6・7号墳）が検出されている。なお、過去の調査で確認されている埴輪を伴う古墳は、上戸田本村1号墳、南原1号墳、南原7号墳であり、人物埴輪、馬形埴輪、家形埴輪、靴形埴輪、円筒埴輪が出土している。

平安時代では、南原遺跡や鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、ピット列等が検出されている。前谷遺跡では2・4次調査において瓦塔片が出土しており、9世紀頃に調査区周辺に仏堂施設を有する集落が存在していた可能性が指摘されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部の地域がかつての佐々目郷（篠目・笹目）に該当し、鎌倉鶴岡八幡宮の社領であったことが文献史料からわかっている。当該期では、大前遺跡や前谷遺跡、上戸田本村遺跡、南原遺跡、南町遺跡、美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡や溝状遺構、井戸跡が検出されている。前谷遺跡や南原遺跡、上戸田本村遺跡からは断面が葉研形の溝状遺構が検出されていることから、『新編武蔵国風土記稿』の桃井播磨守の居城であったとされる「戸田の御所」との関連が指摘されるが、未だその明確な位置や検出された遺構との関係性については明らかになっていない。

近世は、戸田市域の大半の村々が幕府の直轄領であり、徳川家の鷹場として使用されていたことがわかっている。また、江戸五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡るための「戸田の渡し」が板橋宿と蕨宿を結ぶ交通の要衝として機能していたことが文献資料からわかっている。

第3節 遺跡・調査の概要

南原遺跡は、本調査を含めてこれまでに13回に渡る発掘調査が行われ、弥生時代後期後半から近世に渡る複合遺跡であることがわかっている。この中でも遺跡が形成された中心時期は、弥生時代後期後半から古墳時代前期、古墳時代後期の2つの時期である。特に、古墳時代後期では遺跡の西側に群集墳が築造され、小規模な円墳が合計8基検出されている。

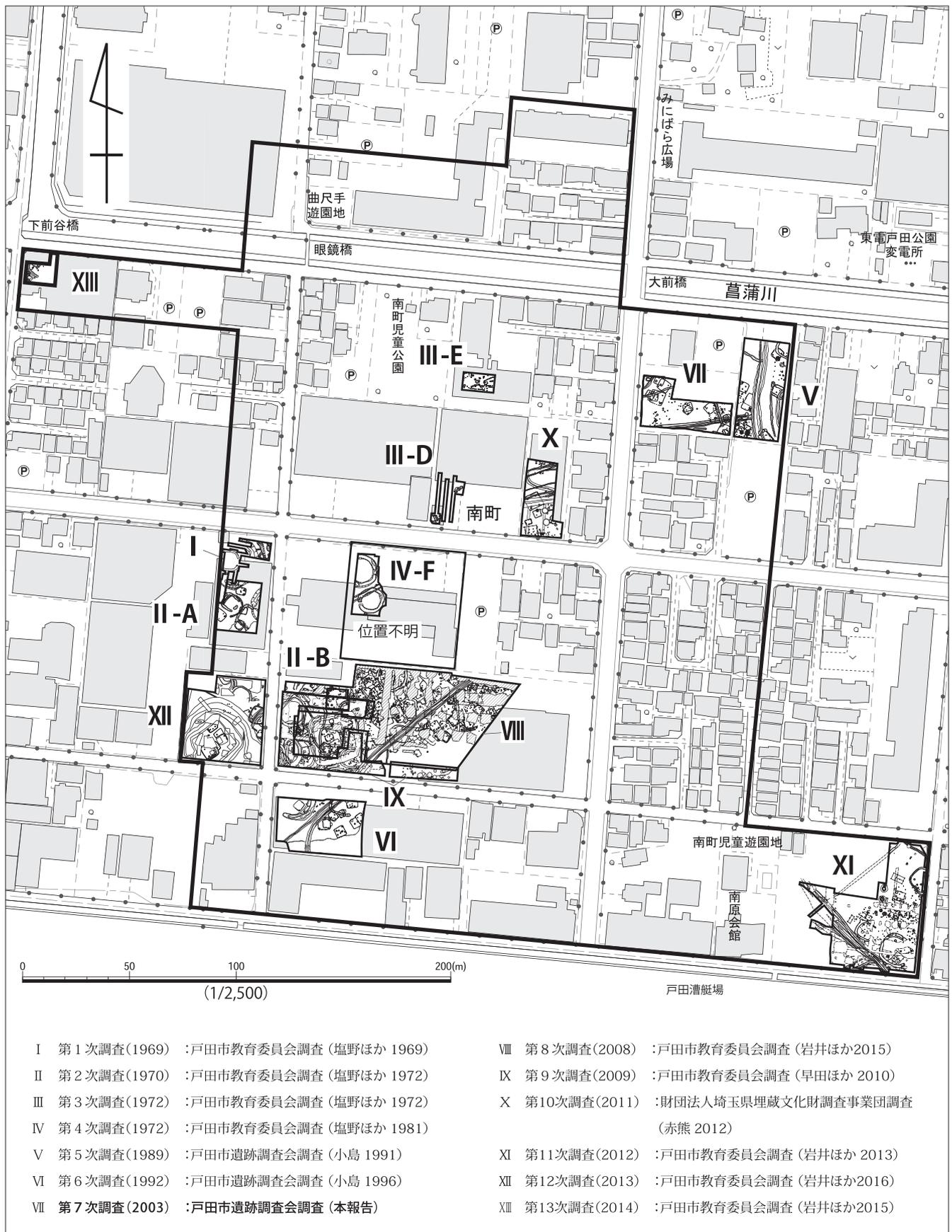
第1次調査は、倉庫建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が昭和44年7月26日から8月4日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構1基、古墳時代後期の古墳周溝1基（南原1号墳）、中世の溝状遺構2条を検出した。周溝状遺構からは底部穿孔がなされた壺形土器などが出土しており、「攪乱」と報告がなされているが周溝内側に楕円形の窪みが確認されている。また、古墳周溝からは、鴻巣市生出塚埴輪窯で製作されたものと考えられる人物埴輪や靴形埴輪、円筒埴輪が出土し、戸田市における初めての埴輪出土事例として近隣住民の注目を集めた。

第2次調査は、戸田市教育委員会が昭和45年7月25日から8月5日までの期間で実施した。調査区は、第1次調査区の南方を拡張したA区、第1次調査区の南東にB区の2区が設定された。A区からは、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構4基、竪穴住居跡5軒、第1次調査で検出した古墳周溝の続きを含め古墳周溝2基が検出された。竪穴住居跡5軒のうち2軒からは炭化材や焼土が広範囲から検出されているため、焼失住居であった可能性が考えられている。第1次調査で検出した古墳周溝（南原1号墳）の延長部からの遺物の出土はなかったが、第1号円形周溝墓（南原2号墳）からは鬼高式期の甕形土器が覆土中から2点、周溝周辺からは管玉1点と赤彩された土師器坏が並べて設置された状態で2点出土した。B区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構1基、古墳時代中期の竪穴住居跡3軒が検出された。竪穴住居跡からは和泉式期の台付甕形土器、高环形土器が出土している。なお、2次調査B区は第8次調査、第9次調査において再調査が行われている。

第3次調査は、下水道工事事務所の資材置場建設工事に伴う緊急発掘調査としてD区、今後の宅地化に先立つ事前調査としてE区の2区に渡り、戸田市教育委員会が昭和47年2月14日から2月23日までの期間で実施した。D区からは、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構1基、古墳時代後期の竈をもつ竪穴住居跡1軒と屋外竈1基を検出した。周溝状遺構からは小型埴形土器や頸部に凸帯を有する壺形土器などが出土している。また、竪穴住居跡や、屋外竈からは土師器坏や鞆羽口が出土している。E区からは、ピット列3列と土坑23基が検出された。これらの遺構の性格は不明であるが、第3・4・16・17号土坑からは平安時代の須恵器坏が出土している。

第4次調査は、昭和47年に戸田市教育委員会によって実施された。調査区からは古墳周溝2基（南原3号墳・4号墳）と薬研堀の溝跡1条が検出された。

第5次調査は、平成元年6月26日から9月7日までの期間で、戸田市遺跡調査会が実施した。調査区からは、古墳時代前期の竪穴住居跡11軒、土坑1基、周溝状遺構の可能性のある溝跡1条、中世の堀跡3条、その他時期不明の土坑1基、井戸跡1基、溝状遺構5条、ピット群3群を検出した。竪穴住居跡11軒のうち3軒からは、床面から多量の炭化物が検出されているため、焼失住居であっ



第4図 南原遺跡調査区位置図

た可能性が考えられている。また、周溝状遺構の可能性のある溝状遺構からはガラス小玉が出土している。中世の堀跡は葉研状の断面形状を呈する。常滑産の甕や東播産の甕・壺などが出土していることから、13世紀後半から14世紀に帰属するものであると考えられている。

第6次調査は、倉庫建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市遺跡調査会が平成4年6月25日から8月24日までの期間で実施した。調査区からは、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構1基、竪穴住居跡8軒、古墳時代後期の古墳周溝1基（南原5号墳）、中世の溝状遺構1条、堀跡2条が検出された。検出された竪穴住居跡のうち、3軒は焼失住居である。第2号竪穴住居跡からは赤彩された小型埴形土器が4点出土しており、第3号竪穴住居跡からは頸部に凸帯を有する壺形土器が出土している。また、古墳周溝からは1,200点以上の土器片が大量に出土した。

第8次調査は、共同住宅建設事業に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が平成20年3月28日から同年7月31日までの期間で実施した。調査区からは、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡80軒以上、大型方形周溝墓1基、周溝状遺構7基以上、古墳時代後期の古墳周溝2基などが検出された。このうち、SZ1（南原7号墳）からは人物埴輪、馬形埴輪、円筒埴輪が出土しており、資料の一部を報告している。

第9次調査は、工場建設に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が平成21年7月6日から9月30日までの期間で実施した。調査区からは、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居跡28軒、周溝状遺構13基、古墳時代前期から中期の溝状遺構13条、井戸跡3基、古墳時代後期の古墳周溝2基、中世以降の溝状遺構4条などが検出された。古墳周溝は、8次調査で検出した古墳周溝2基の続き部分が検出され、1号墳（南原6号墳）からは須恵器模倣坏や壺形土器、2号墳（南原7号墳）からは人物埴輪、馬形埴輪（8次調査出土資料と同一個体）、家形埴輪、円筒埴輪、朝顔形埴輪などが出土した。

第10次調査は、共同住宅建設事業に伴う緊急発掘調査として、公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団が平成23年10月1日から11月30日までの期間で実施した。調査区からは古墳時代中期の竪穴住居跡1軒、土坑2基、平安時代の竪穴住居跡2軒、土坑3基、溝状遺構1条、中近世の掘立柱建物跡1棟、土坑3基、井戸跡5基、溝跡10条、ピット66基が検出された。古墳時代中期の竪穴住居跡では、壁溝周辺からまとめて高環形土器が6点出土した。また、平安時代の竪穴住居跡、土坑からは9世紀前半の須恵器が出土した。

第11次調査は、共同住宅建設事業に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が平成24年9月3日から10月31日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構3基、溝状遺構1条、平安時代から中世の掘立柱建物跡6棟、柵列跡4列、井戸跡8基、溝状遺構6条、土坑31基、ピット273基、近世以降の溝状遺構2条を検出した。出土遺物は少なかったが、検出された周溝状遺構3基は全てが南東方向に開口部を持つなどの規則性を有している。また、井戸跡からは、13世紀から14世紀を中心とした常滑産の陶器や中国磁器などが出土した。

第12次調査は、宅地造成および戸建分譲住宅建設事業に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が平成25年4月2日から6月29日までの期間で実施した。調査区からは古墳時代前期の竪穴住居跡8軒、溝状遺構6条、土坑2基、方形周溝墓1基、古墳時代後期の円墳1基、平安時代の溝状遺構5条、火葬墓1基を検出した。古墳時代前期の方形周溝墓からは土器が集中的に出土し、また、同

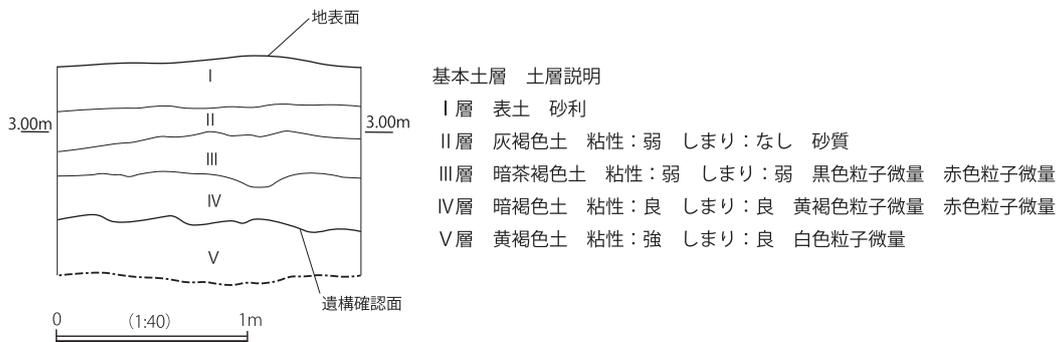
遺構より緑色凝灰岩製の勾玉も1点出土している。古墳時代後期の円墳である第1号墳(南原8号墳)からは、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土している。

第13次調査は、共同住宅建設事業に伴う緊急発掘調査として、戸田市教育委員会が平成26年8月20日から9月6日までの期間で実施した。調査区からは、古墳時代前期の竪穴住居跡4基、周溝状遺構3基、ピット6基を検出した。第1号住居跡は焼失住居であり、大型の炭化材が放射状に倒れ込んだ状態で検出された。

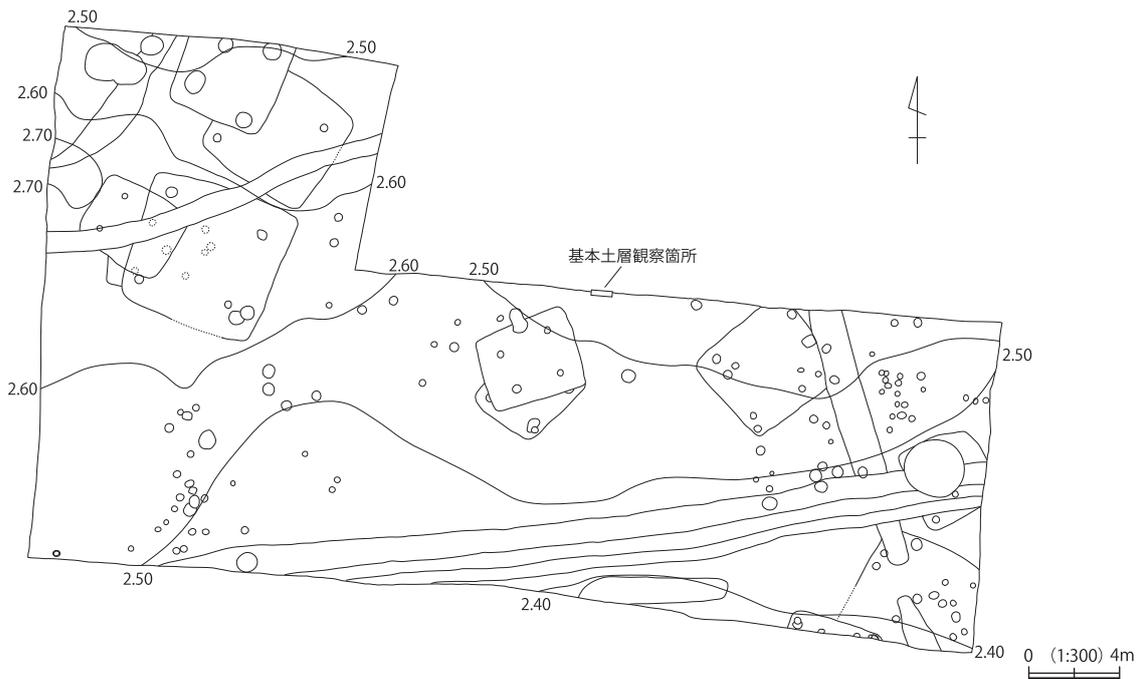
本調査は、第7次目の発掘調査となる。調査区からは弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡11軒、溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡1基、ピット16基、中世の溝状遺構7条、土坑1基、井戸跡1基、ピット5基を検出した。また、時期不明のピット66基を検出した。これらの遺構に伴い、土師器、須恵器、ロクロ土師器、陶器が出土した。竪穴住居の大半は、それぞれ重複して形成されており、居住域として長時間機能していた可能性が指摘できる。

第4節 基本土層

基本土層は、H・4グリッドで観察した（第5・6図、図版8-2）。地表面の標高は概ね3.4m前後である。表土層から深さ1.2m下までの堆積層を5層に細分した。I層は砂利を主体とした表土層である。現代の攪乱の影響を受けている。II層は砂質の灰褐色土である。粘性弱く、しまりなし。III層は暗茶褐色土層である。粘性・しまり共に弱い。II層は土層注記に含有物についての記載がなく、生成要因は不明である。IV層は暗褐色土層であり、粘性・しまり共にあり。黄褐色粒子・赤色粒子をわずかに含む。V層は黄褐色土である。粘性強く、しまりあり。白色粘土粒子をわずかに含む。本層の上面が遺構確認面であり、標高は概ね2.5~2.7mを測る。西から東へ緩やかに傾斜しており、顕著な地形の起伏はみられない。南原遺跡の他の調査地点では、V層の下層に砂層が堆積しており、本調査地点でも同様の堆積状況である可能性が高いが、V層より下層は記録されておらず、詳細は不明である。IV・V層は自然堆積層と考えられる。



第5図 基本土層図



第6図 調査区内等高線図



- 01：第1号竖穴住居跡 02：第2号竖穴住居跡 03：第3号竖穴住居跡 04：第4号竖穴住居跡
 05：第5号竖穴住居跡 06：第6号竖穴住居跡 07：第7号竖穴住居跡 08：第8号竖穴住居跡
 09：第9号竖穴住居跡 10：第10号竖穴住居跡 11：第11号竖穴住居跡 12：第1号溝状遺構
 13：第2号溝状遺構 14：第3号溝状遺構 15：第4号溝状遺構 16：第5号溝状遺構
 17：第6号溝状遺構 18：第7号溝状遺構 19：第8号溝状遺構 20：第1号土坑
 21：第2号土坑 22：第3号土坑 23：第1号井戸跡 24：第2号井戸跡

第7図 調査区全体図

第3章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と遺物

1 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡—SI01

遺構（第8・9図、図版2-1、4-2）

位置：C・D・E-1・2・3。

重複関係：SI02、SD07に切られる。平面形・規模：全体形状はやや歪んだ隅丸方形である。長軸5.45m、短軸5.25mを測る。遺構確認面からの深さは約0.10mであり、堆積は薄い。

主軸方向：N-30°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2カ所で覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。また、住居跡内の南東角で焼土及び炭化物を検出した。

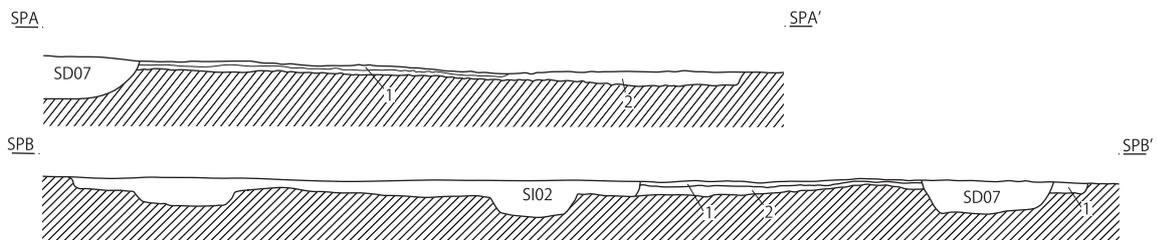
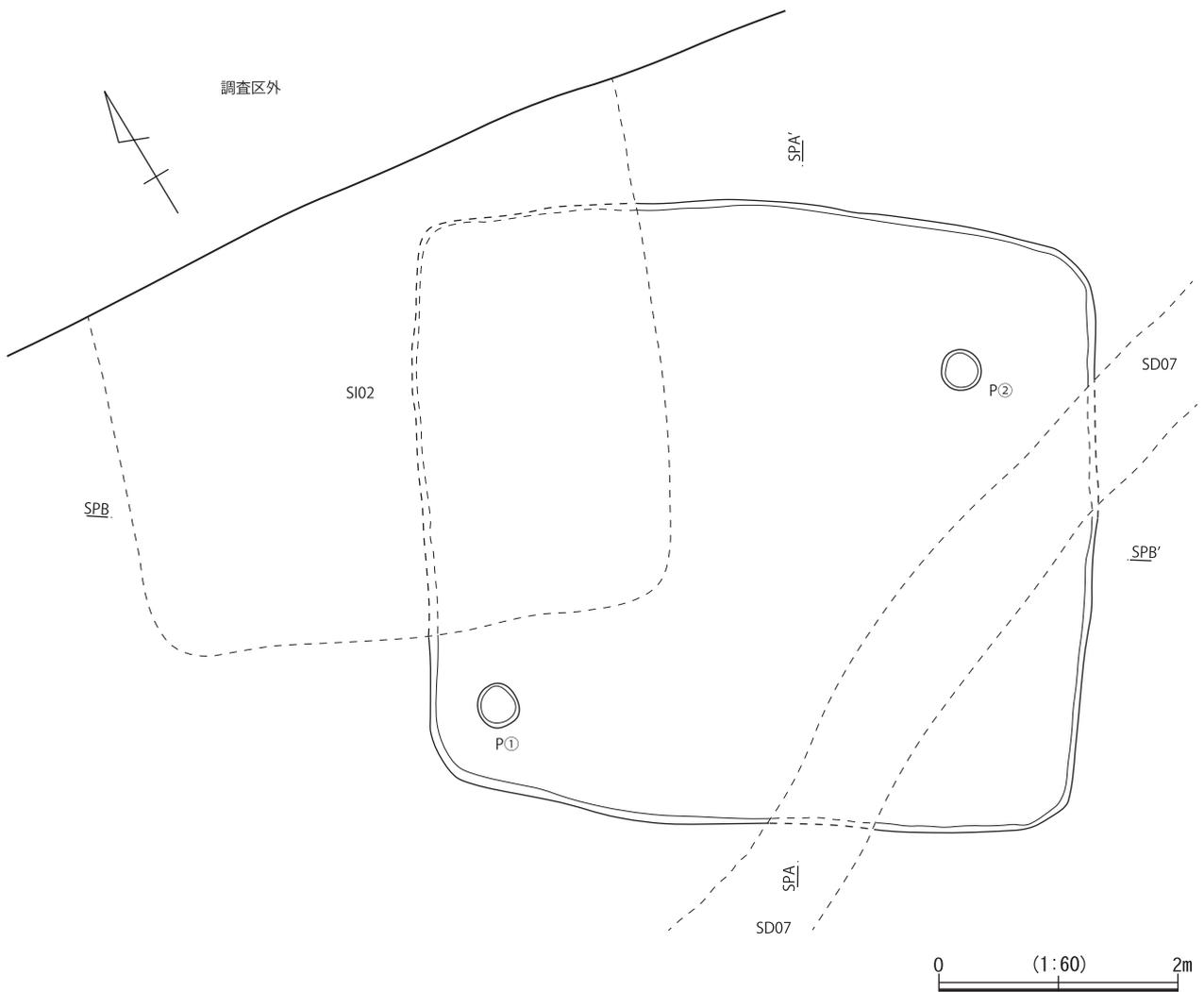
付属遺構：ピット2基を確認し、どちらも支柱穴の可能性が考えられる。他にも柱穴があった可能性があるが、SI02およびSD07により掘削されており、詳細は不明である。

遺物（第9～11図、第2・3表、図版9）

出土状況：本遺構から331点、総重量2,461.4gが出土した。土師器321点（1,962.7g）、ロクロ土師器8点（49.1g）、礫2点（449.6g）である。そのうち、9点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SI01 土層説明

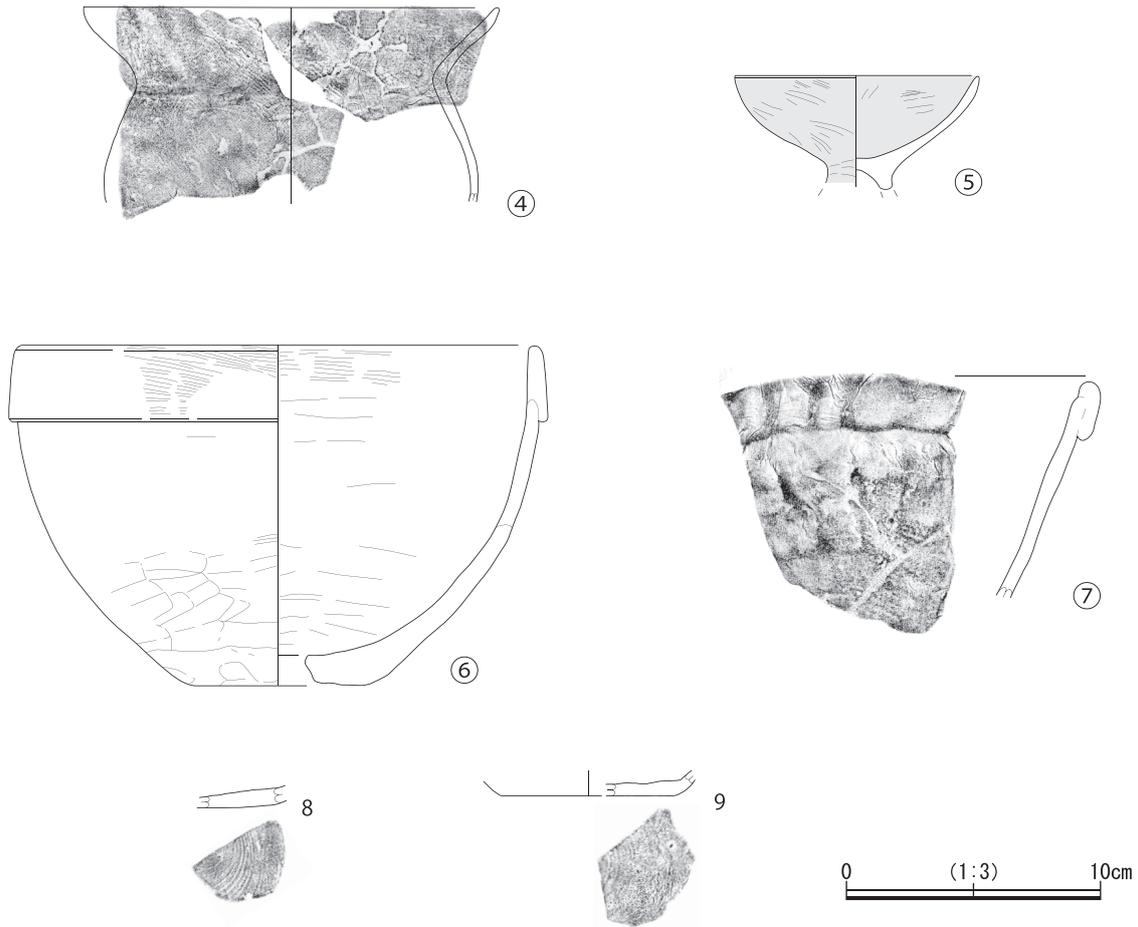
SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子 炭化物微量

SPB-SPB'

- 1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子微量

第8図 第1号竪穴住居跡実測図 (SI01)



第11図 第1号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI01) (2)

第2表 第1号竪穴住居跡出土遺物観察表 (1)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
10-1 9-SI01-1	SI01	土師器 壺形	胴部	—	30.4	外面 ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ1~2mm赤色粒子少量 φ1mm以下金雲母片少量	良	外面 褐(7.5YR4/3) 内面 にぶい橙(7.5YR6/4)			
10-2 9-SI01-2	SI01	土師器 壺形	底部	—	24.6	外面 ヘラナデ(横) 内面 ナデ	φ2mm白色粒子微量 φ1mm以下褐色粒子中量	やや良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 橙(7.5YR6/6)			
10-③ 9-SI01-③	SI01	土師器 壺形	底部	[1.8] [8.5]	109.0	外面 ヘラナデ(横) 底面:木葉痕 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下赤色粒子少量 φ1~2mm黒色粒子少量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい橙(5YR7/4)	底面:木葉痕		
11-④ 9-SI01-④	SI01	土師器 甕形	口縁部	[16.2] —	58.5	外面 ハケメ(斜め)→ナデ 内面 ヘラナデ→ナデ	φ3~5mm赤色粒子中量 φ2mm黒色粒子少量	やや良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 橙(7.5YR7/6)			
11-⑤ 9-SI01-⑤	SI01	土師器 高环形	口縁部 ~脚部	9.5 [4.4] —	(58.3)	外面 ハケメ(縦・斜め)→ヘラナデ 内面 ハケメ(横)→ヘラナデ	φ1~3mm赤色粒子中量 φ1mm白色粒子微量	良	外面 橙(5YR6/8) 内面 橙(2.5YR6/8)	内外面赤彩		
11-⑥ 9-SI01-⑥	SI01	土師器 甕形	口縁部 ~底部	[21.0] 13.4 7.0	(1069.1)	外面 口縁部ハケメ 胴部ハケメ →ヘラミガキ 胴部下半~ 底部ヘラケズリ 内面 口縁部ハケメ 胴部ヘラナ デ	φ2~3mm赤色粒子微量 φ1mm褐色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR6/3) 内面 灰黄褐(10YR6/2)			
11-⑦ 9-SI01-⑦	SI01	土師器 甕形	口縁部 ~胴部	—	60.6	外面 指頭による押圧→ヘラケズリ (横) 内面 指頭による押圧→ヘラケズリ (横)	φ1~2mm赤色粒子少量	良	外面 橙(2.5YR6/6) 内面 赤橙(10YR6/6)	器面やや摩滅		

第3表 第1号竖穴住居跡出土遺物観察表(2)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
11-8 9-SI01-8	SI01	ロクロ 土師器 环形	底部	—	7.4	底部回転糸切痕	φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子少量 φ3mm黒色粒子微量	やや 良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 橙(5YR6/6)	
11-9 9-SI01-9	SI01	ロクロ 土師器 环形	底部	— [6.9]	9.8	底部回転糸切痕	φ1mm以下赤色粒子中量 φ1mm以下褐色粒子中量 φ3mm黒色粒子微量	やや 良	外面 橙(5YR7/6) 内面 橙(5YR7/6)	

第2号竖穴住居跡-SI02

遺構(第12図 図版2-2、4-2)

位置:C・D-1・2

重複関係:SI01を切る。

平面形・規模:北東側が調査区外に位置しているため全体が不明であるが、やや歪んだ隅丸方形である。長軸4.30m以上、短軸4.45m以上を測る。遺構確認面からの深さは約0.25mである。

主軸方向:N-20°-E

覆土:SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察した。5層に分層し、人為的か自然堆積かは不明。

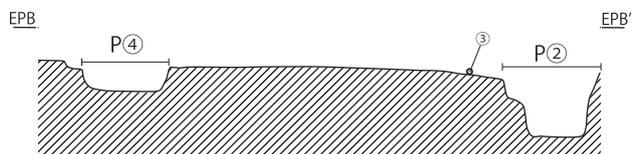
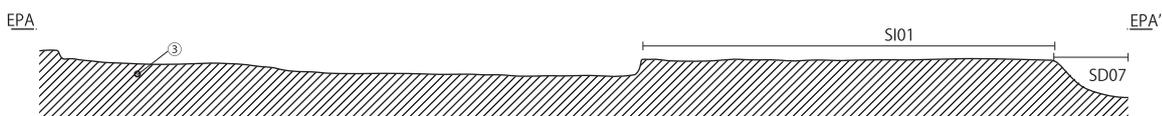
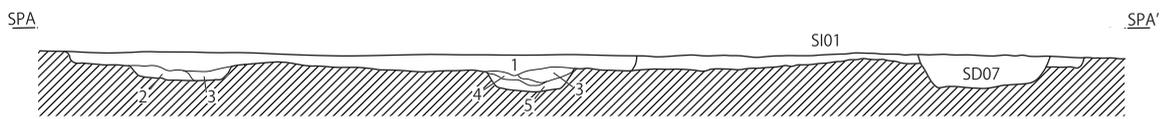
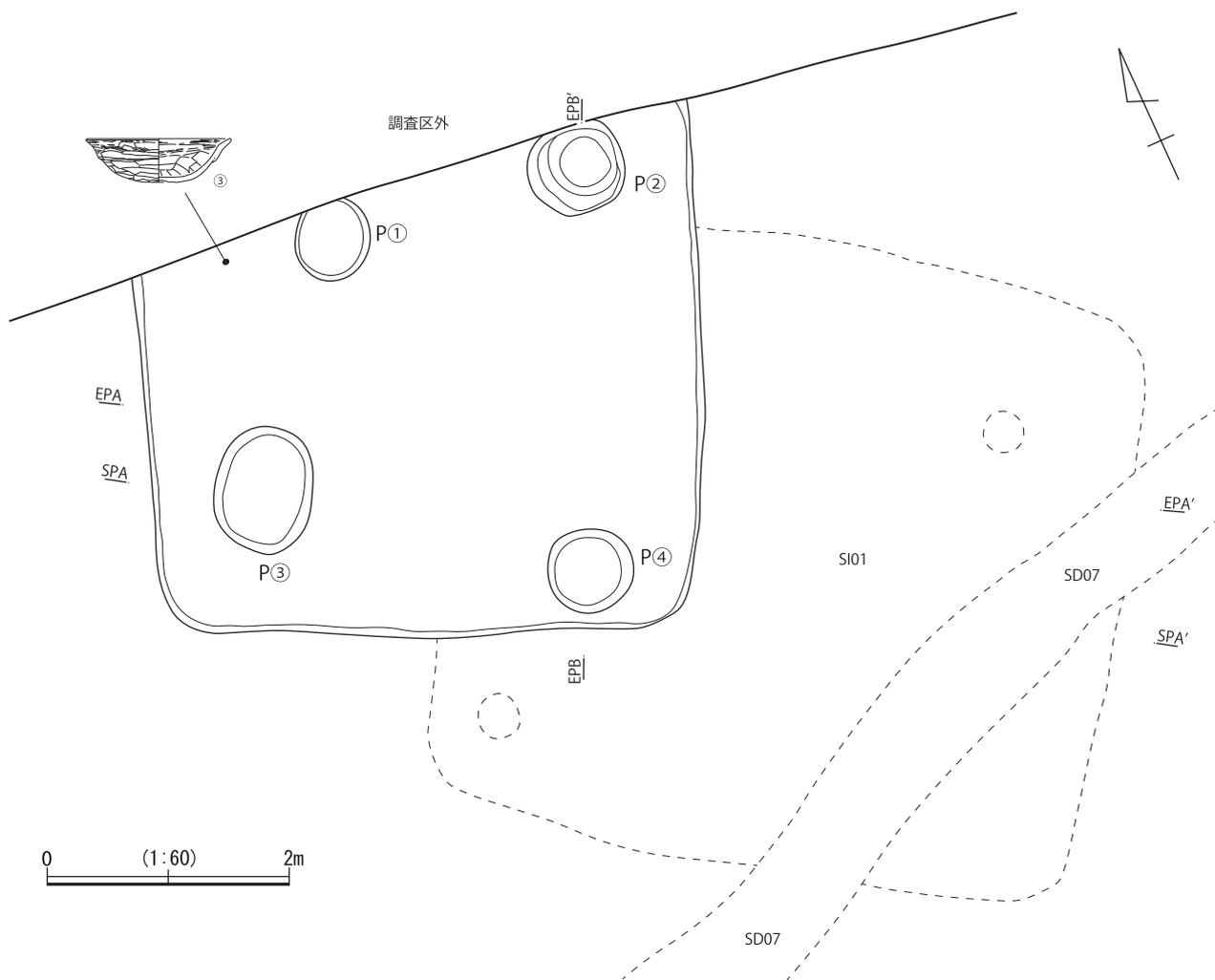
付属遺構:ピット4基を確認し、いずれもSI01のピットより規模が大きく、主柱穴である可能性は低いと考えられる。

遺物(第13図、第4表、図版9)

出土状況:本遺構から170点、総重量871.2gが出土した。土師器150点(589.6g)、ロクロ土師器11点(138.4g)、須恵器6点(115.4g)、陶器1点(19.9g)、礫2点(7.9g)である。そのうち、8点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。

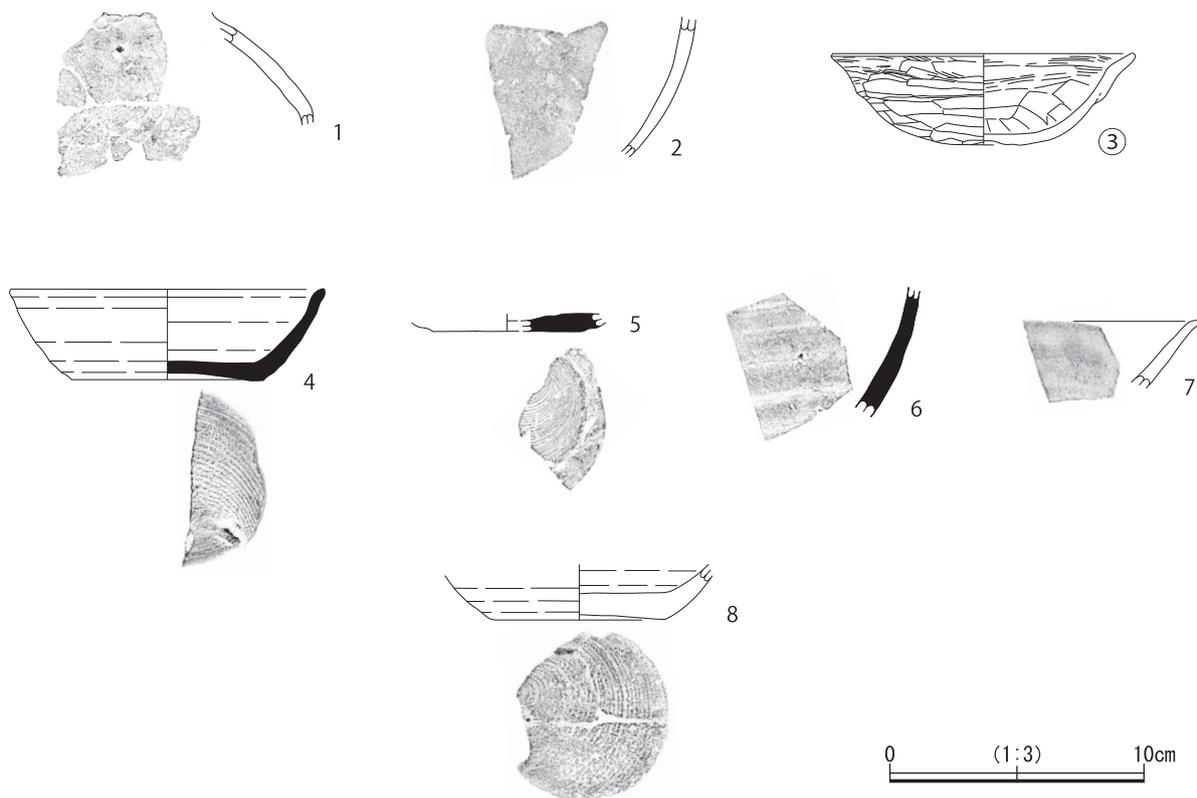


SI02 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子をやや多く含む
- 2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：弱 黄褐色粒子 焼土粒子をわずかに含む
- 3層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子を多く、焼土粒子をわずかに含む
- 4層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子をわずかに含む
- 5層 黄褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子 小・中ブロックを多く含む

第12図 第2号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI02)



第13図 第2号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI02)

第4表 第2号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調		備考
									外面	内面	
13-1 9-SI02-1	SI02	土師器 壺形	胴部 上半	—	26.1	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1~2mm赤色粒子微量 φ2~5mm褐色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR6/3) 内面 黒褐(10YR3/1)		
13-2 9-SI02-2	SI02	土師器 甕形	胴部	—	15.7	外面 ヘラナデ(横)→ナデ 内面 ナデ	φ1~3mm赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子少量 φ1~2mm褐色粒子微量	やや 良	外面 にぶい橙(2.5YR6/3) 内面 浅黄橙(10YR8/4)		
13-③ 9-SI02-③	SI02	土師器 鉢形	完形	11.8 3.6 1.8	(94.4)	外面 口縁部ハケメ→ヘラナデ 胴部下半ヘラケズリ 内面 口縁部ハケメ 胴部下半ハ ケメ→ヘラナデ	φ5mm赤色粒子少量 φ2~3mm黒色粒子多量 φ1mm以下白色粒子極微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 橙(7.5YR6/6)		
13-4 9-SI02-4	SI02	須恵器 环形	口縁部 ~底部	[12.3] 3.6 [7.6]	69.8	ロクロ成形 底部回転糸切痕	φ1~3mm褐色粒子少量 φ3mm褐色粒子微量	良	外面 灰(7.5Y5/1) 内面 灰(5Y5/1)	東金子か	
13-5 9-SI02-5	SI02	須恵器 环形	底部	— — [5.7]	14.9	ロクロ成形 底部回転糸切痕	φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子微量	良	外面 灰(7.5Y5/1) 内面 灰(N6/)	東金子か	
13-6 9-SI02-6	SI02	須恵器 甕形	胴部	—	24.6	ロクロ成形	φ1~3mm白色粒子少量 φ1mm黒色粒子微量	良	外面 灰(7.5Y5/1) 内面 灰(N6/)		
13-7 9-SI02-7	SI02	ロクロ 土師器 环形	口縁部	—	6.4	ロクロ成形	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm褐色粒子微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		
13-8 9-SI02-8	SI02	ロクロ 土師器 环形	底部	— [2.2] [6.8]	60.6	ロクロ成形 底部回転糸切痕	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm赤色粒子微量	やや 良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 橙(5YR6/8)		

第3号竪穴住居跡—SI03

遺構（第14図、図版3-1、4-2）

位置：B・C・D-3・4

重複関係：SI05を切り、SI04、SD07に切られる。

平面形・規模：やや歪んだ隅丸方形である。長軸6.75m、短軸6.40mを測る。遺構確認面からの深さは約0.20mである。南側を攪乱により部分的に破壊されていた。

主軸方向：N-23°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2カ所で覆土を観察した。4層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。住居内の北東側で焼土及び炭化物を検出した。

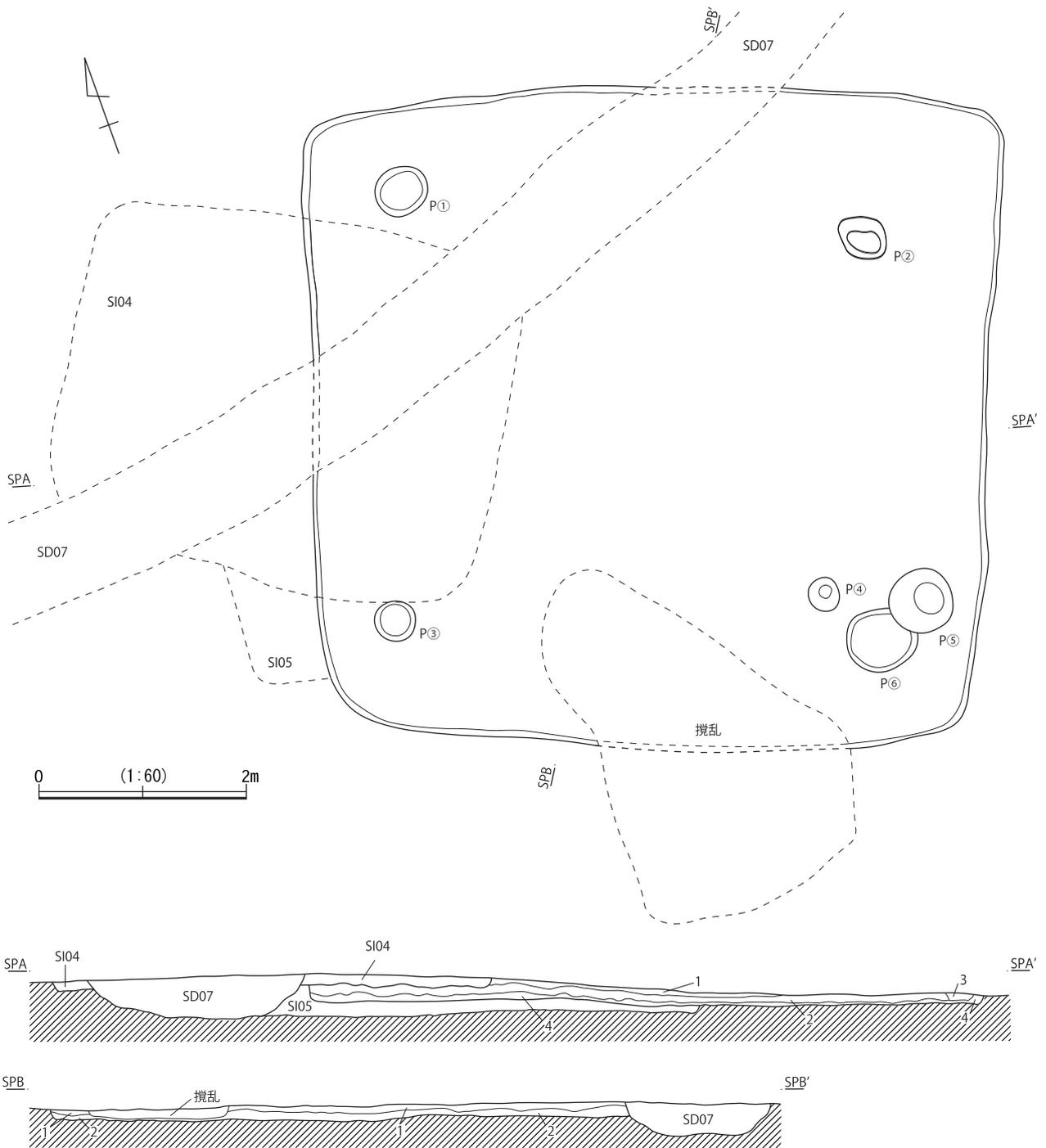
付属遺構：ピット6基を確認した。ピット4を除いて、いずれも主柱穴であると考えられる。

遺物（第15・16図、第5表、図版3-2、9）

出土状況：本遺構から437点、総重量4,188.1gが出土した。土師器425点（2,717.5g）、ロクロ土師器4点（32.3g）、須恵器2点（2.9g）、陶器3点（14.5g）、叩石1点（1,342.6g）、礫2点（78.3g）である。そのうち、12点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SI03 土層説明

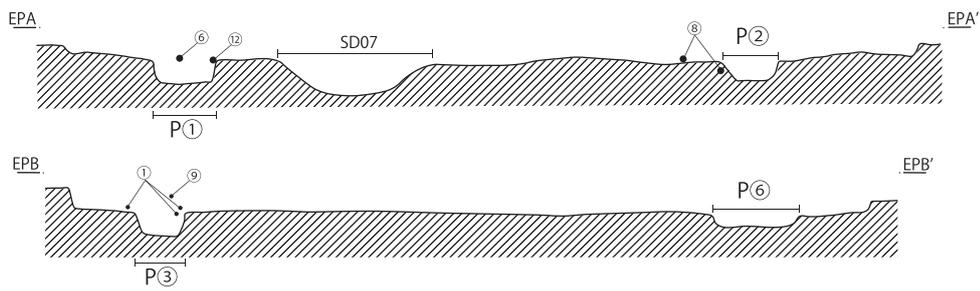
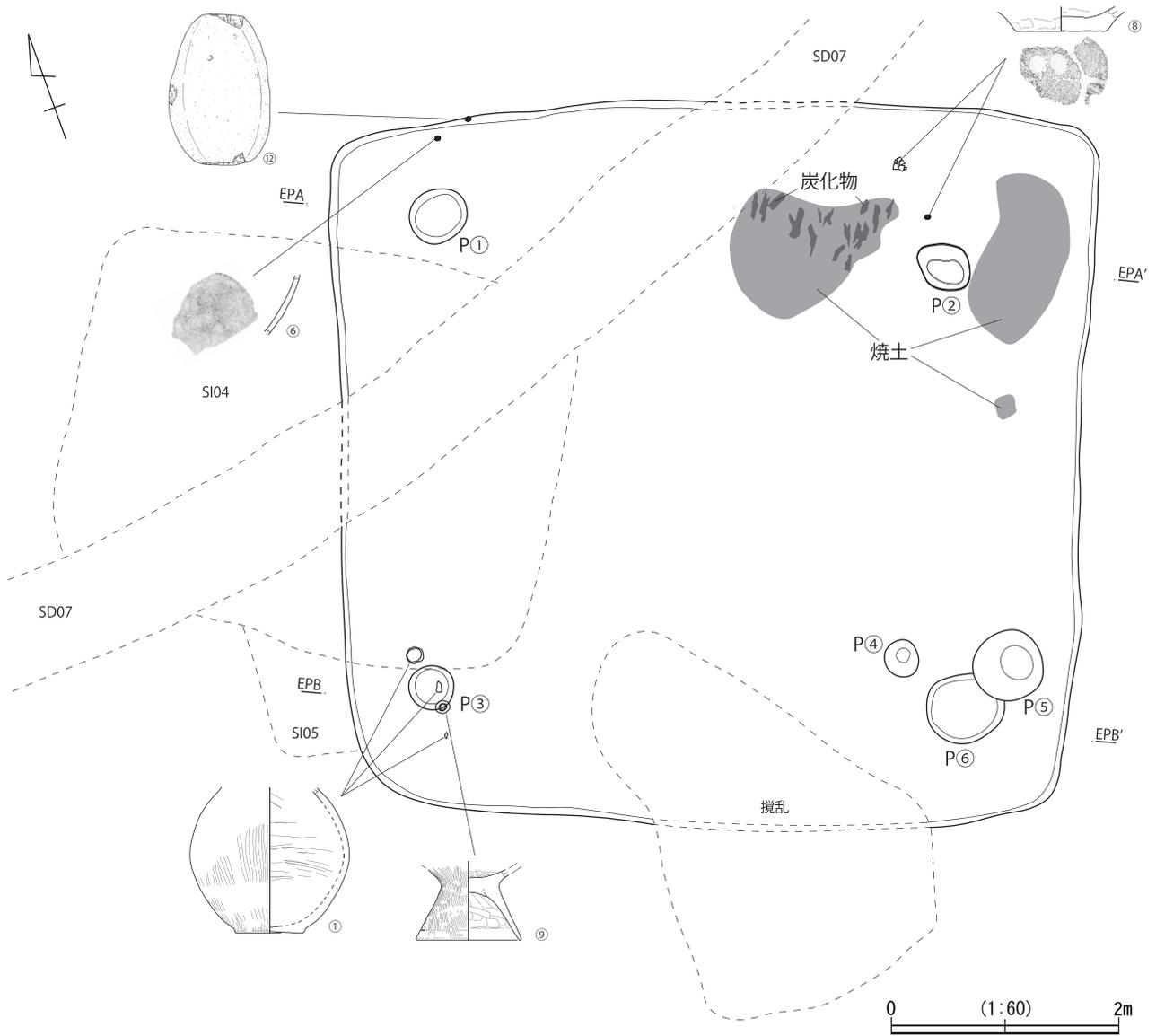
SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 赤色粒子微量 黄褐色粒子多量
- 2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 赤色粒子中量 黄褐色小ブロック多量 黄褐色大ブロック微量 炭化物微量
- 3層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 焼土粒子多量 黄褐色小ブロック多量 炭化物多量
- 4層 暗黄褐色土(粘土質) 粘性：良 しまり：良 黒色小ブロック中量

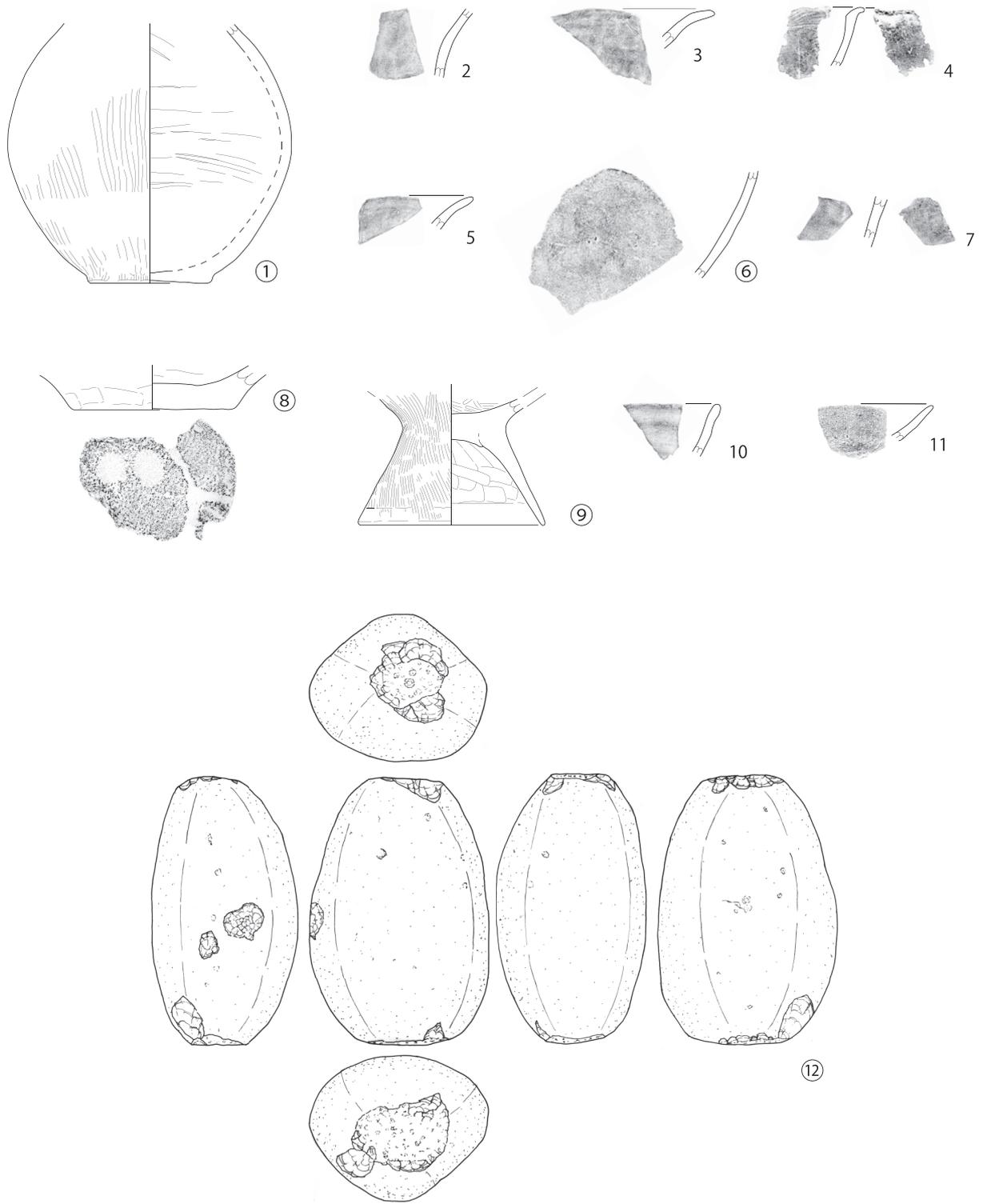
SPB-SPB'

- 1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子微量 黄褐色小ブロック微量
- 2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 赤色粒子微量 炭化物微量 黄褐色小・大ブロック微量 黄褐色粒子多量

第14図 第3号竪穴住居跡実測図 (SI03)



第15図 第3号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI03)



0 (1:3) 10cm

第16图 第3号竖穴住居跡出土遺物実測図 (SI03)

第5表 第3号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
16-① 9-SI03-①	SI03	土師器 壺形	胴部 上半～ 底部	— [12.9] 6.0	(423.0)	外面 ハケメ→ヘラミガキか 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下赤色粒子多量 φ3mm小礫極微量 φ2mm黒色粒子微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR7/3)	器面摩滅		
16-2 9-SI03-2	SI03	土師器 壺形	口縁部	—	5.9	外面 ハケメ(斜め)→ナデ(縦) 内面 ナデ(縦)	φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 橙(7.5YR7/6)			
16-3 9-SI03-3	SI03	土師器 壺形	口縁部	—	6.3	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 浅黄橙(10YR8/4)			
16-4 9-SI03-4	SI03	土師器 壺形	口縁部	—	4.8	外面 ヘラナデ 内面 口縁：ハケメ(横) 他はヘ ラナデ	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子微量	やや 良	外面 にぶい橙(5YR6/4) 内面 暗赤(10R3/6)	内外面赤彩		
16-5 9-SI03-5	SI03	土師器 壺形	口縁部	—	3.0	外面 ナデ 内面 ナデ	φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面 橙(2.5YR6/8) 内面 橙(7.5YR6/6)	外面赤彩		
16-⑥ 9-SI03-⑥	SI03	土師器 壺形	胴部	—	27.8	外面 ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1～2mm白色粒子微量 φ1mm黒色粒子少量	やや 良	外面 明赤褐(2.5YR5/8) 内面 赤褐(2.5YR4/8)	外面部分的に 黒斑あり		
16-7 9-SI03-7	SI03	土師器 壺形	胴部	—	3.4	外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ 部分的にハケメ	φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面 橙(5YR6/6) 内面 橙(7.5YR7/6)			
16-⑧ 9-SI03-⑧	SI03	土師器 壺形	底部	— [2.2] [7.6]	100.7	外面 ヘラケズリ(横) 内面 ナデか	φ1mm以下褐色粒子少量 φ1～2mm黒色粒子微量	やや 良	外面 橙(5YR7/6) 内面 にぶい橙(7.5YR6/4)			
16-⑨ 9-SI03-⑨	SI03	土師器 台付甕形	脚部	— [7.0] 9.2	198.1	外面 ハケメ(縦) 脚部末端にナ デ 内面 ヘラナデ(縦→横)	φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下白色粒子中量	良	外面 橙(5YR6/8) 内面 橙(5YR6/6)			
16-10 9-SI03-10	SI03	ロクロ土 師 环形	口縁部	—	3.4	ロクロ成形	φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR7/4)			
16-11 9-SI03-11	SI03	ロクロ土 師 环形	口縁部	—	4.4	ロクロ成形	φ3mm黒色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子少量 φ1～2mm赤色粒子微量	良	外面 浅黄橙(10YR8/3) 内面 にぶい黄橙(10YR7/3)			
16-⑫ 9-SI03-⑫	SI03	叩石	完形	—	1342.6	楕円形の円礫を利用 上下両端 に敲打痕が顕著、砂岩。 長さ13.3cm、幅8.8cm、厚さ7.3cm	—	—	外面 — 内面 —			

第4号竪穴住居跡-SI04

遺構(第17図、図版4-2)

位置：B・C-3・4

重複関係：SI03、SI05を切り、SD07に切られる。

平面形・規模：やや歪んだ隅丸方形である。長軸4.25m、短軸3.60mを測る。遺構確認面からの深さは約0.10mであり、堆積は薄い。

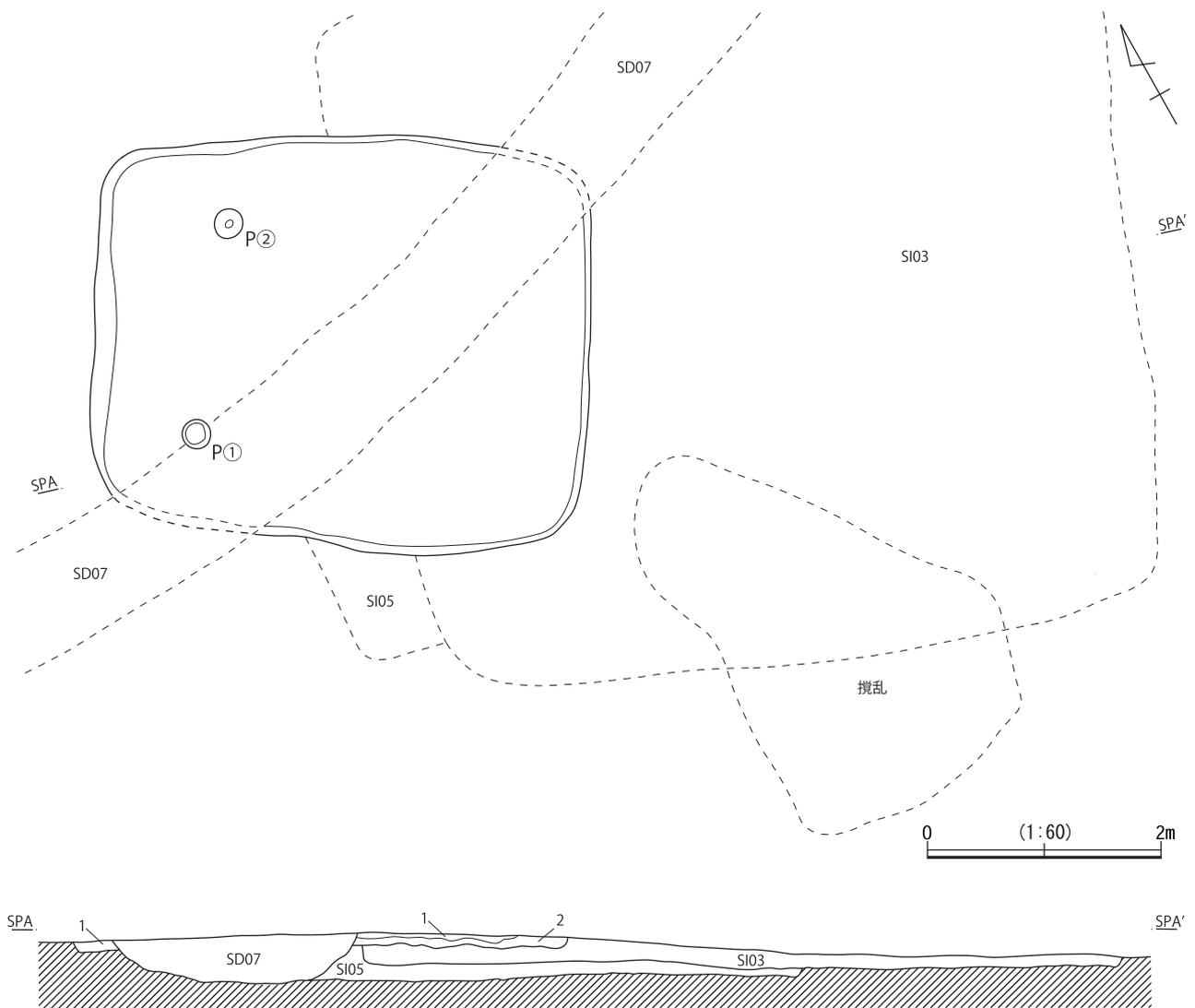
主軸方向：N-30°-E

覆土：SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察し、2層に分層した。遺構内の覆土は自然堆積によるものと考えられる。

付属遺構：ピット2基を確認し、支柱穴と考えられる。

遺物(第18・19図、第6表 図版3-3、10)

出土状況：本遺構の北側角から土師器6個体がまとまって出土した。本遺構から117点、総重量



SI04 土層説明

SPA-SPA'

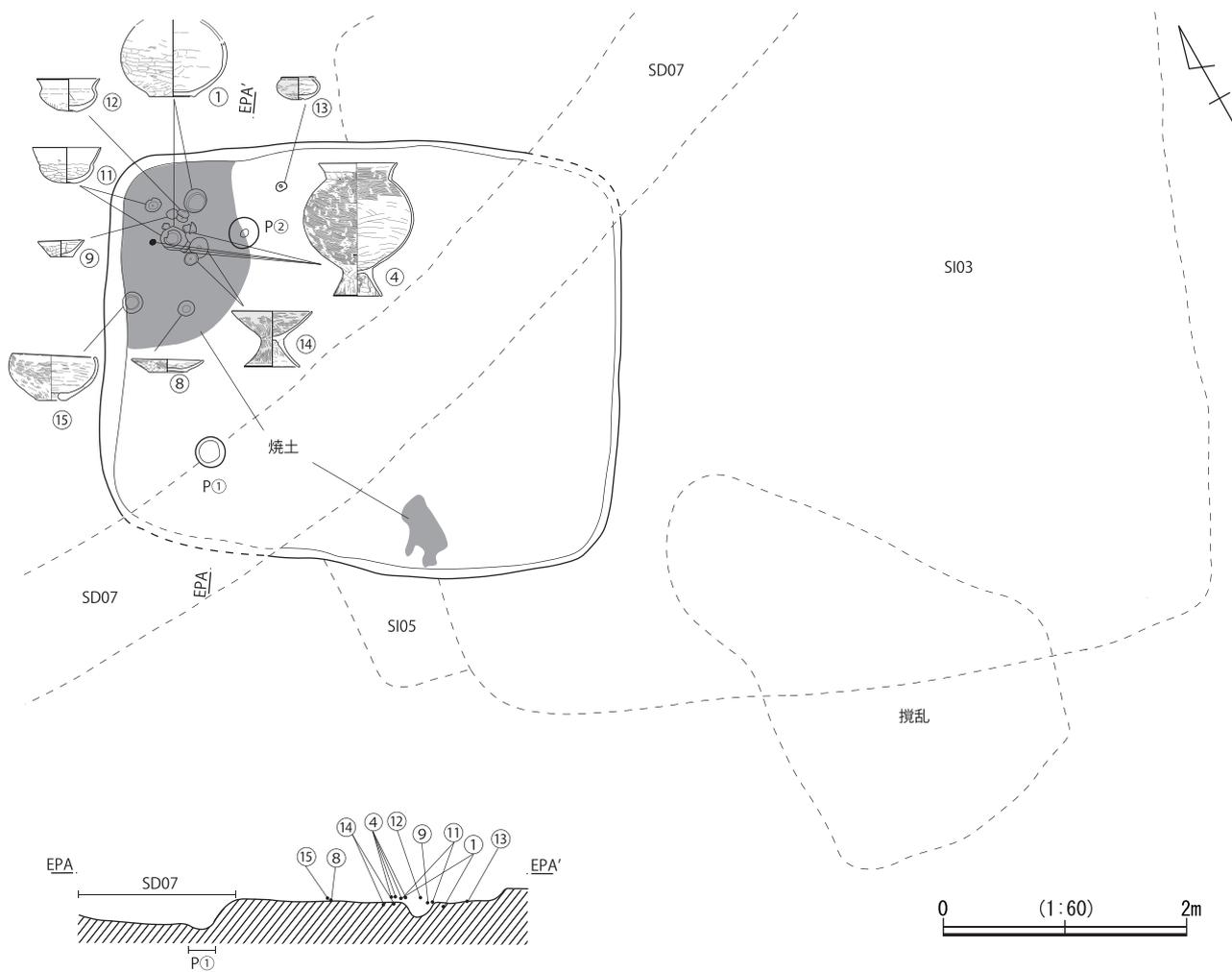
- 1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：弱 赤色粒子微量 黄褐色粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：強 赤色粒子微量 黄褐色小ブロック微量

第17図 第4号竪穴住居跡実測図 (SI04)

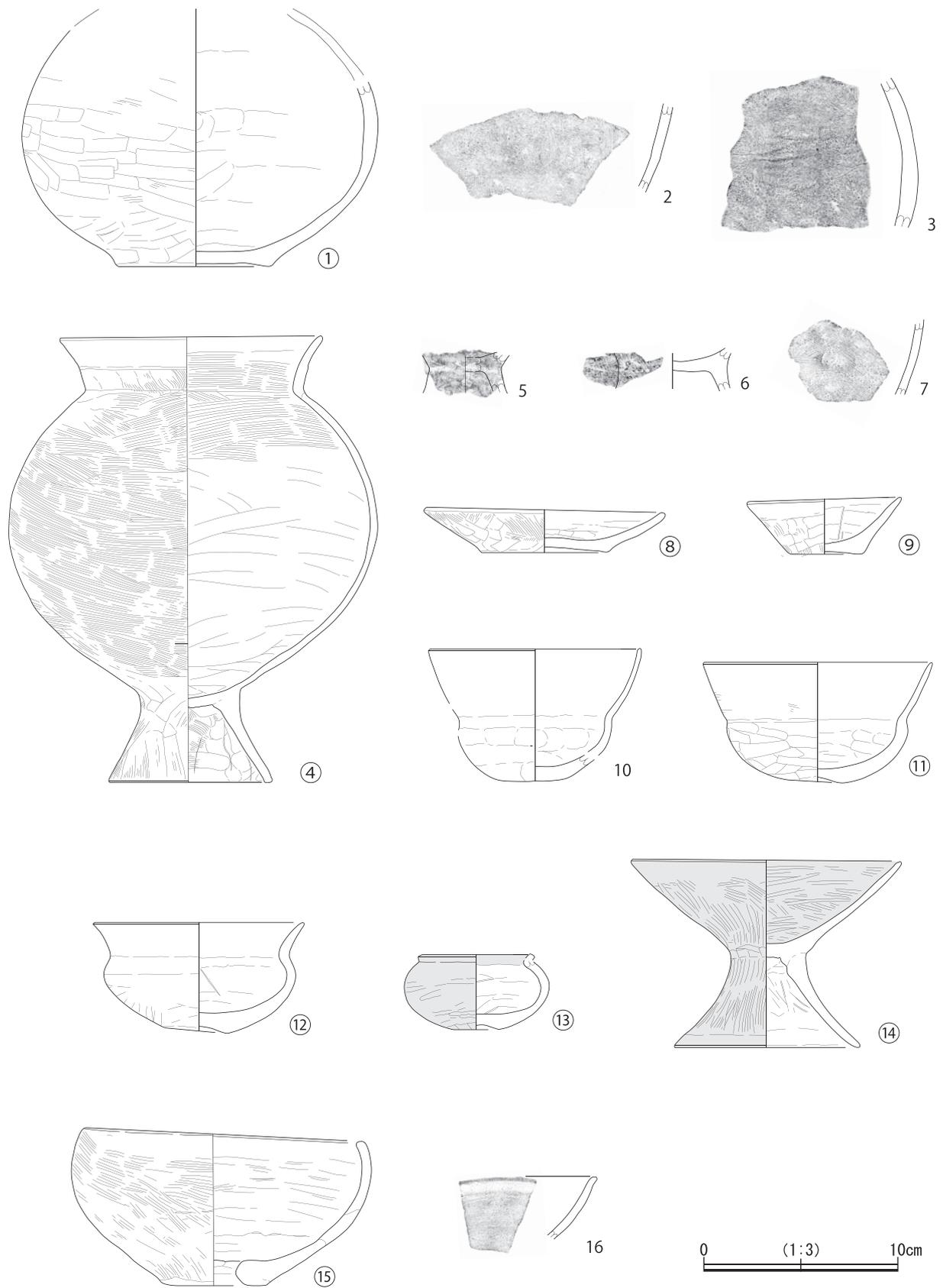
3,116.3gが出土した。土師器113点 (3,105.0g)、ロクロ土師器3点 (10.4g)、須恵器1点 (0.9g) である。そのうち16点を図化した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第18图 第4号竖穴住居跡遺物出土状況図 (SIO4)



第19図 第4号竖穴住居跡出土遺物実測図 (SI04)

第6表 第4号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
19-① 10-SI04-①	SI04	土師器 壺形	胴部 上半～ 底部	— [12.2] 8.0	(717.2)	外面 ハケメ(横)→ヘラケズリ	内面 ヘラナデ	φ2mm赤色粒子微量 φ1mm黒色粒子少量	良	外面 橙(2.5YR6/6)	内面 橙(2.5YR6/8)	器面摩滅
19-② 10-SI04-②	SI04	土師器 壺形	胴部	—	29.5	外面 ヘラケズリ(縦)	内面 ヘラケズリ(横)	φ3mm赤色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子多量	やや 良	外面 浅黄橙(10YR8/3)	内面 褐(7.5YR5/1)	器面摩滅
19-③ 10-SI04-③	SI04	土師器 壺形	胴部	—	68.6	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1mm以下金雲母片少量 φ1～2mm褐色粒子中量	良	外面 橙(7.5YR7/6)	内面 にぶい黄橙(10YR7/4)	器面摩滅
19-④ 10-SI04-④	SI04	土師器 台付甕形	完形	13.5 23.0 8.4	(760.6)	外面 口縁部ナデ(横) 頸部ハケ メ(縦)→ナデ 胴部ハケ メ(横)→ナデ 脚部ハケ メ(縦)→ナデ	内面 口縁部～頸部ハケメ(横) 胴部ヘラナデ 脚部ハケ メ→ヘラナデ	φ2～3mm白色粒子極微量 φ3～5mm赤色粒子中量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(2.5YR6/8)	内面 明赤褐(2.5YR5/8)	
19-⑤ 10-SI04-⑤	SI04	土師器 台付甕形	脚部	— [2.0] —	13.5	外面 ヘラケズリ(縦)	内面 ヘラケズリ(横)	φ3mm赤色粒子少量 φ2mm褐色粒子少量	やや 良	外面 明赤褐(2.5YR5/8)	内面 明赤褐(2.5YR5/8)	
19-⑥ 10-SI04-⑥	SI04	土師器 台付甕形	脚部か	— [6.0] [2.2]	14.2	外面 ヘラナデ	内面 上部:ナデ 下部:ヘラナデ	φ1mm以下金雲母片中量 φ1mm赤色粒子微量 φ1～2mm褐色粒子中量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4)	内面 褐灰(7.5YR4/1)	
19-⑦ 10-SI04-⑦	SI04	土師器 甕形	胴部	—	14.1	外面 ハケメ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm赤色粒子微量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下金雲母片少量	良	外面 にぶい赤褐(5YR5/3)	内面 にぶい褐(7.5YR5/3)	
19-⑧ 10-SI04-⑧	SI04	土師器 甕形	底部	12.4 2.3 6.5	117.7	外面 ハケメ(縦)	内面 ナデ	φ1mm以下褐色粒子中量 φ1mm以下金雲母片極微量 φ5mm小礫極微量	良	外面 橙(7.5YR6/8)	内面 明赤褐(2.5YR5/6)	再利用
19-⑨ 10-SI04-⑨	SI04	土師器 鉢形	完形	8.0 3.0 4.0	(56.0)	外面 口縁部ナデ(横) 胴部中位 ～底部ハケメ→ナデ(横)	内面 口縁部ナデ(横) 胴部ヘ ラナデ	φ1mm以下金雲母片極微量 φ1～2mm赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量	良	外面 橙(2.5YR6/8)	内面 明赤褐(2.5YR5/8)	
19-⑩ 10-SI04-⑩	SI04	土師器 埴形	口縁部 ～底部	[11.0] 6.9 3.8	(131.1)	外面 口縁部～胴部ナデ 胴部中 間～底部ヘラケズリ	内面 口縁部～胴部ナデ 胴部中 間～底部ヘラケズリ	φ1～2mm赤色粒子少量 φ1～2mm黒色粒子中量	やや 良	外面 橙(5YR7/6)	内面 橙(5YR6/6)	器面摩滅
19-⑪ 10-SI04-⑪	SI04	土師器 埴形	完形	11.7 6.2 2.5	(146.5)	外面 口縁部～胴部中位ハケメ→ ナデ(横) 胴部中位～底 部ヘラケズリ	内面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部中位～底部ヘラナデ	φ2～3mm赤色粒子少量 φ1mm黒色粒子中量	良	外面 橙(5YR7/6)	内面 橙(2.5YR6/8)	
19-⑫ 10-SI04-⑫	SI04	土師器 埴形	完形	10.8 5.6 3.2	156.7	外面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部中位～底部ヘラナデか	内面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部中位～底部ヘラナデ	φ1mm以下金雲母片微量 φ3～5mm黒色粒子中量 φ1～2mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR7/6)	内面 橙(5YR7/8)	
19-⑬ 10-SI04-⑬	SI04	土師器 埴形	胴部～ 底部	[5.7] 3.9 2.3	(74.3)	外面 口縁部ナデ(横) 胴部ヘラ ミガキ 胴部下半～底部ヘ ラケズリ	内面 口縁部ナデ(横) 胴部ヘラ ナデ	φ1mm褐色粒子中量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/3)	内面 灰黄褐(10YR6/2)	外面・内面口 縁部赤彩
19-⑭ 10-SI04-⑭	SI04	土師器 高环形	完形	13.8 9.8 9.5	(254.5)	外面 ハケメ→ヘラミガキ 脚部 先端ナデ(横)	内面 受部ヘラミガキ 脚部ヘ ラナデ	φ2～3mm赤色粒子中量 φ1～2mm黒色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 赤(10YR4/6)	外面・受部内 面赤彩器面や 摩滅
19-⑮ 10-SI04-⑮	SI04	土師器 甕形	口縁部 ～底部	14.6 8.0 5.3	(342.4)	外面 ハケメ→ナデ	内面 ハケメ→ヘラナデ	φ1mm黒色粒子少量 φ1mm褐色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/3)	内面 明黄褐(10YR6/6)	
19-16 10-SI04-16	SI04	ロクロ 土師器 环形	口縁部	—	7.8	ロクロ成形		φ1mm以下金雲母片少量 φ1～2mm黒色粒子中量	やや 良	外面 浅黄橙(7.5YR8/4)	内面 にぶい黄橙(10YR7/2)	

第5号竪穴住居跡-SI05

遺構（第21図、図版4-1、4-2）

位置：B・C-3・4

重複関係：SI03、SI04、SD07に切られる。

平面形・規模：やや歪んだ隅丸方形である。長軸4.75m、短軸3.65mを測る。遺構確認面からの深さは約0.40mである。南側を攪乱により部分的に破壊されていた。また重複する遺構が多く、遺構の状態はあまり良好ではない。

主軸方向：N-10°-E

覆土：SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。

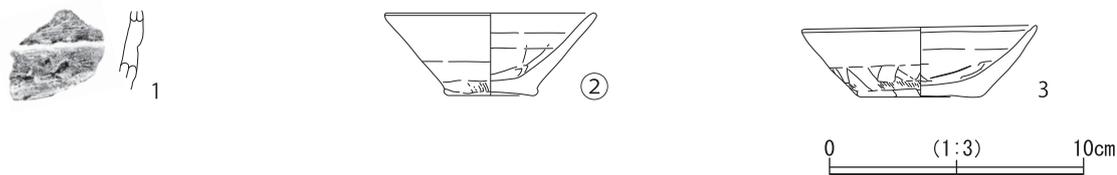
付属遺構：ピット8基を確認し、いずれも主柱穴と考えられる。ただし、柱の建て替えが複数あった可能性がある。

遺物（第20図、第7表、図版10）

出土状況：本遺構から99点、総重量483.0gが出土した。土師器93点（442.0g）、ロクロ土師器3点（20.3g）、須恵器1点（2.7g）、陶器1点（9.0g）、礫1点（9.0g）である。そのうち、3点を図示した。

時期

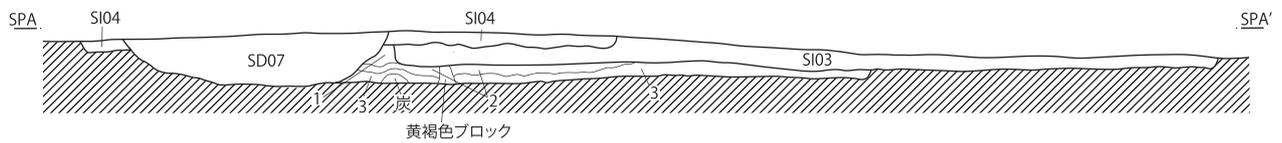
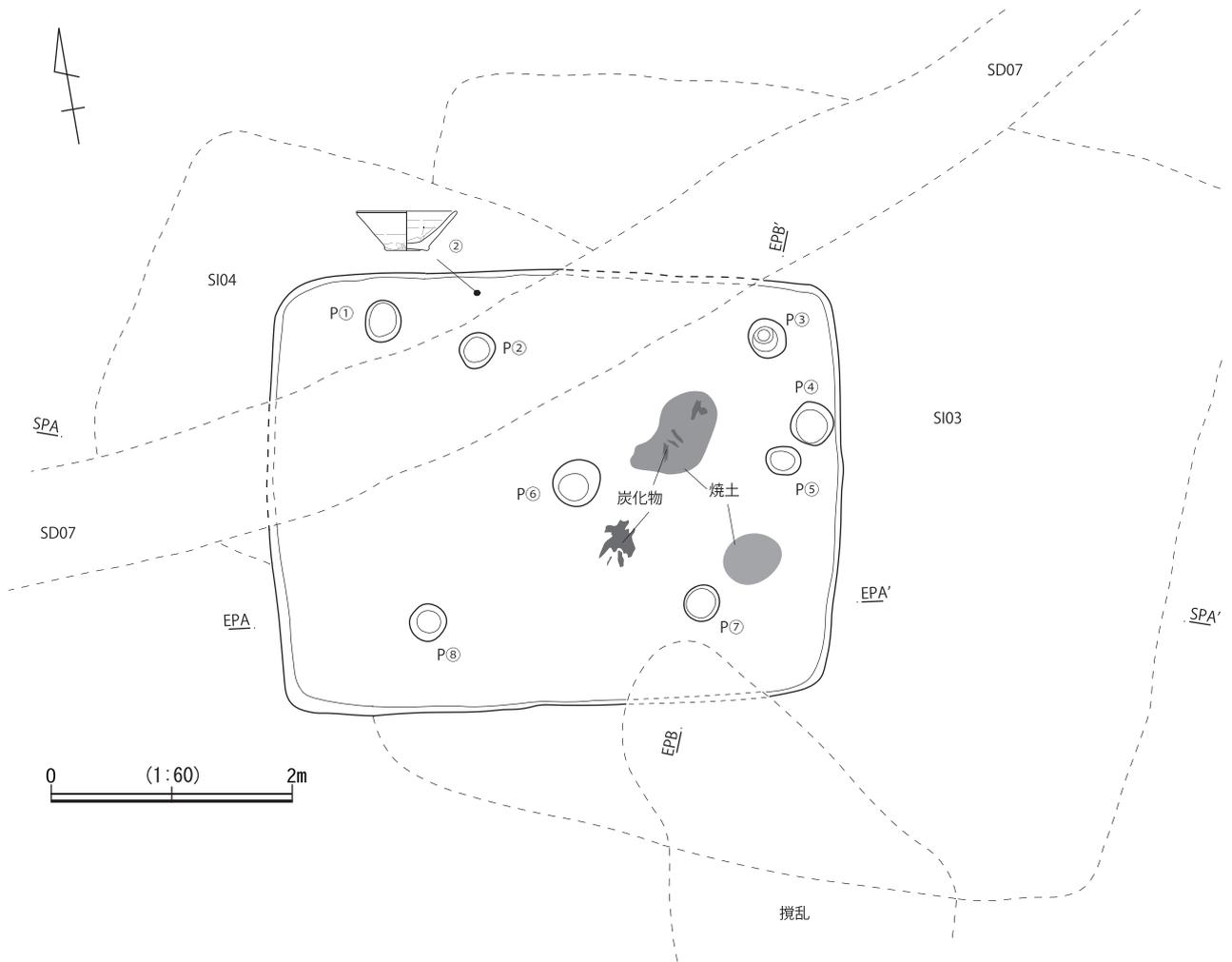
出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第20図 第5号竪穴住居跡出土遺物実測図（SI05）

第7表 第5号竪穴住居跡出土遺物観察表

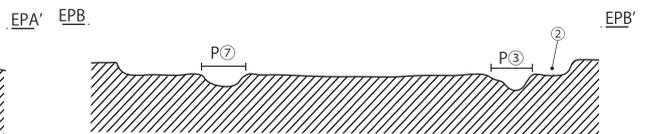
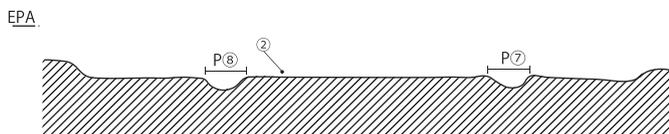
挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
20-1 10-SI05-1	SI05	土師器 甔形か	胴部	—	10.9	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm褐色粒子中量	良	外面 黒褐(2.5Y3/1) 内面 にぶい黄橙(10YR7/4)	
20-② 10-SI05-②	SI05	土師器 鉢形	完形	8.0 3.4 3.4	(75.7)	外面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部下半～底部ハケメ→ヘ ラナデ 内面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部下半～底部ヘラナデ	φ1mm以下金雲母片微量 φ3～5mm褐色粒子中量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/3) 内面 にぶい橙(7.5YR6/4)	
20-3 10-SI05-3	SI05	土師器 鉢形	口縁部 ～底部	8.8 2.8 4.6	(49.2)	外面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部下半～底部ハケメ→ヘ ラナデ 内面 口縁部～胴部中位ナデ(横) 胴部下半～底部ヘラナデ	φ1～2mm黒色粒子中量 φ1mm以下金雲母片極微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/3) 内面 にぶい黄橙(10YR6/4)	



SI05 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子微量
- 3層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子微量



第21図 第5号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI05)

第6号竖穴住居跡—SI06

遺構（第22図 図版5-2）

位置：F・G-4・5

重複関係：SI07を切り、SK03に切られる。

平面形・規模：やや歪んだ隅丸方形である。長軸4.45m、短軸3.40mを測る。遺構確認面からの深さは約0.15mである。南東角が攪乱により部分的に破壊されていた。

主軸方向：N-70°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2カ所で覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。本遺構の中央部や北側、SK03の内部で焼土を検出した。

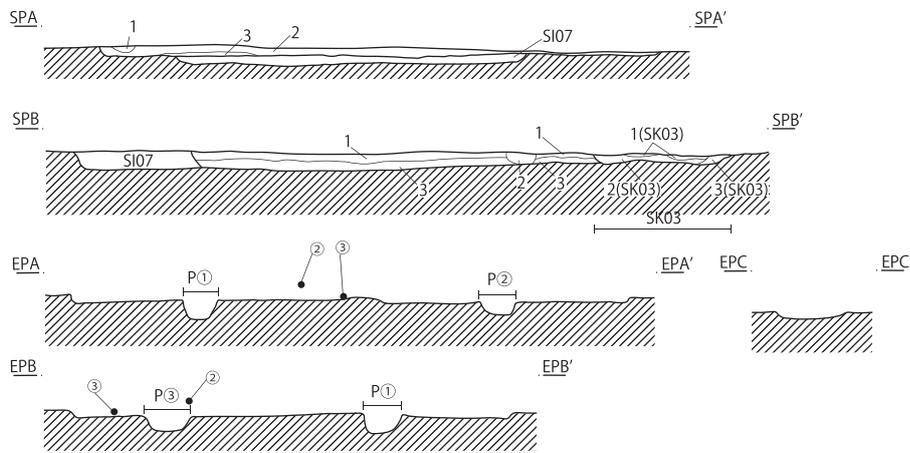
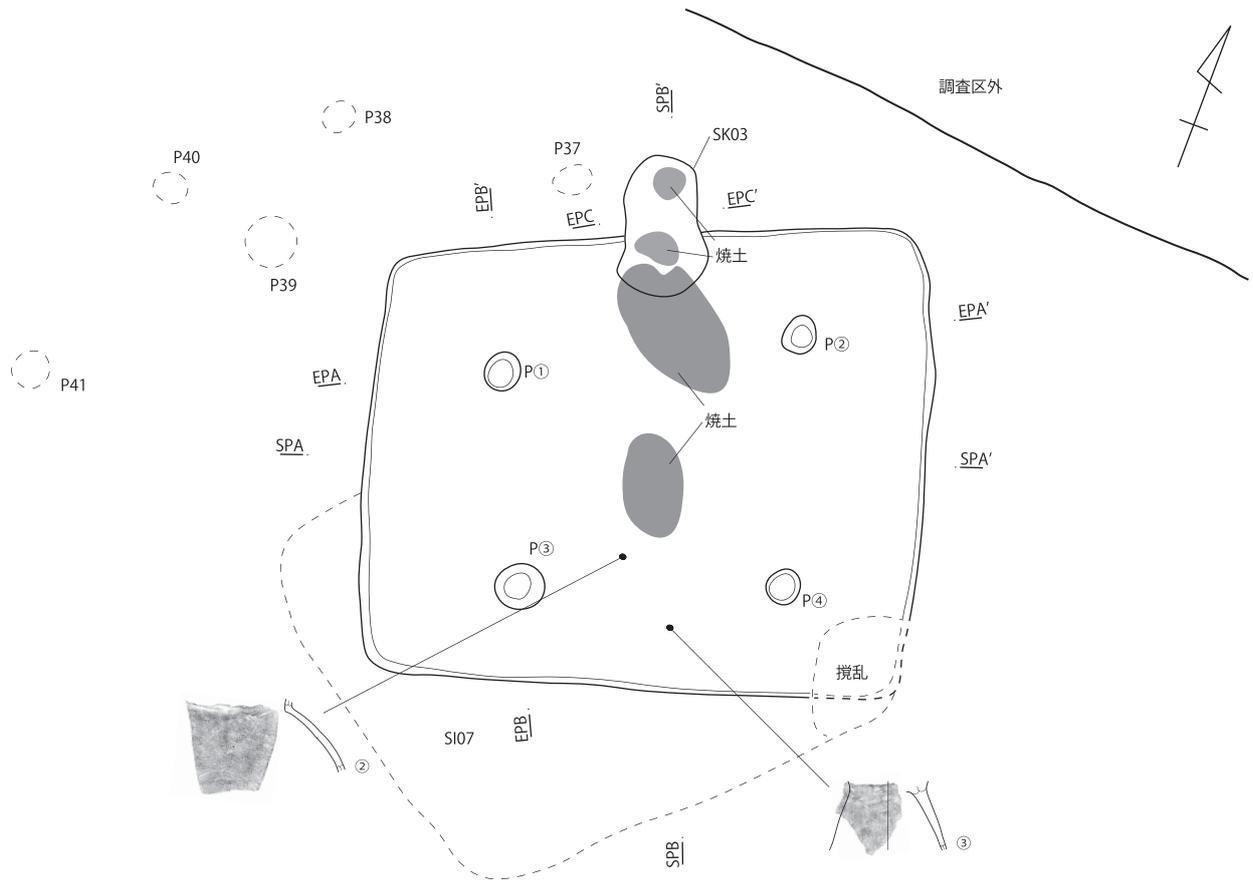
付属遺構：ピット4基を確認し、いずれも主柱穴であると考えられる。またSK03が北側に位置し、本遺構を切っており、炉として機能していた可能性がある。本報告では、SI06に伴う炉として報告する。カマドの可能性を検討したが、カマドとしての煙道、袖等が検出されていないため、その可能性は低いものと考えられる。

遺物（第22・23図、第8表、図版10）

出土状況：本遺構から258点、総重量909.1gが出土した。土師器256点（898.0g）、須恵器2点（11.1g）である。そのうち、4点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SI06 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：ややあり しまり：良 黄褐色ブロック中量
- 2層 暗褐色土 粘性：ややあり しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子多量
- 3層 暗褐色土 粘性：ややあり しまり：良 焼土ブロック中量 (貼床の可能性あり)

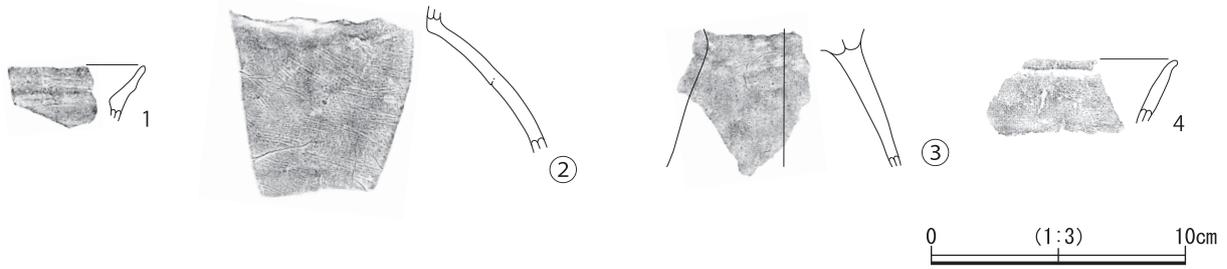
SPB-SPB'

- 1層 暗褐色土 粘性：ややあり しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子多量
- 2層 黒褐色土 粘性：あり しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量
- 3層 暗褐色土 粘性：あり しまり：良 黄褐色小ブロック多量

SK03

- 1層 焼土(赤色土) 粘性：なし しまり：弱
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子多量
- 3層 灰褐色土 粘性：強 しまり：強 暗褐色粒子微量

第22図 第6号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI06)



第23図 第6号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI06)

第8表 第6号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
23-1 10-SI06-1	SI06	土師器 壺形か	口縁部	—	4.4	外面 ヘラナデ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面 灰白(10YR7/1)	内面 灰白(2.5Y7/1)	
23-② 10-SI06-②	SI06	土師器 台付甕形	胴部	—	40.7	外面 ハケメ(横)→ユビナデ	内面 ヘラケズリ(横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4)	内面 にぶい橙(7.5YR6/4)	
23-③ 10-SI06-③	SI06	土師器 台付甕形	脚部	[5.4] —	25.2	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(7.5YR6/6)	内面 橙(7.5YR6/6)	
23-4 10-SI06-4	SI06	土師器 甕形	口縁部	—	10.5	外面 ヘラナデ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片中量	良	外面 赤褐(5YR4/6)	内面 赤褐(2.5YR4/6)	

第7号竖穴住居跡—SI07

遺構（第24図 図版5-1、5-2）

位置：F・G-4・5・6

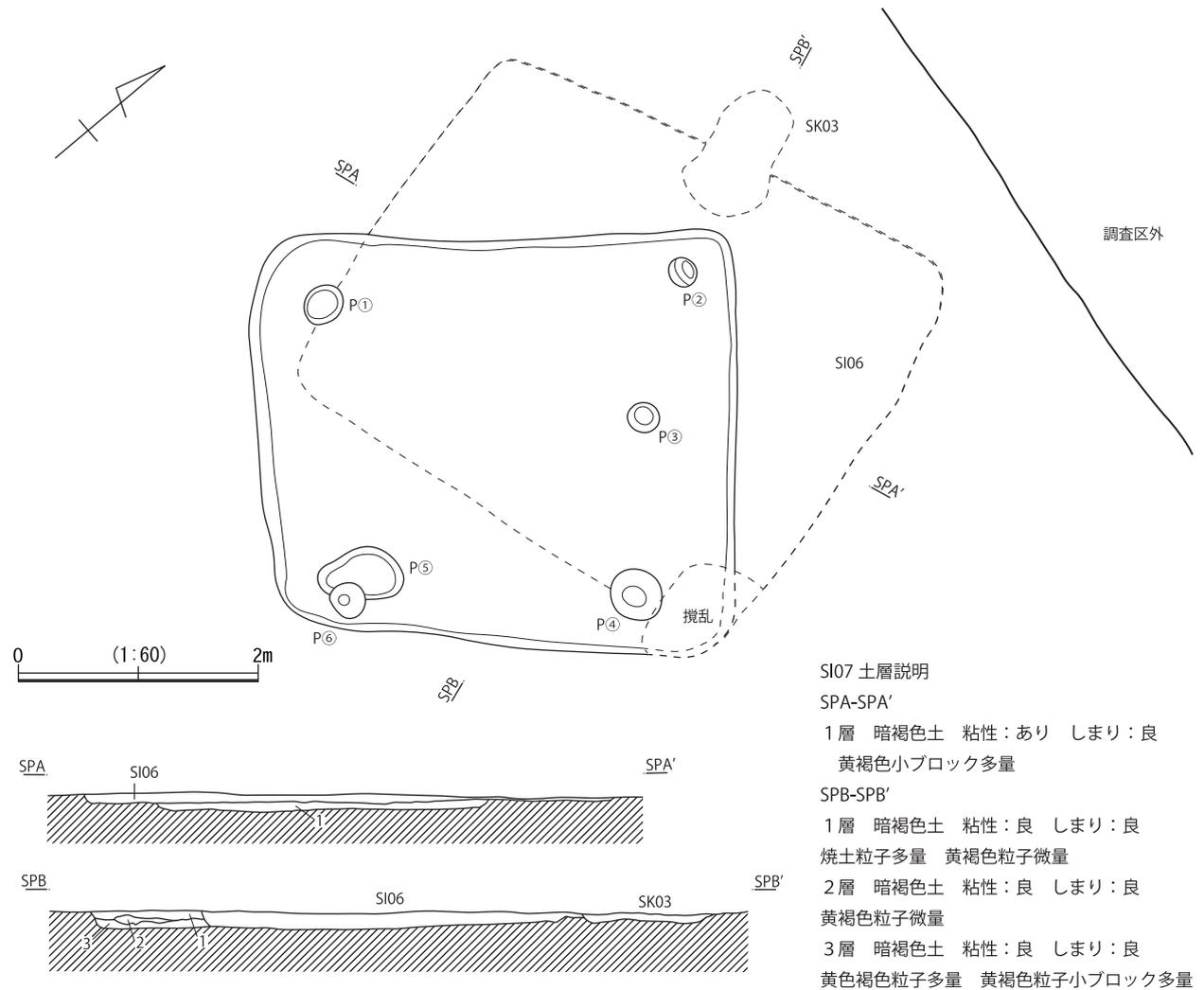
重複関係：SI06に切られる。

平面形・規模：やや歪んだ隅丸方形である。長軸4.08m、短軸3.20mを測る。遺構確認面からの深さは約0.15mである。また、南東角が攪乱により部分的に破壊されていた。

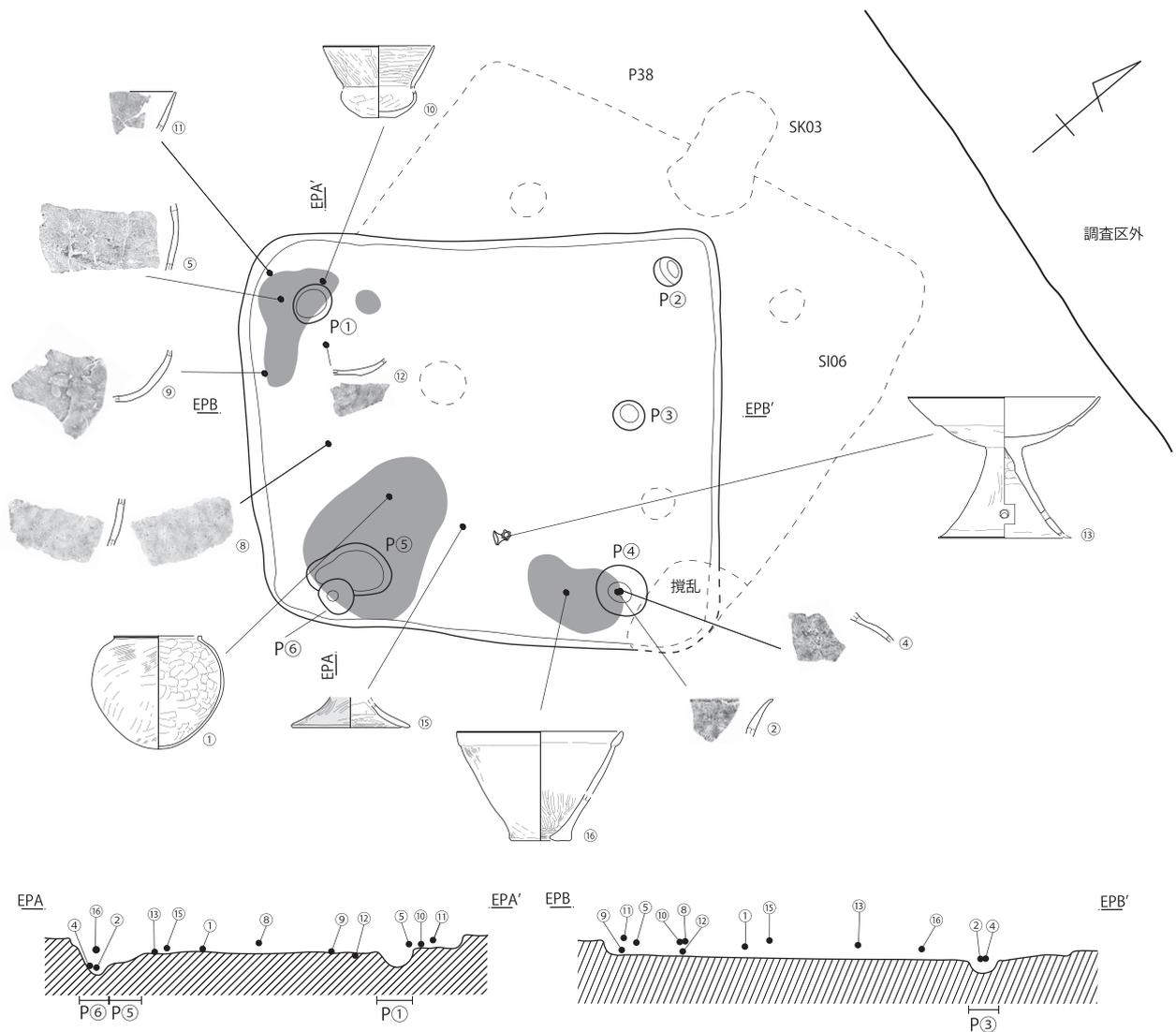
主軸方向：N-38°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2カ所で覆土を観察した。3層に分層した。SPB-SPB'では、SI06の下に本来あるべきSI07の堆積状況が部分的に記録されており、詳細は不明である。

付属遺構：ピット6基を確認し、いずれも主柱穴であると考えられる。



第24図 第7号竖穴住居跡実測図（SI07）



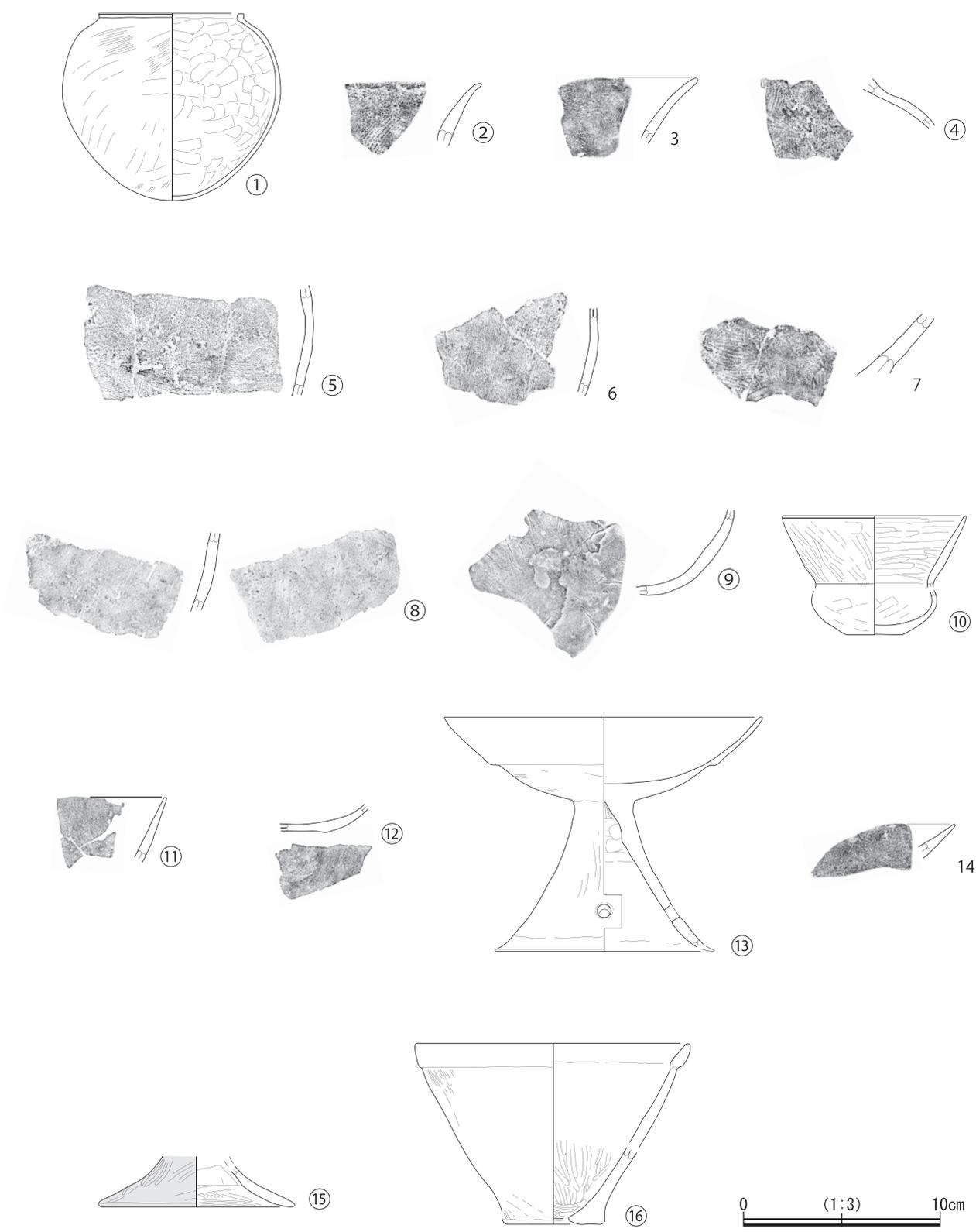
第25図 第7号竪穴住居跡遺物出土状況図 (SI07)

遺物 (第25・26図、第9表、図版11)

出土状況：本遺構から146点、総重量2,323.3gが出土した。土師器144点 (2,008.6g)、礫2点 (314.7g) である。そのうち、16点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第26图 第7号竖穴住居跡出土遺物実測図 (SI07)

第9表 第7号竖穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
図版番号												
26-①	11-SI07-①	土師器壺形	口縁部 ~底部	[7.3] 9.6 2.0	71.0	外面	ヘラケズリ(横、斜め)	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm以下石英粒子微量	良	外面	橙赤(10R5/8)	胴部上半外面 に黒斑あり
11-SI07-①						内面	ナデ(横)			内面	赤(10R4/6)	
26-②	11-SI07-②	土師器壺形	口縁部	—	8.3	外面	ヘラナデ(斜め)→ナデ	φ3mm褐色粒子微量 φ1mm以下褐色粒子中量	良	外面	明赤褐(2.5YR5/6)	
11-SI07-②						内面	ヘラナデ(横)			内面	明赤褐(5YR5/8)	
26-3	11-SI07-3	土師器壺形	口縁部	—	7.7	外面	ナデか	φ1~3mm赤色粒子少量	良	外面	橙(2.5YR6/8)	器面摩滅
11-SI07-3						内面	ナデか			内面	橙(7.5YR7/6)	
26-④	11-SI07-④	土師器壺形	胴部 上半	—	11.0	外面	ハケメ(縦)→ヘラナデ	φ1mm以下金雲母片中量 φ1mm以下白色粒子少量	良	外面	灰褐(5YR4/2)	
11-SI07-④						内面	ヘラナデ(横)			内面	黒褐(10YR3/1)	
26-⑤	11-SI07-⑤	土師器壺形	胴部	—	41.7	外面	ヘラナデ(横)→ナデ	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下白色粒子中量	良	外面	黒褐(2.5Y3/1)	内面黒斑
11-SI07-⑤						内面	ハケメ(横)			内面	にぶい黄橙(10YR7/3)	
26-6	11-SI07-6	土師器壺形	胴部	—	18.6	外面	ハケメ(縦)	φ1~3mm褐色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面	にぶい褐(7.5YR5/3)	
11-SI07-6						壺形	ナデ			内面	にぶい赤褐(5YR5/3)	
26-7	11-SI07-7	土師器 台付甕形	脚部 接続部	—	30.0	外面	ハケメ(横)→ナデ	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量	やや良	外面	橙(2.5YR6/8)	
11-SI07-7						内面	ヘラナデ(縦)→ナデ			内面	明赤褐(2.5YR5/8)	
26-⑧	11-SI07-⑧	土師器甕形	胴部	—	30.8	外面	ヘラケズリ(斜め)	φ1mm以下白色粒子少量 φ2mm赤色粒子少量	良	外面	黒褐(10YR3/2)	
11-SI07-⑧						内面	ヘラケズリ(斜め)			内面	橙(7.5YR6/6)	
26-⑨	11-SI07-⑨	土師器甕形	底部	—	27.9	外面	ナデか	φ2~3mm黒色粒子中量	良	外面	赤(10R4/8)	外面部分的に 赤彩器面摩滅
11-SI07-⑨						内面	ナデか			内面	橙(2.5YR6/8)	
26-⑩	11-SI07-⑩	土師器 埴形	口縁部 ~底部	[9.3] 6.1 [2.7]	12.5	外面	ナデ 胴部下半ヘラナデ	φ2~3mm褐色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面	橙(5YR7/6)	
11-SI07-⑩						内面	ナデ 胴部下半ヘラナデ			内面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
26-⑪	11-SI07-⑪	土師器 埴形	口縁部	—	5.7	外面	ナデ	φ1mm以下金雲母片中量 φ1mm黒色粒子少量	良	外面	橙(5YR6/6)	
11-SI07-⑪						内面	ヘラナデ(横)			内面	橙(5YR7/6)	
26-⑫	11-SI07-⑫	土師器 埴形か	底部	—	6.7	外面	ナデか	φ1mm以下金雲母片中量 φ1mm赤色粒子少量	良	外面	暗赤(10R3/6)	内外面赤彩
11-SI07-⑫						内面	ナデか			内面	赤(7.5R4/6)	
26-⑬	11-SI07-⑬	土師器 高环形	口縁部 ~底部	[16.1] 12.0 11.2	(291.4)	外面	ナデか	φ1~2mm黒色粒子少量 φ2~3mm赤色粒子少量	良	外面	橙(2.5YR6/8)	透孔2カ所残 存
11-SI07-⑬						内面	ナデ(横)			内面	橙(2.5YR6/8)	
26-14	11-SI07-14	土師器 高环形	口縁部	—	4.1	外面	ナデか	φ1mm以下白色粒子少量 φ2~4mm黒色粒子少量	良	外面	橙(2.5YR6/8)	
11-SI07-14						内面	ナデか			内面	橙(2.5YR6/8)	
26-⑮	11-SI07-⑮	土師器 高环形	脚部	[2.6] 10.0	(58.7)	外面	ヘラナデ(縦)	φ2~3mm赤色粒子中量 φ1~2mm黒色粒子少量	良	外面	赤(7.5R4/6)	外面赤彩器面 摩滅
11-SI07-⑮						内面	ハケメ(横)→ナデ			内面	浅黄橙(10YR8/3)	
26-⑯	11-SI07-⑯	土師器 甕形	口縁部 ~底部	[14.0] 9.3 5.2	(260.2)	外面	口縁部ナデ(横)	φ2~3mm黒色粒子中量 φ2mm白色粒子微量	やや良	外面	橙(7.5YR7/6)	
11-SI07-⑯						内面	ハケメ→ヘラミガキ			内面	にぶい橙(7.5YR7/4)	

第 8 号 竪穴住居跡—SI08

遺構（第27・28図 図版6－1）

位置：I・J－4・5

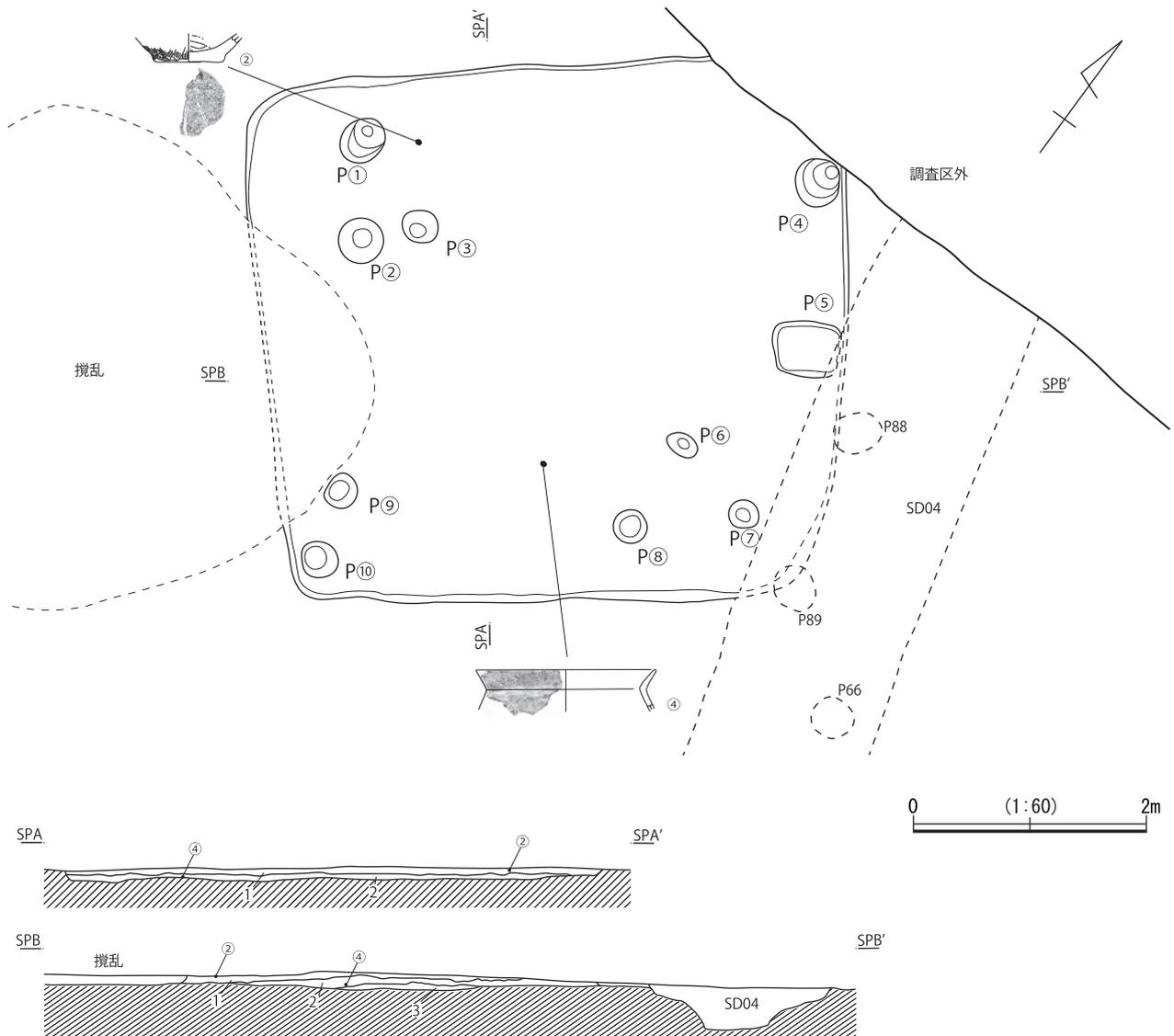
重複関係：SD04に切られる。

平面形・規模：北角が調査区外に位置し、部分的に不明な部分があるが、おおむね隅丸方形形状である。長軸5.08m、短軸4.62mを測る。遺構確認面からの深さは約0.15mである。南西側を部分的に攪乱により破壊され、東側はSD04により掘削されていた。

主軸方向：N－50°－E

覆土：SPA－SPA'、SPB－SPB'の2カ所で覆土を観察した。3層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。

付属遺構：ピット10基を確認した。四隅付近に位置するものがP①～P③、P⑦、P⑨、P⑩であり、支柱穴の可能性がある。P⑤は長方形形状を呈しており、他のものよりも大型なため、支柱穴ではない



第27図 第 8 号 竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図（SI08）（1）

SI08 土層説明

SPA-SPA'

1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子微量

2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量

SPB-SPB'

1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量

2層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子微量

3層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量

第28図 第8号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI08) (2)

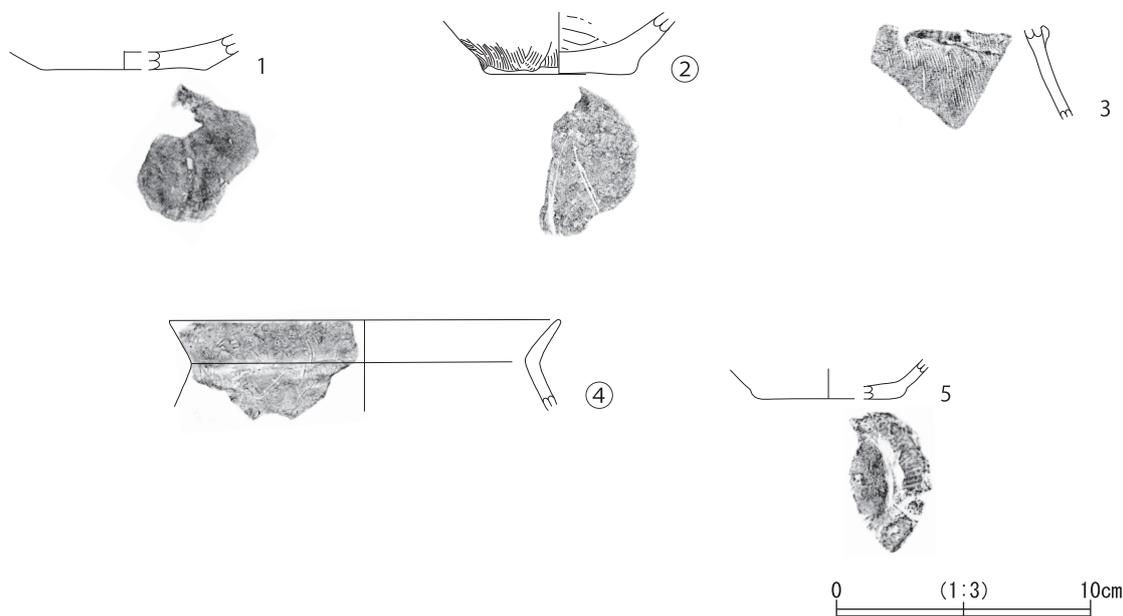
可能性がある。

遺物 (第29図、第10表、図版11)

出土状況：本遺構から237点、総重量1,050.4gが出土した。土師器236点(779.0g)、礫1点(271.4g)である。そのうち、5点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



第29図 第8号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI08)

第10表 第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
29-1 11-SI08-1	SI08	土師器 壺形	底部	— [6.3]	25.3	外面 ヘラナデか 内面 ヘラナデか	φ5mm赤色粒子中量 φ1mm以下金雲母片極微量 φ3mm黒色粒子少量	やや 良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 明黄褐(10YR7/6)	器面やや摩滅		
29-② 11-SI08-②	SI08	土師器 壺形	底部	— [2.5] [5.8]	51.7	外面 ハケメ(縦) 内面 ヘラケズリ(横)	φ1~2mm赤色粒子中量	やや 良	外面 浅黄橙(10YR8/3) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)	器面摩滅 底面:木葉痕		
29-3 11-SI08-3	SI08	土師器 甕形	胴部	—	12.8	外面 横走る幅6mm程度の粘 土紐により凸帯を作出 ハ ケメ(縦) 内面 ヘラナデ(斜め)	φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm白色粒子少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 浅黄橙(7.5YR8/4)			
29-④ 11-SI08-④	SI08	土師器 甕形	口縁部	[15.6] —	17.4	外面 口唇部:ナデ 口縁直下:ヘ ラナデ 内面 ヘラナデ	φ1mm以下白色粒子多量 φ3mm褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 にぶい褐(7.5YR5/3) 内面 にぶい黄橙(10YR6/3)			
29-5 11-SI08-5	SI08	土師器 埴形	底部	— [5.7]	11.4	外面 ハケメ 内面 ヘラケズリ	φ1~2mm赤色粒子中量 φ2~5mm褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(7.5YR6/6) 内面 にぶい褐(7.5YR5/4)			

第9号竪穴住居跡-SI09

遺構 (第30図、図版6-2)

位置: K・L-5・6・7

重複関係: SD01、SD02、SD03、SK01に切られる。

平面形・規模: 南東側が調査区外に位置しているため、全体の形状が不明であるが、やや歪んだ隅丸方形の可能性ある。重複する遺構により、大半が掘削されていた。長軸3.65m、短軸3.80mを測る。遺構確認面からの深さは約0.23mである。

主軸方向: N-65°-E

覆土: SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察した。南側がSD01~03に大きく切られるため、部分的な覆土の観察である。3層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。

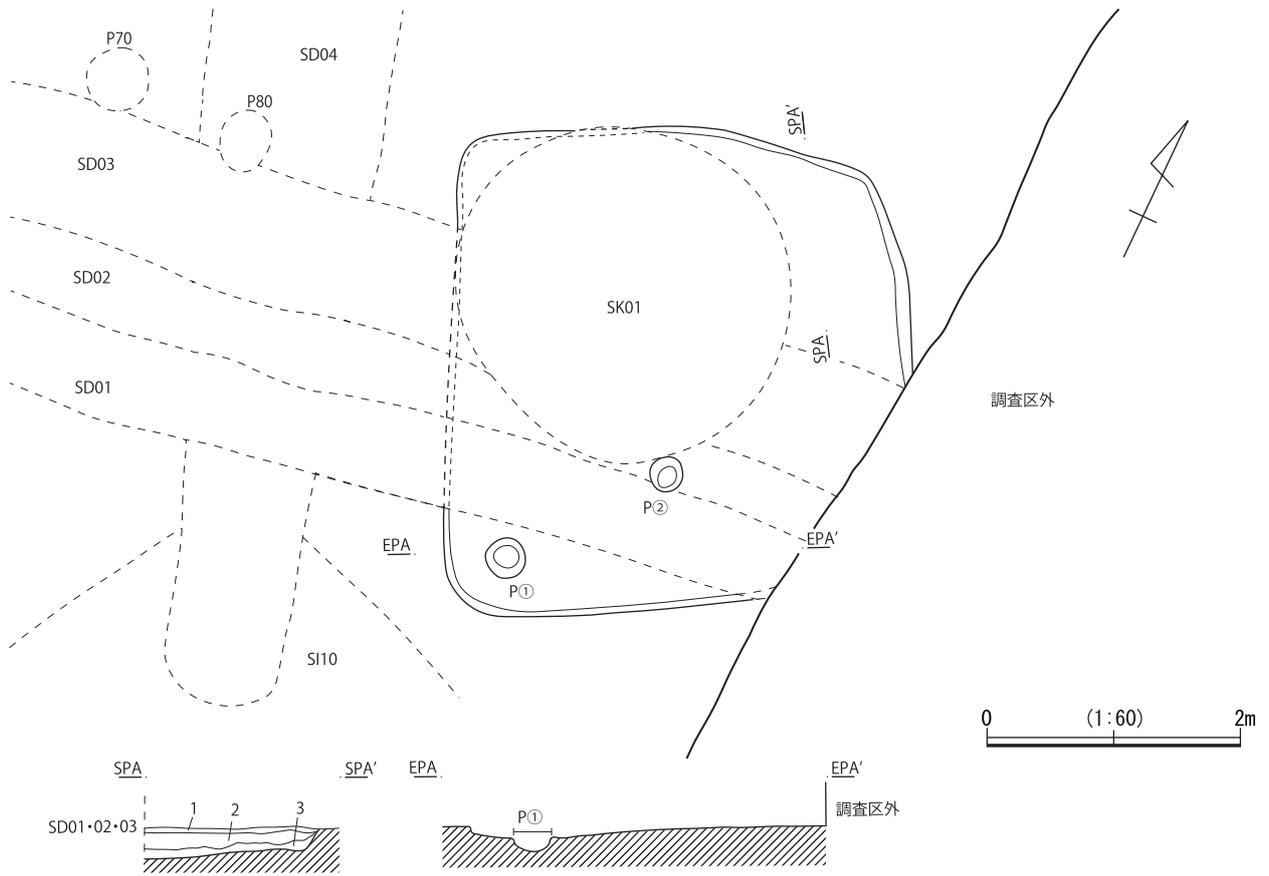
付属遺構: ピット2基を確認し、P①は主柱穴の可能性ある。

遺物 (第31図、第11表、図版11)

出土状況: 本遺構から25点、総重量122.6gが出土した。土師器23点(116.5g)、須恵器1点(1.3g)、礫1点(4.8g)である。そのうち、3点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。

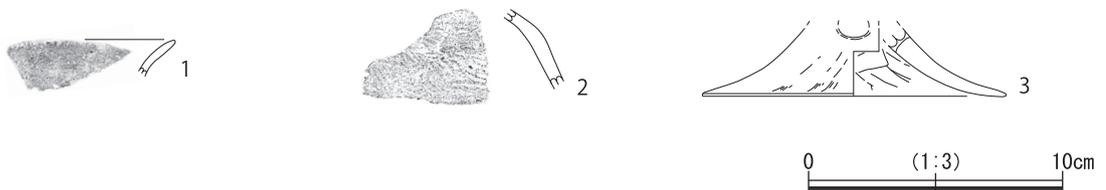


SI09 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 焼土粒子微量 黄褐色粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 焼土粒子微量 炭化物微量 黄褐色粒子微量
- 3層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子微量

第30図 第9号竪穴住居跡実測図 (SI09)



第31図 第9号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI09)

第11表 第9号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
31-1 11-SI09-1	SI09	土師器 壺形	口縁部	—	2.7	外面 ナデ 内面 ナデ		φ1~3mm赤色粒子中量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		ミニチュアか
31-2 11-SI09-2	SI09	土師器 壺形	胴部	—	11.3	外面 ナデ 内面 ナデ		φ1mm以下金雲母片少量 φ1mm以下褐色粒子少量	やや 良	外面 にぶい赤褐(5YR4/4) 内面 にぶい褐(7.5YR5/4)		
31-3 11-SI09-3	SI09	土師器 高環形	脚部	— [2.6] [12.0]	24.6	外面 ナデか 内面 ナデか		φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm赤色粒子中量	良	外面 橙(2.5YR6/6) 内面 橙(5YR6/6)		器面摩滅 透孔残存一ヶ 所

第10号竪穴住居跡—SI10

遺構（第32図、図版7-1）

位置：J・K・L-7・8

重複関係：SD04、SD06に切られる。また、図面等の記録には残されていないものの、本遺構の西に隣接しているSI11にも切られる可能性が高い。

平面形規模：南側と東側が調査区外に位置しているため、全体が不明であるが、やや歪んだ隅丸形状を呈すると考えられる。また、西側の住居の壁は、試掘トレンチにより掘削された可能性がある。長軸4.97m、短軸4.53mを測る。遺構確認面からの深さは約0.1mであり、堆積は薄い。

主軸方向：N-30°-E

覆土：SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察した。単層であり、人為的なものか自然によるものか不明。

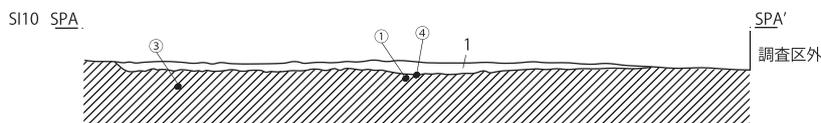
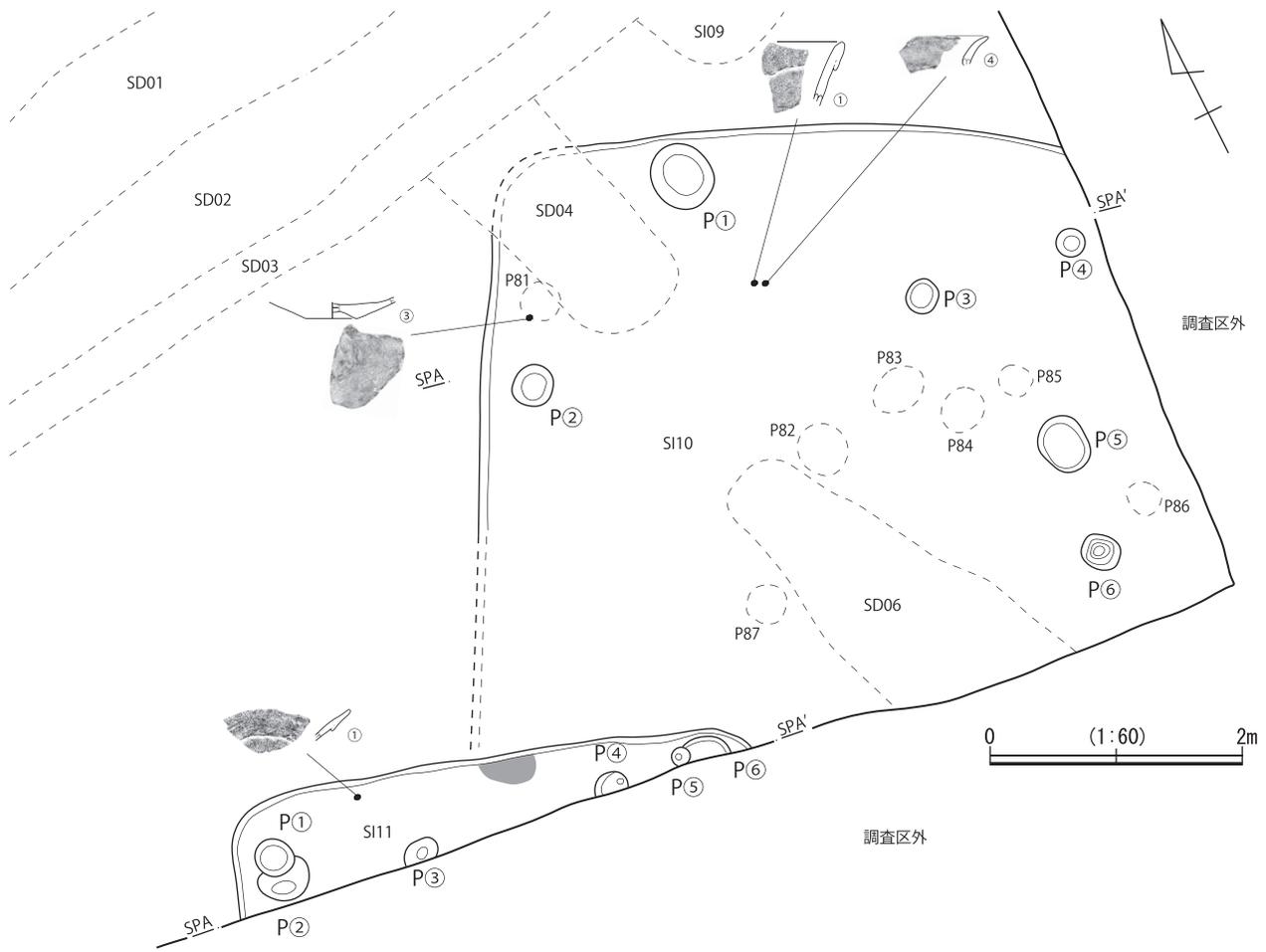
付属遺構：ピット6基を確認した。そのうち、ピット②、ピット⑥が支柱穴の可能性はある。

遺物（第33図、第12表、図版11）

出土状況：本遺構から102点、総重量331.0gが出土した。いずれも土師器である。そのうち、5点を図示した

時期

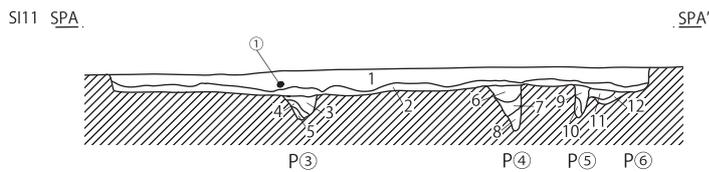
出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。



SI10 土層説明

SPA-SPA'

1層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良
黄褐色粒子多量、焼土粒子微量

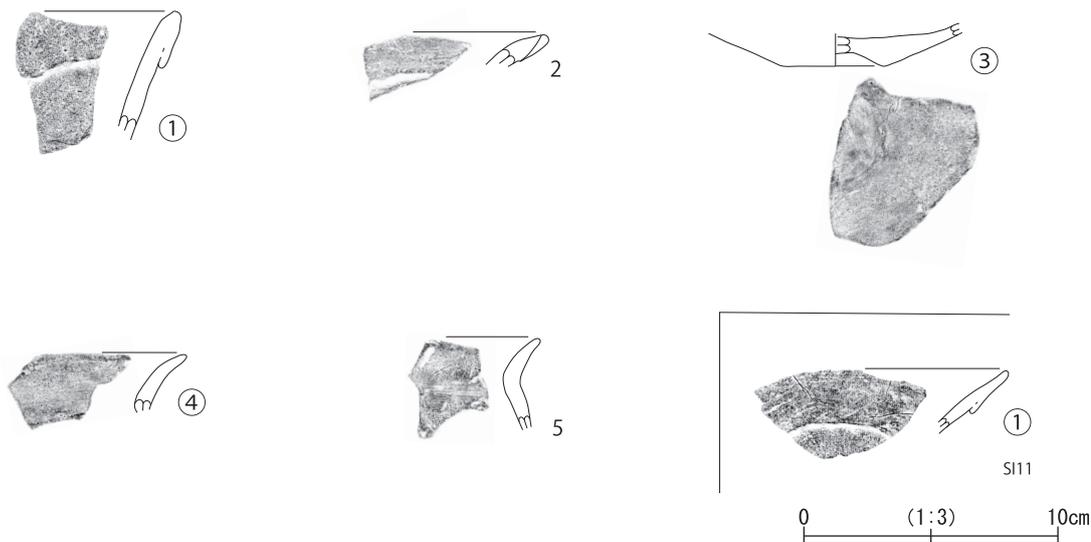


SI11 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子小ブロック微量 焼土粒子中量 炭化物中量
- 3層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色中ブロック中量
- 4層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小ブロック中量
- 5層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色中ブロック微量
- 6層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量 炭化物微量
- 7層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色中ブロック中量
- 8層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小ブロック微量
- 9層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中量 焼土粒子微量
- 10層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小ブロック多量
- 11層 暗褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色小ブロック多量
- 12層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子微量

第32図 第10号・11号竪穴住居跡実測図・遺物出土状況図 (SI10・SI11)



第33図 第10号・11号竪穴住居跡出土遺物実測図 (SI10・SI11)

第12表 第10号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
33-① 11-SI10-①	SI10	土師器 壺形	口縁部	—	19.2	外面 複合口縁 ナデか	内面 ナデか	φ1~2mm赤色粒子少量 φ2mm黒色粒子少量 φ1mm金雲母片微量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 橙(7.5YR6/6)	
33-② 11-SI10-②	SI10	土師器 壺形	口縁部	—	11.3	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1mm褐色粒子中量 φ1mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 橙(2.5YR6/6)	
33-③ 11-SI10-③	SI10	土師器 壺形	底部	— [4.1]	28.8	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1~2mm赤色粒子中量	やや 良	外面 橙(5YR6/6)	内面 橙(2.5YR6/8)	器面摩滅
33-④ 11-SI10-④	SI10	土師器 甕形	口縁部	—	8.2	外面 ヘラナデ(横)	内面 ナデ	φ1mm褐色粒子中量 φ1mm金雲母片微量	良	外面 にぶい赤褐(5YR4/4)	内面 にぶい黄褐(10YR5/3)	
33-⑤ 11-SI10-⑤	SI10	土師器 甕形	口縁部	—	8.2	外面 ヘラナデ(横)→ナデ	内面 ヘラナデ(横)→ナデ	φ1mm褐色粒子微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4)	内面 にぶい黄橙(10YR7/4)	

第13表 第11号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
33-① 11-SI11-①	SI11	土師器 壺形	口縁部	—	14.2	外面 複合口縁 ヘラナデ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm以下石英粒子微量 φ1mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 赤(10R4/6)	内外面赤彩

第11号竪穴住居跡—SI11

遺構（第32図、図版7-2）

位置：J・K-7・8

重複関係：記録にはないが、本遺構の東に隣接しているSI10を切る可能性が高い。

平面形・規模：全体の1/3程度が検出され全体形状は不明であるが、隅丸方形である可能性がある。南北は1.05m、東西は4.15mを測る。遺構確認面からの深さは約0.17mである。

主軸方向：N-30°-E

覆土：SPA-SPA'の1カ所で覆土を観察した。2層に分層し、自然堆積によるものと考えられる。

付属遺構：ピット6基を確認し、支柱穴である可能性が考えられるものは、ピット①、ピット②、ピット⑥である。

遺物（第33図、第13表、図版11）

出土状況：本遺構から3点、総重量26.1gの遺物が出土した。全て土師器である。そのうち、1点を図示した。

時期

出土遺物より弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭。

2 溝状遺構

第8号溝状遺構—SD08

遺構（第34図）

位置：B・C-1・2・3

重複関係：SK02、SE01に切られる。

形状：北側と西側が調査区外へと続いており、調査区内での形状は緩やかに南西側へ曲がる。SK02に掘削されるあたりでややくびれ、EPA-EPA'付近で東側の上端が膨らみ、調査区西側壁に向かうにつれ、窄まる形状を呈する。調査区内で確認された長さは7.30mである。上端幅は1.50m～0.65m前後、下端幅は0.60m～0.25m前後、確認面からの深さは0.70m前後であり、断面は逆台形状（EPA-EPA'）を呈する。

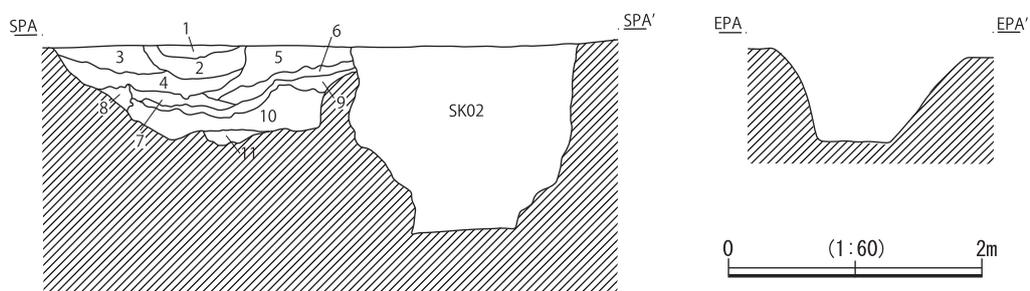
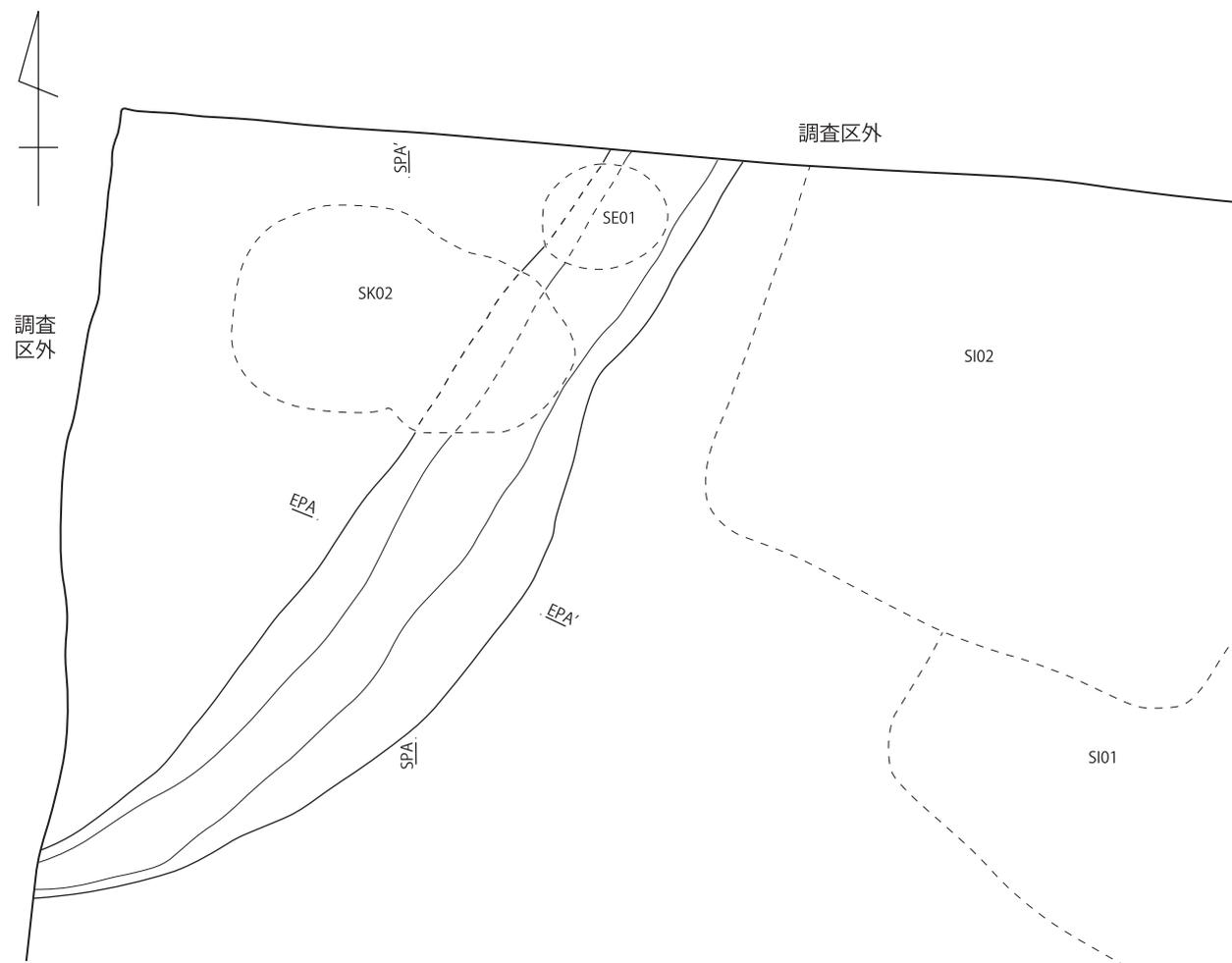
主軸方向：N-35°-E

覆土：SPA-SPA'の1箇所まで覆土を観察した。11層に分層した。9～11層までは自然堆積、9層よりも上層は各層が入り組んで堆積しているため、人為的な埋め戻しの可能性がある。

付属遺構：なし

遺物（第35図、第14表、図版12）

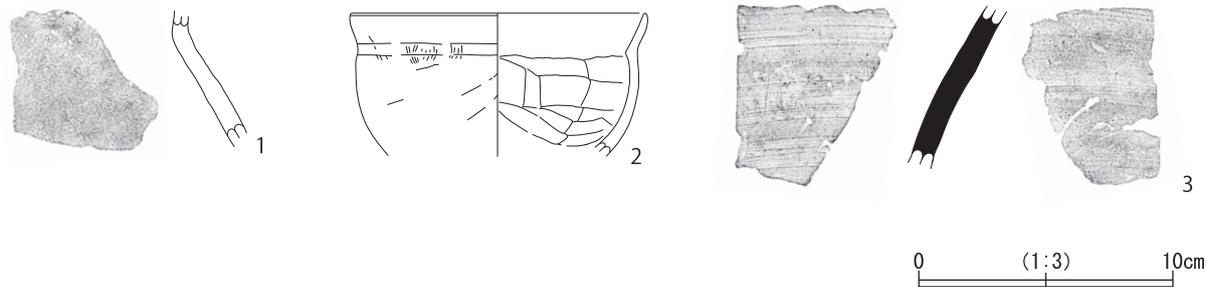
出土状況：本遺構から46点、総重量603.8gの遺物が出土した。土師器41点（274.1g）須恵器1点（54.1g）、陶器3点（40.5g）、礫1点（235.11g）である。そのうち3点を図示した。



SD08土層説明
SPA-SPA'

- 1層 明褐色土 粘性：弱 しまり：強 黄褐色粒子少量 灰褐色粒子少量
- 2層 明褐色土 粘性：弱 しまり：強 黄褐色粒子多量 灰褐色粒子ブロック多量
- 3層 明褐色土 粘性：良 しまり：強 黄褐色粒子少量
- 4層 明茶褐色土 粘性：良 しまり：強 黄褐色粒子少量 赤色粒子少量
- 5層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子少量
- 6層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量 炭化物微量
- 7層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量
- 8層 黄褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粘土少量
- 9層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中ブロック多量
- 10層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 黒色粒子少量
- 11層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量

第34図 第8号溝状遺構実測図 (SD08)



第35図 第8号溝状遺構出土遺物実測図 (SD08)

第14表 第8号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
35-1 12-SD08-1	SD08	土師器 壺形	胴部	—	31.0	外面 ナデ 内面 ヘラナデ	φ 1mm以下金雲母片少量 φ 2mm黒色粒子微量 φ 1mm白色粒子微量	良	外面 赤褐(2.5YR4/6) 内面 橙(7.5YR6/6)	外面赤彩		
35-2 12-SD08-2	SD08	土師器 碗形	口縁部 ~胴部	[11.3] [5.8] —	(138.9)	外面 ナデ 内面 ヘラナデ	φ 3mm黒色粒子少量 φ 1mm黒色粒子中量	良	外面 灰白(2.5Y8/1) 内面 にぶい黄橙(10YR7/3)			
35-3 12-SD08-3	SD08	須恵器 甕	胴部	—	54.1	ロクロ成形	φ 1mm以下白色粒子微量	良	外面 灰(N4/ 内面 灰(N5/)			

時期

出土遺物から弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の可能性がある。

3 土坑

第2号土坑—SK 02

遺構 (第36・37図)

位置：B・C—1・2

重複関係：SD08を切る。

平面形・規模：長楕円形を呈しており、南北側でややくびれる。長径2.63m前後、短径1.48m前後を測る。確認面からの深さは1.50m前後と深い。断面は、SPA—SPA'では幅広の長形状、SPB—SPB' 幅狭の長形状を呈する。

主軸方向：N—70°—E

覆土：SPA—SPA'、SPB—SPB'の二箇所覆土を観察した。最大で18層に分層した。両土層断面も水平堆積を基本としており、自然堆積によるものと考えられる。

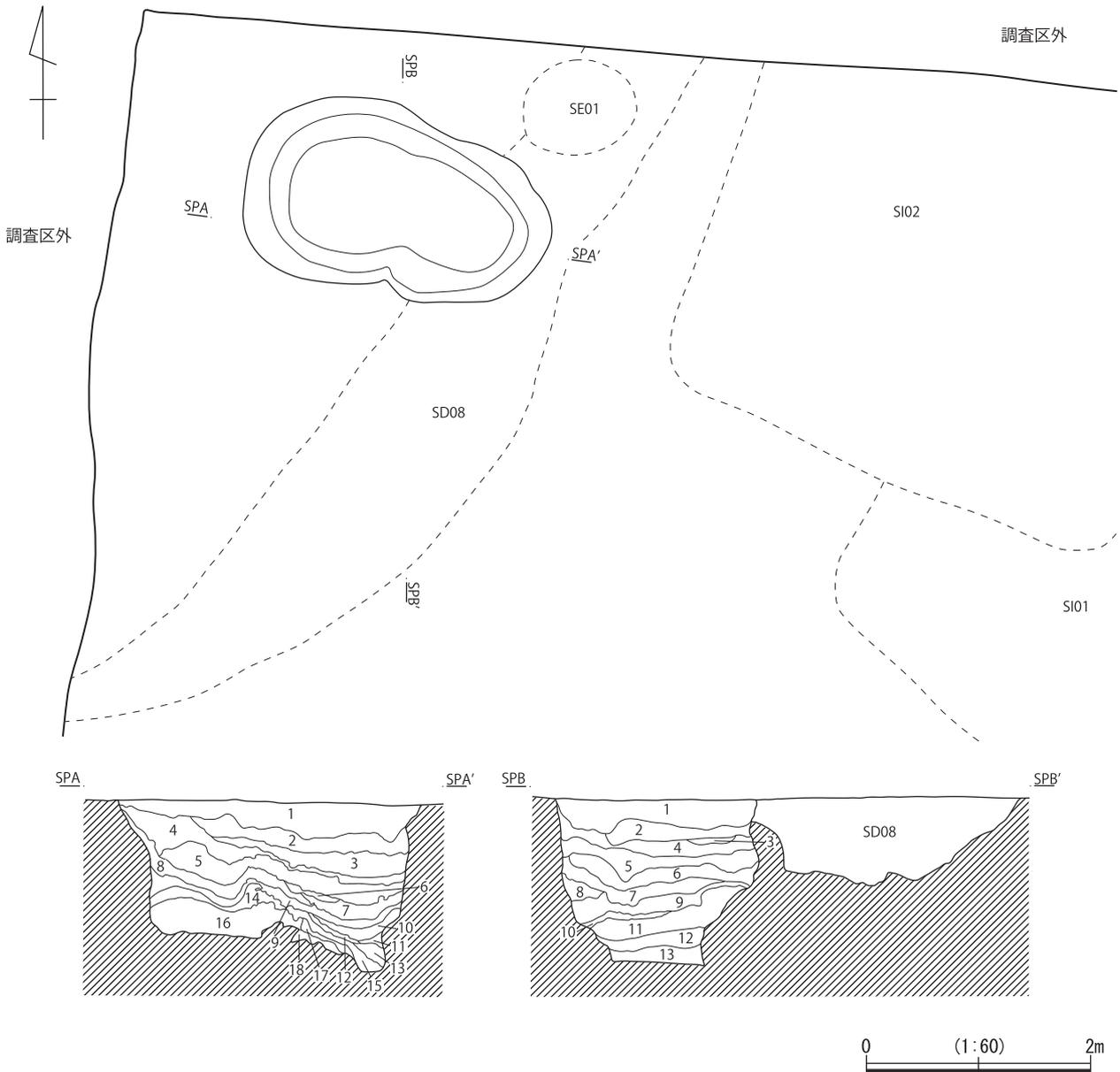
付属遺構：なし。

遺物（第38図、第15表、図版12）

出土状況：本遺構から72点、総重量563.8gの遺物が出土した。土師器67点（530.9g）、ロクロ土師器1点（24.1g）、須恵器3点（7.2g）、礫1点（1.6g）である。そのうち8点を図示した。

時期

出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の可能性がある。



第36図 第2号土坑実測図（SK02）（1）

SK02 土層説明

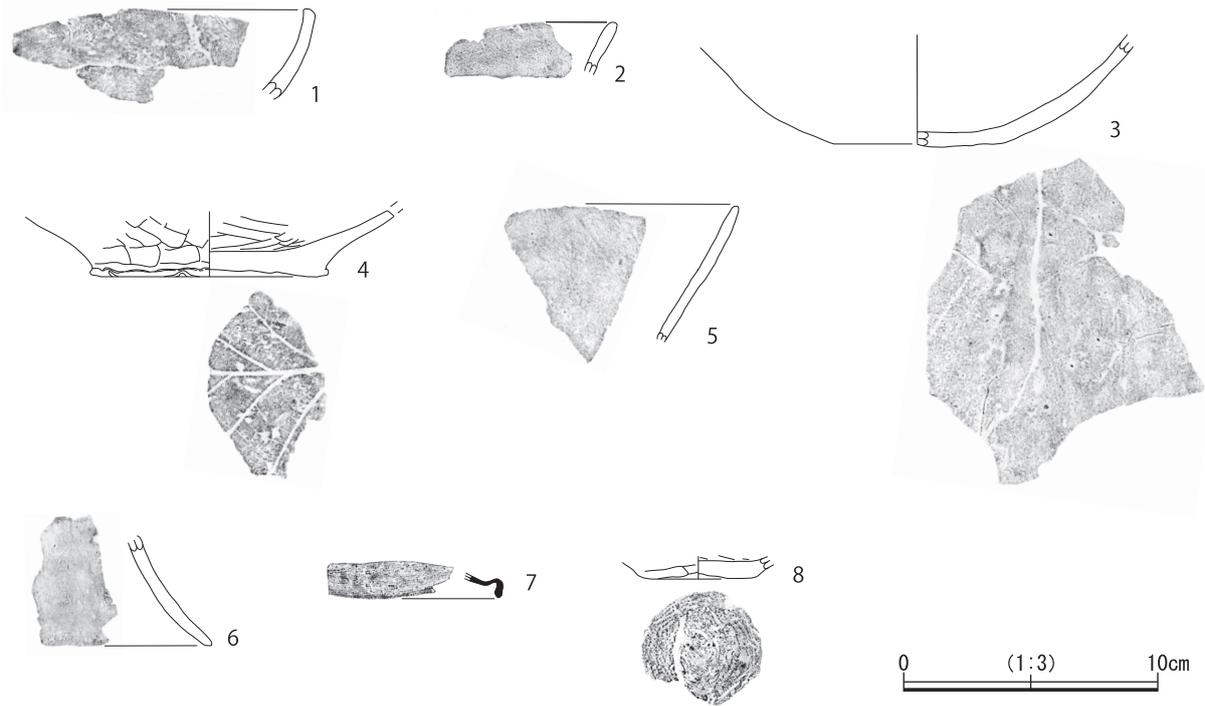
SPA-SPA'

1層	明褐色土	粘性：良	しまり：弱	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量一様に含む
2層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量一様に含む
3層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子少量	
4層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	
5層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量 層のほとんどに黄色粒子・灰色粒子が詰まっている
6層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子少量
7層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量
8層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子ブロック状 (φ30～50mm) に多量含む
9層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
10層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
11層	黒褐色土	粘性：良	しまり：弱	黄褐色粒子多量	
12層	明灰褐色土	粘性：良	しまり：良	灰褐色粒子多量	層全体に入り込んでいる
13層	黒褐色土	粘性：良	しまり：弱	黄褐色粒子多量一様に含む	
14層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
15層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
16層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
17層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子少量	
18層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色土ブロックを含む	

SPB-SPB'

1層	明褐色土	粘性：良	しまり：弱	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量一様に含む
2層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量ブロック状に一様に含む
3層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子少量	
4層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	
5層	明褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量 層のほとんどに黄色粒子・灰色粒子が詰まっている
6層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子ブロック状 (φ30～50mm) に多量含む
7層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
8層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
9層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子少量
10層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色土ブロックを含む	
11層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量
12層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子少量	灰褐色粒子多量
13層	黒褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子多量	灰褐色粒子多量

第37図 第2号土坑実測図 (SK02) (2)



第38図 第2号土坑出土遺物実測図 (SK02)

第15表 第2号土坑出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調		備考
									外面	内面	
38-1 12-SK02-1	SK02	土師器 壺形	口縁部	—	16.9	外面 ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1~3mm赤色粒子中量 φ1~3mm黒色粒子中量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 橙(7.5YR7/6)		
38-2 12-SK02-2	SK02	土師器 壺形	口縁部	—	6.0	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1~3mm白色粒子少量 φ1mm黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(2.5YR6/8) 内面 明赤褐(2.5YR5/6)		
38-3 12-SK02-3	SK02	土師器 壺形	底部	— [6.6]	80.7	外面 ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ2mm白色粒子少量 φ1~3mm褐色粒子微量	やや 良	外面 赤(10R5/8) 内面 橙(5YR6/6)		
38-4 12-SK02-4	SK02	土師器 壺形	底部	— [2.6] [9.4]	60.6	外面 ヘラナデ(横・斜め) 内面 ヘラナデ(横)	φ1~3mm赤色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/3) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)	底部:木葉痕	
38-5 12-SK02-5	SK02	土師器 埴形	口縁部	—	11.8	外面 ナデか 内面 ナデか	φ1mm以下褐色粒子微量 φ3mm褐色礫極微量	良	外面 橙(5YR7/6) 内面 橙(5YR7/6)		
38-6 12-SK02-6	SK02	土師器 高环形	脚部	—	9.5	外面 ナデか 内面 ナデか	φ1mm以下金雲母片極微量 φ1mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR7/6) 内面 橙(5YR7/6)	器面摩滅	
38-7 12-SK02-7	SK02	須恵器 蓋	蓋部	—	5.0	ロク口成形	φ1~2mm白色粒子中量	良	外面 暗灰(N3/) 内面 灰(N4/)		
38-8 12-SK02-8	SK02	ロク口 土師器 环形	底部	— 4.5	24.1	底部回転糸切痕	φ1~2mm以下褐色粒子 少量	良	外面 赤褐(2.5YR4/8) 内面 明赤褐(2.5YR5/6)		

第3号土坑—SK03

SI06に付属する炉として、SI06の項目で説明。(第22図)

4 井戸跡

第1号井戸跡—SE01

遺構(第39図)

位置：B・C-1

重複関係：SD08を切る。

平面形・規模：ほぼ円形を呈し、径1.05mを測る。中端は0.85m前後、下端は0.55mを測る。確認面からの深さは1.24m前後である。断面系は長楕円形を呈し、北西側にテラス状の平坦面がある。

主軸方向：円形のため不明。

覆土：土層断面図による堆積状況の記録がないため不明である。

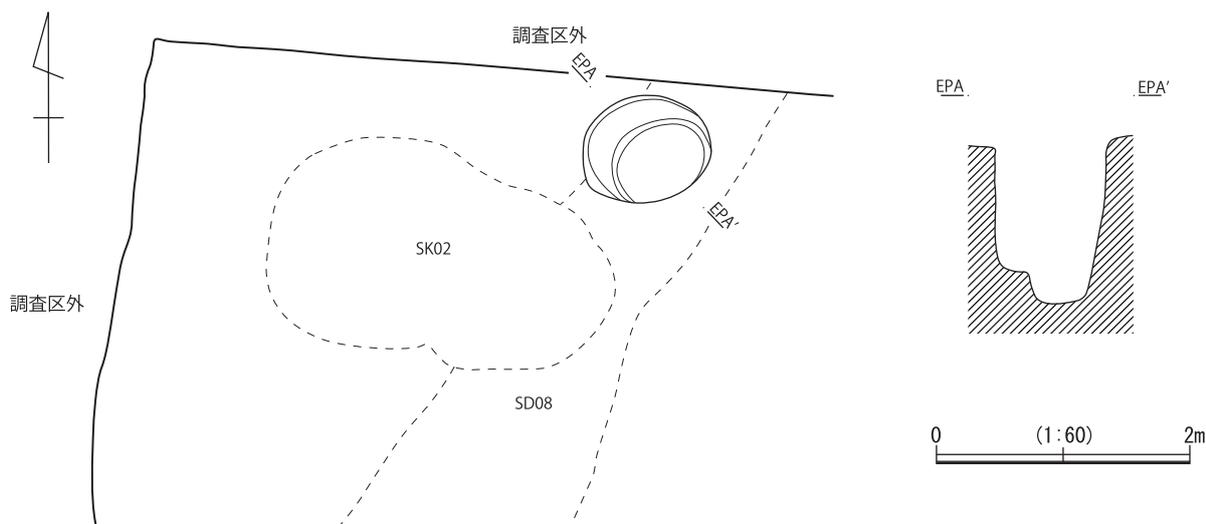
付属遺構：なし。

遺物(第40図、第16表、図版12)

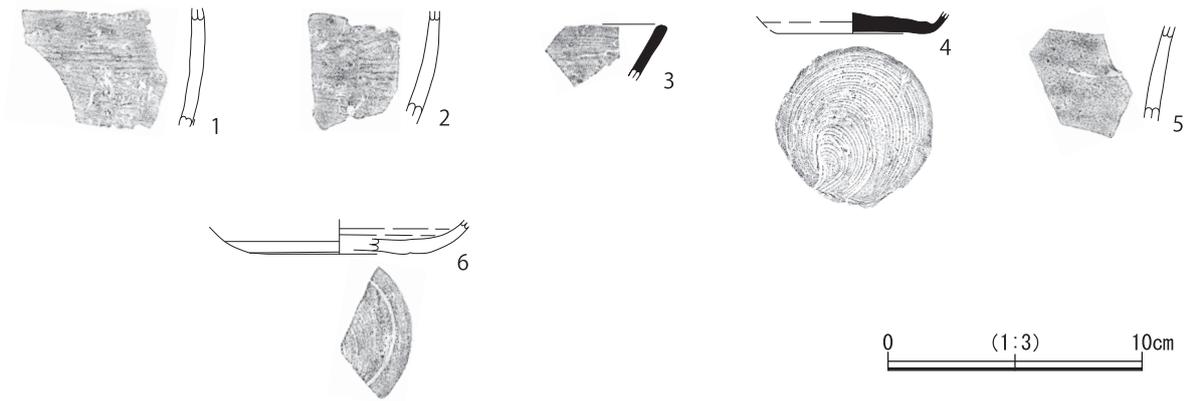
出土状況：本遺構から71点、総重量526.1gの遺物が出土した。土師器53点(252.5g)、ロクロ土師器4点(32.2g)、須恵器12点(132.8g)、陶器2点(108.6g)である。そのうち6点を図化した。

時期

出土遺物及び切合から、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の可能性がある。



第39図 第1号井戸跡実測図(SE01)



第40図 第1号井戸跡出土遺物実測図 (SE01)

第16表 第1号井戸跡出土遺物観察

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調		備考
									外面	内面	
40-1 12-SE01-1	SE01	土師器 壺形	胴部	—	19.5	外面 ナデ 内面 ナデ	φ1mm金雲母片少量 φ2~4mm褐色粒子微量 φ1~2mm黒色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR6/4)		
40-2 12-SE01-2	SE01	土師器 壺形	胴部	—	12.6	外面 ナデ 内面 ナデ	φ1mm金雲母片微量 φ1~2mm白色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR6/4)		
40-3 12-SE01-3	SE01	須恵器 环形	口縁	—	3.0	ロクロ成形	白色針状物質少量 φ1mm以下褐色粒子微量	良	外面 黄灰(2.5Y6/1) 内面 黄灰(2.5Y6/1)	南比企産	
40-4 12-SE01-4	SE01	須恵器 环形	底部	— [0.9] 6.0	41.2	ロクロ成形 底部回転糸切痕	白色針状物質少量 φ1mm以下褐色粒子微量	良	外面 灰(5Y6/1) 内面 灰(5Y5/1)	南比企産	
40-5 12-SE01-5	SE01	陶器 不明	—	—	14.0	内面:自然釉	φ1mm黒色粒子微量 φ1mm以下褐色粒子少量	良	外面 灰オリーブ(5Y4/2) 内面 暗オリーブ(5Y4/3)		
40-6 12-SE01-6	SE01	ロクロ土 師 环形	底部	— [1.4] [6.8]	13.1	ロクロ成形 底部回転糸切痕	φ1mm以下赤色粒子微量 φ1mm以下金雲母片少量	やや 良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 にぶい橙(5YR6/4)		

第2節 その他の遺構と遺物

1 溝状遺構

第1号溝状遺構—SD01

遺構（第41・42図、図版1-2）

位置：C～L-6・7

重複関係：SI09、SD02、SD04を切り、SK01、SE02に切られる。

形状：調査区内では、わずかに蛇行する部分もあるがほぼ直線状を呈しており、東側と西側はそれぞれ調査区外へと続いている。調査区内で確認された長さは35.36mである。上端幅は1.35m～0.95m前後、下端幅は1.0m～0.62m前後、確認面からの深さは0.46～0.32m前後であり、起伏はほとんどみられない。断面は逆台形状（SPA-SPA'）、長方形状（SPC-SPC'）を呈する。

主軸方向：N-85°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'、SPC-SPC'の3箇所を覆土を観察した。最大で5層に分層した。概ね水平堆積であることから、自然堆積によるものと考えられる。

付属遺構：なし

遺物（第43図、第17表、図版12）

出土状況：本遺構から289点、総重量2692.6gの遺物が出土した。土師器が266点（1,443.2g）、ロクロ土師器1点（8.0g）、須恵器8点（124.3g）、陶器12点（746.0g）、礫2点（371.1g）である。そのうち14点を図示した。

時期

出土遺物のうち土師器はSI09からの流れ込みと考えられる。遺構の状況から中世の可能性はある。

第2号溝状遺構—SD02

遺構（第41・42図、図版1-2）

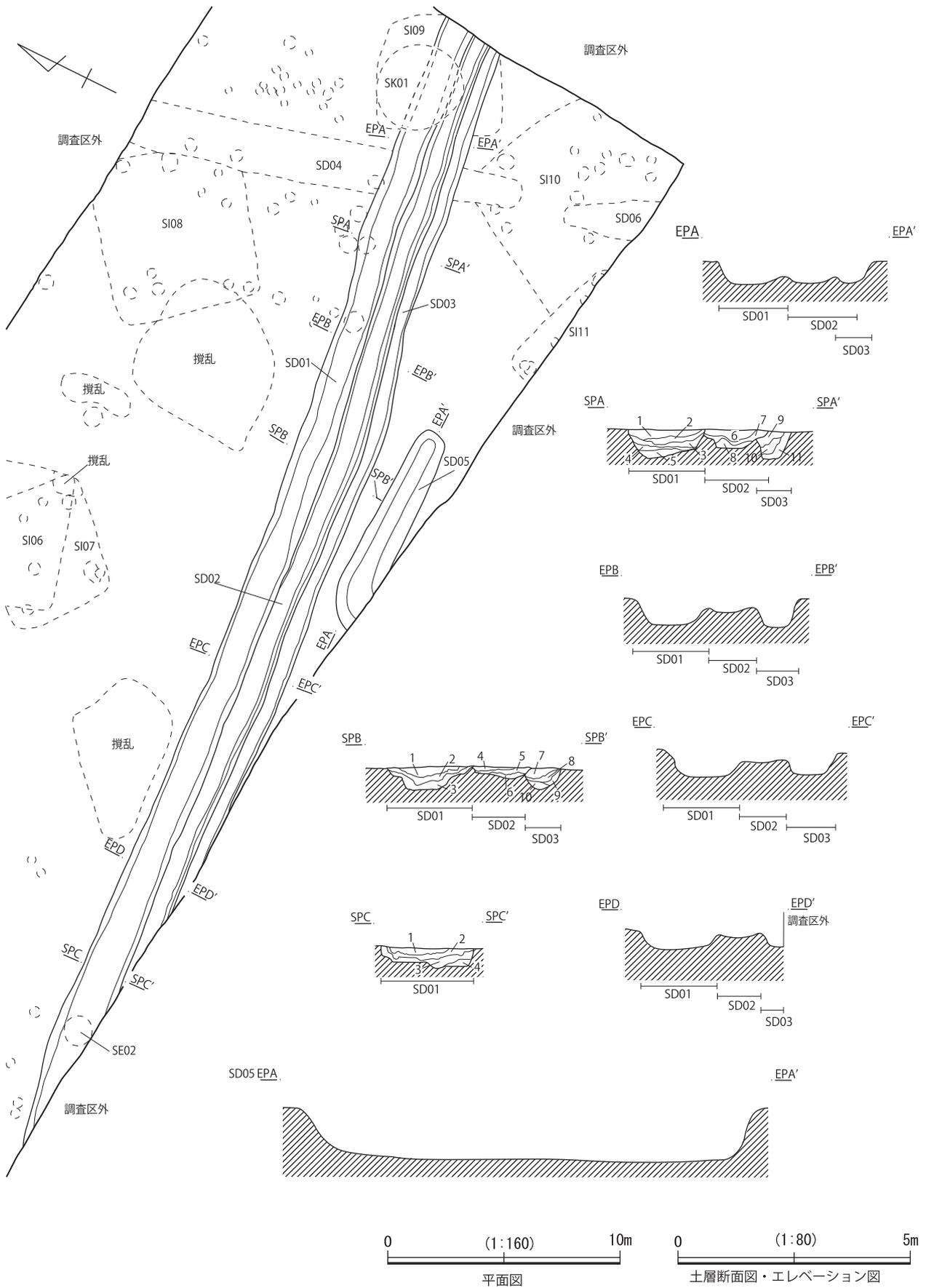
位置：D～L-6・7

重複関係：SI09、SD03、SD04を切り、SK01、SD01に切られる。

形状：SD01と重複しており、北側の上端は不明である。南側の上端はH・7付近で南側に緩やかに膨らむ。調査区内では、ほぼ直線状を呈しており、東側と西側はそれぞれ調査区外へと続いている。調査区内で確認された長さは28.8mである。上端幅の残存している部分は1.1m～0.52m前後、同様に下端幅は0.42m～0.31m前後、確認面からの深さは0.25～0.15m前後であり、東側がやや深いが、その他はほぼ平坦である。SD01、SD03よりも浅い。断面は逆台形状（SPA-SPA'）、皿状（SPB-SPB'）を呈する。

主軸方向：N-83°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2箇所を覆土を観察した。3層に分層した。SPA-SPA'ではやや



第41図 第1・2・3・5号溝状遺構実測図 (SD01・SD02・SD03・SD05) (1)

SD01、SD02、SD03 土層説明

SPA-SPA'

SD01	1層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子微量	黄褐色中ブロック微量
	2層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	焼土粒子微量
	3層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量
	4層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量 黄褐色中ブロック多量
	5層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子微量	焼土粒子微量
SD02	6層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：弱	黄褐色粒子中量	焼土粒子微量
	7層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック中量
	8層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック中量 黄褐色中ブロック多量
SD03	9層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子微量	
	10層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量
	11層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量

SPB-SPB'

SD01	1層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子微量	
	2層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子多量	焼土粒子を微量
	3層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量
SD02	4層	暗褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子微量	
	5層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量
	6層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色小ブロック多量	黄褐色大ブロックを微量 焼土粒子中量
SD03	7層	黒褐色土	粘性：弱	しまり：良	黄褐色粒子中量	焼土粒子微量
	8層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	
	9層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色大ブロック多量
	10層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	

SPC-SPC'

SD01	1層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子中量	粘土質粒子微量
	2層	暗褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	粘土質粒子微量
	3層	暗褐色土	粘性：強	しまり：良	黄褐色粒子中量	黄褐色小ブロック多量 赤色粒子微量
	4層	黒褐色土	粘性：良	しまり：良	黄褐色粒子多量	赤色粒子微量

第42図 第1・2・3・5号溝状遺構実測図 (SD01・SD02・SD03・SD05) (2)

起伏があるものの、概ね水平堆積であることから、自然堆積の可能性はある。

付属遺構：なし

遺物 (第43図、第18表、図版13)

出土状況：本遺構から15点、総重量200.1gが出土した。全て土師器である。そのうち2点を図示した。

時期

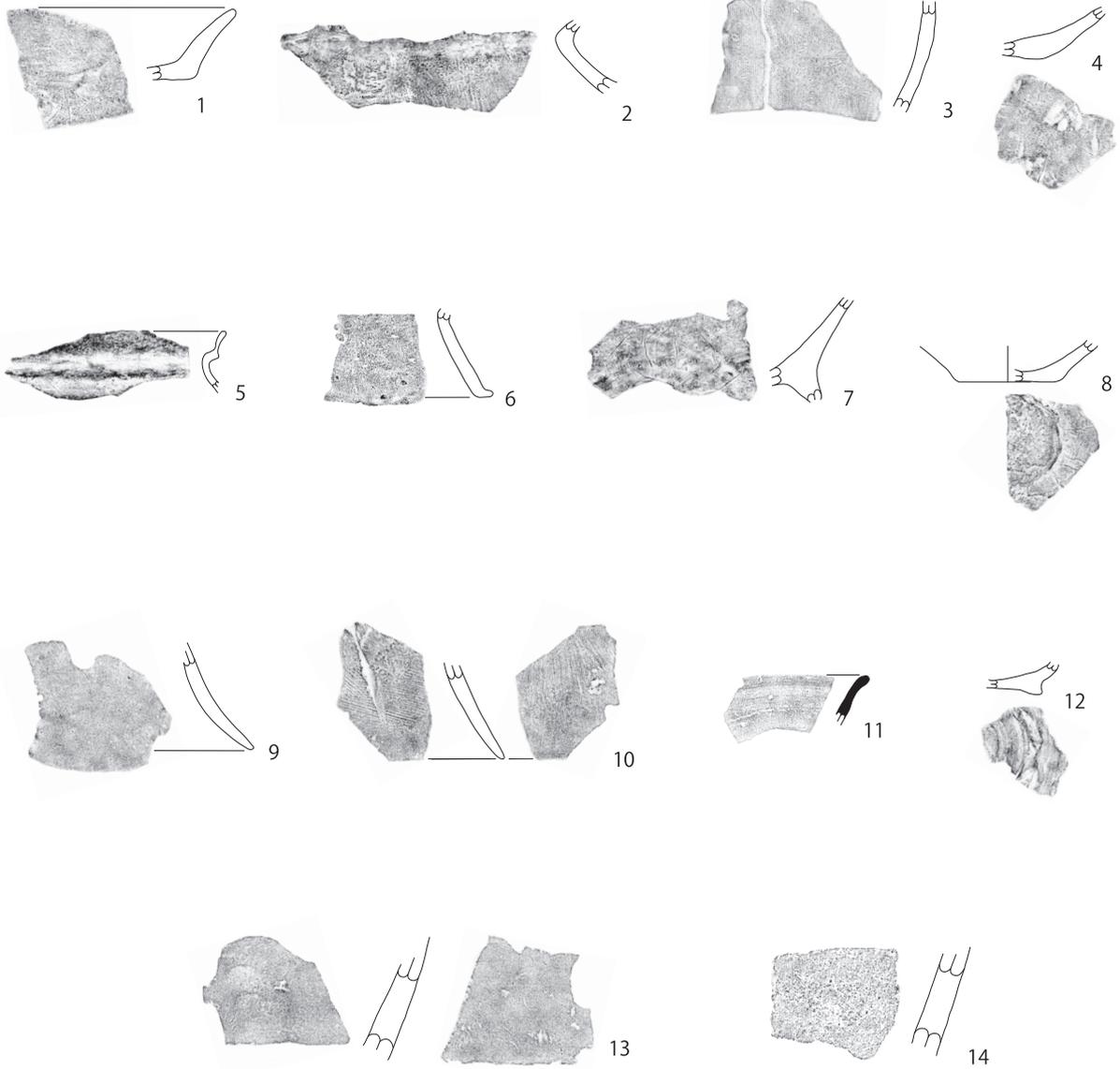
出土遺物のうち土師器はSI09からの流れ込みと考えられる。遺構の状況から中世の可能性はある。

第3号溝状遺構—SD03遺構

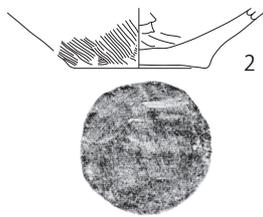
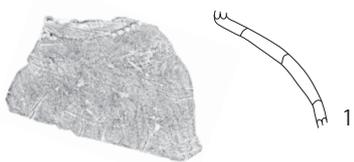
遺構 (第41・42図、図版1-2)

位置：E~L-6・7

重複関係：SI09、SD04を切り、SK01、SD01、SD02に切られる。



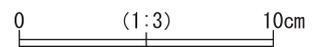
SD01



SD02



SD03



第43図 第1・2・3号溝状遺構出土遺物実測図 (SD01・SD02・SD03)

第17表 第1号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
43-1 12-SD01-1	SD01	土師器 壺形	口縁部	—	20.8	外面	ナデ	φ2mm白色粒子少量 φ1mm以下金雲母片少量 φ1mm黑色粒子微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
内面						ナデ	内面			にぶい橙(7.5YR6/4)		
43-2 12-SD01-2	SD01	土師器 壺形	頸部	—	36.9	外面	ヘラナデ(縦)	φ3mm赤色粒子中量 φ1~3mm褐色粒子少量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/4)	
内面						ナデ	内面			橙(7.5YR7/6)		
43-3 12-SD01-3	SD01	土師器 壺形	胴部	—	30.1	外面	ヘラナデ(斜め)	φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面	にぶい黄橙(10YR6/3)	
内面						ナデ	内面			にぶい黄橙(10YR7/3)		
43-4 12-SD01-4	SD01	土師器 壺形	底部	—	22.4	外面	ナデ	φ1mm以下褐色粒子中量 φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm赤色粒子少量	良	外面	橙(7.5YR7/6)	
内面						ナデ	内面			にぶい褐(7.5YR6/3)		
43-5 12-SD01-5	SD01	土師器 台付甕形	口縁部	—	10.5	外面	ヘラケズリ(横)	φ1mm以下石英粒子少量 φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子中量	良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
内面						ヘラケズリ(横)	内面			にぶい橙(7.5YR7/4)		
43-6 12-SD01-6	SD01	土師器 台付甕形	脚部	—	14.2	外面	ナデ	φ5mm褐色粒子微量 φ3mm褐色粒子中量	やや良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
内面						ナデ	内面			にぶい黄橙(10YR7/4)		
43-7 12-SD01-7	SD01	土師器 台付甕形	脚部	—	35.1	外面	上部:ヘラナデ 下部:ナデ	φ1mm以下褐色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量 φ1~3mm赤色粒子微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR7/4)	
内面						ナデ	内面			にぶい橙(7.5YR6/4)		
43-8 12-SD01-8	SD01	土師器 甕形	底部	— [1.6] [4.4]	12.5	外面	ハケメ→ナデ	φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや良	外面	にぶい赤(7.5R4/4)	内外面赤彩
内面						ヘラナデ	内面			にぶい赤(7.5R4/4)		
43-9 12-SD01-9	SD01	土師器 高环形	脚部	—	19.3	外面	ヘラナデ(縦・斜め)	φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや良	外面	にぶい橙(5YR7/4)	器面摩滅 透孔一か所あり
内面						ヘラナデ(縦)→ナデ	内面			橙(2.5YR6/6)		
43-10 12-SD01-10	SD01	土師器 高环形	脚部	—	15.9	外面	ヘラナデ(斜め)→ヘラミガキ (縦)	φ3mm赤色粒子少量 φ2mm黒色粒子少量	良	外面	黄灰(2.5Y4/1)	
内面						ハケメ(横)	内面			暗赤(10R3/4)		
43-11 12-SD01-11	SD01	須恵器 环形	口縁部	—	6.5	ロクロ成形		φ1mm以下白色粒子少量 φ4mm小礫微量	良	外面	灰(N5/)	
内面						灰(N5/)						
43-12 12-SD01-12	SD01	ロクロ 土師器 环形	底部	—	8.0	ロクロ成形		φ1mm以下金雲母片少量 φ1~2mm黒色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/4)	
内面						黒褐(2.5Y3/1)						
43-13 12-SD01-13	SD01	陶器 甕形	胴部	—	59.5	割れ口を砥石に転用か		φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子極微量	良	外面	灰(7.5Y5/1)	
内面						灰白(N7/)						
43-14 12-SD01-14	SD01	陶器 甕形	胴部	—	47.7	外面	自然釉	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面	暗オリーブ灰(2.5GY4/1)	
内面						ナデか	内面			灰(5Y6/1)		

第18表 第2号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
43-1 13-SD02-1	SD02	土師器 壺形	胴部	—	30.0	外面	ヘラナデ(横)→径2mm程度 の棒状工具による刺突→ナ デ	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下赤色粒子中量	良	外面	にぶい橙(7.5YR6/4)	
内面						ナデ	内面			にぶい橙(7.5YR7/4)		
43-2 13-SD02-2	SD02	土師器 壺形	底部	— [2.4] 5.3	62.8	外面	ハケメ(縦)→ナデ	φ1~2mm赤色粒子中量 φ1mm以下金雲母片少量	良	外面	橙(7.5YR7/6)	外面黒斑
内面						ヘラナデ	内面			橙(7.5YR6/6)		

第19表 第3号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
43-1	SD03	土師器 壺形	頸部	—	29.1	外面 幅8mm程の粘土帯を貼付→ 幅2mm程度の棒状工具による 押圧頸部以下ハケメ(縦) →ナデ	φ1mm以下白色粒子多量 φ1mm以下赤色粒子微量	良	外面 にぶい橙(5YR6/4)	
13-SD03-1						内面 ナデ			内面 黒褐(5YR2/1)	

形状：SD02と同様に、SD02と重複しており、北側の上端は不明である。南側の上端はH・7付近で南側に緩やかに膨らむ。東側と西側はそれぞれ調査区外へと続いている。調査区内で確認された長さは25.9mである。上端幅の残存していた部分は0.64m～0.53m前後、同様に下端幅は0.45m～0.36m前後、確認面からの深さは0.40～0.30m前後であり、起伏はほとんどみられない。断面は幅狭な逆台形状（SPA-SPA'）、楕円状（SPB-SPB'）を呈する

主軸方向：N-85°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2箇所では覆土を観察した。最大で4層に分類した。SD01、SD02とは異なり、人為的な埋め戻しか自然体積によるものかは不明である。

付属遺構：なし

遺物（第43図、第19表）

出土状況：本遺構から18点、総重量175.0gが出土した。全て土師器である。そのうち1点を図示した。

時期

出土遺物はSI09からの流れ込みと考えられる。遺構の状況から中世の可能性はある。

第4号溝状遺構-SD04

遺構（第44図、図版1-2）

位置：J・K-4～7

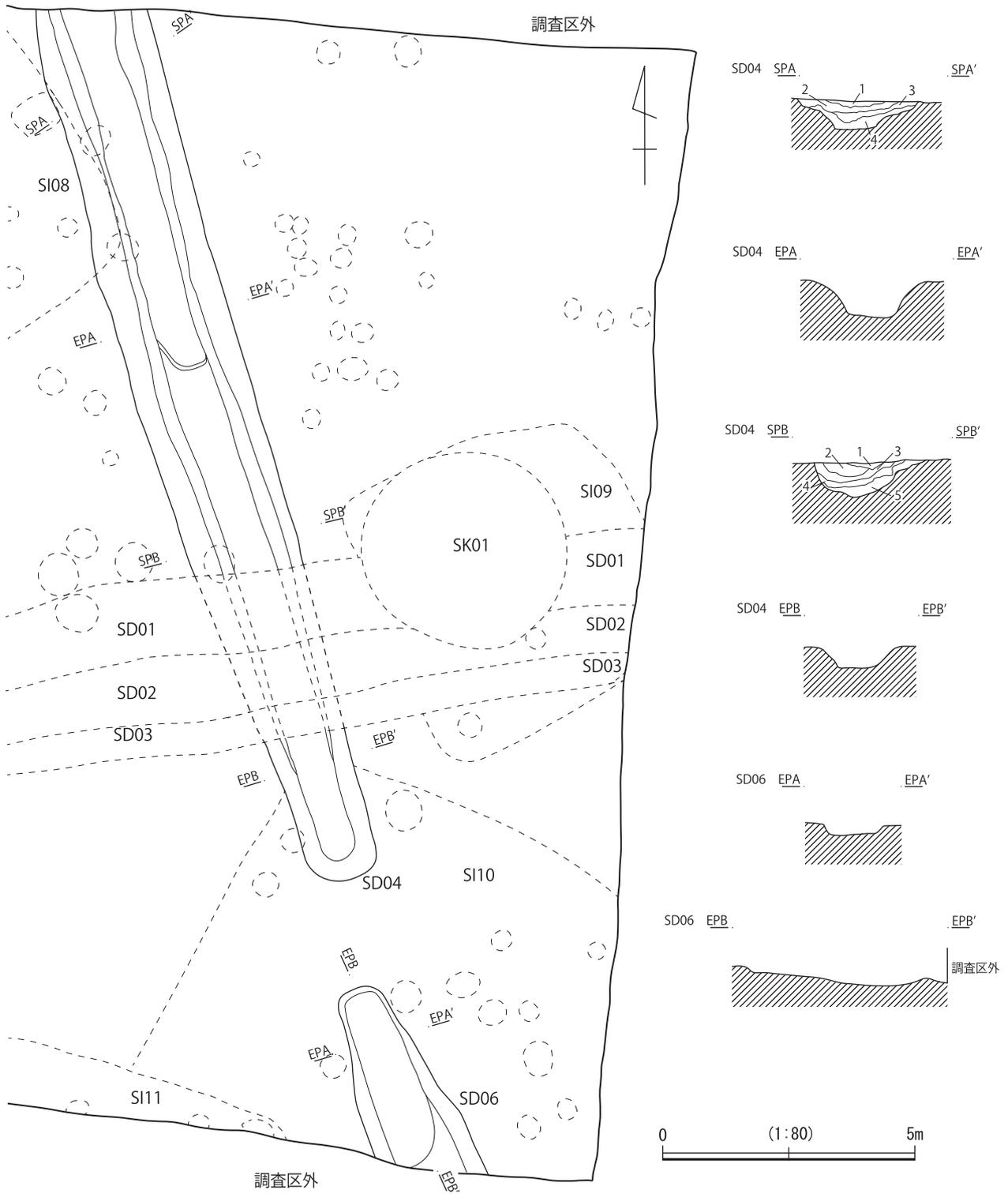
重複関係：SI08、SI10を切り、SD01、SD02、SD03に切られる。

形状：南東方向に伸びており、概ね直線状を呈する。北側が調査区外へと続いている。調査区内で確認された長さは11.9mである。上端幅は1.5m～0.90m前後、下端幅は0.63m～0.46m前後、確認面からの深さは0.46m前後であり、起伏はほとんどみられない。断面は幅広な台形状（SPA-SPA'）、半円状（SPB-SPB'）を呈する。

主軸方向：N-20°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2箇所では覆土を観察した。最大で5層に分類した。比較的水平的な堆積状況なため、自然堆積の可能性はある。

付属遺構：なし



SD04 土層説明

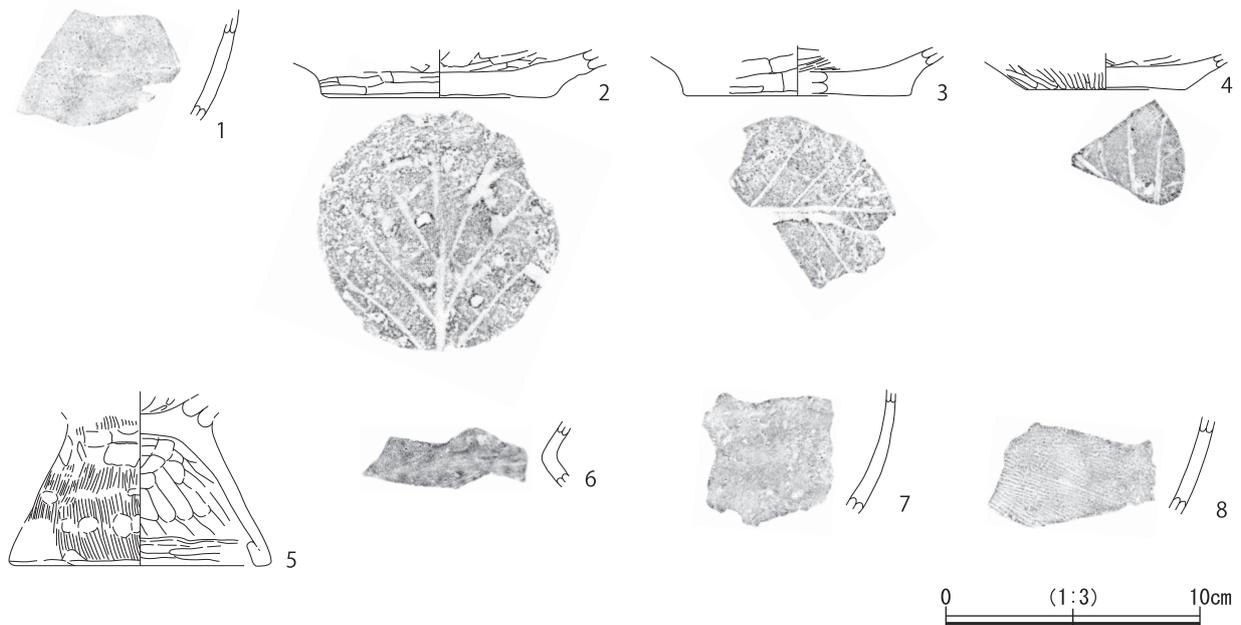
SPA-SPA'

- 1層 黒褐色土 粘性：弱 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量
- 2層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 焼土粒子微量
- 3層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子微量 焼土粒子微量
- 4層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小・中ブロック多量

SPB-SPB'

- 1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 赤色粒子少量 炭化物微量 灰褐色粒子多量
- 2層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子少量
- 3層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 赤色粒子少量
- 4層 黒褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量
- 5層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子多量

第44図 第4・6号溝状遺構実測図 (SD04・SD06)



第45図 第4号溝状遺構出土遺物実測図 (SD04)

第20表 第4号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
45-1 13-SD04-1	SD04	土師器 壺形	胴部	—	17.1	外面 ナデ 内面 ナデ	φ1~2mm赤色粒子微量 φ2mm黒色粒子少量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 明黄褐(10YR7/6)			
45-2 13-SD04-2	SD04	土師器 壺形	底部	[1.9] 9.0	189.0	外面 ヘラケズリ(横) 内面 ヘラケズリ(横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ1~2mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/6) 内面 にぶい赤褐(5YR5/4)			
45-3 13-SD04-3	SD04	土師器 壺形	底部	[2.0] [9.0]	63.3	外面 ヘラナデ(横) 内面 ヘラケズリ(横)	φ1mm以下金雲母片中量 φ1~2mm大黒色粒子少量 φ1mm白色粒子少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		底部:木葉痕	
45-4 13-SD04-4	SD04	土師器 壺形	底部	[1.4] [6.4]	26.1	外面 ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下石英粒子微量 φ1mm赤色粒子中量 φ1mm以下白色粒子中量	良	外面 にぶい橙(7.5YR6/4) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		底部:木葉痕	
45-5 13-SD04-5	SD04	土師器 台付甕形	脚部	[6.9] [10.3]	188.4	外面 ハケメ(縦)→ナデ 内面 ナデ	φ1mm白色粒子中量 φ1mm黒色粒子少量	良	外面 にぶい橙(2.5YR6/4) 内面 にぶい褐(7.5YR5/4)			
45-6 13-SD04-6	SD04	土師器 甕形	頸部	—	13.5	外面 ナデか 内面 ナデか	φ1~2mm赤色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)			
45-7 13-SD04-7	SD04	土師器 甕形	胴部	—	22.4	外面 ヘラナデ(斜め) 内面 ナデか	φ1~3mm赤色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子微量 φ1mm以下金雲母片極微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 明赤褐(2.5YR5/8)			
45-8 13-SD04-8	SD04	土師器 甕形	胴部	—	20.1	外面 ハケメ(横) 内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm黒色粒子微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい黄褐(10YR5/3)			

遺物 (第45図、第20表、図版13)

出土状況：本遺構から137点、総重量1,231.6gの遺物が出土した。土師器133点 (1,173.3g)、ロクロ土師器2点 (39.9g)、須恵器1点 (1.2g)、陶器1点 (17.2g) である。そのうち8点を図示した。

時期

出土遺物のうち土師器はSI08、SI10からの流れ込みと考えられる。そのため中世の可能性はある。

第5号溝状遺構－SD05

遺構（第41・42図、図版1－2）

位置：G・H・I－7

重複関係：なし

形状：東側へ屈曲し、L字状の形状を呈す。南側は調査区外へ続いている。調査区内で確認された長さは6.40m前後である。上端幅は1.22m～0.85m前後、下端幅は0.48m～0.34m前後、確認面からの深さは0.76m前後である。EPA－EPA'から、本遺構の底面には起伏はほとんどみられない。

主軸方向：N－90°－E

覆土：土層断面図による堆積状況の記録がないため不明である。

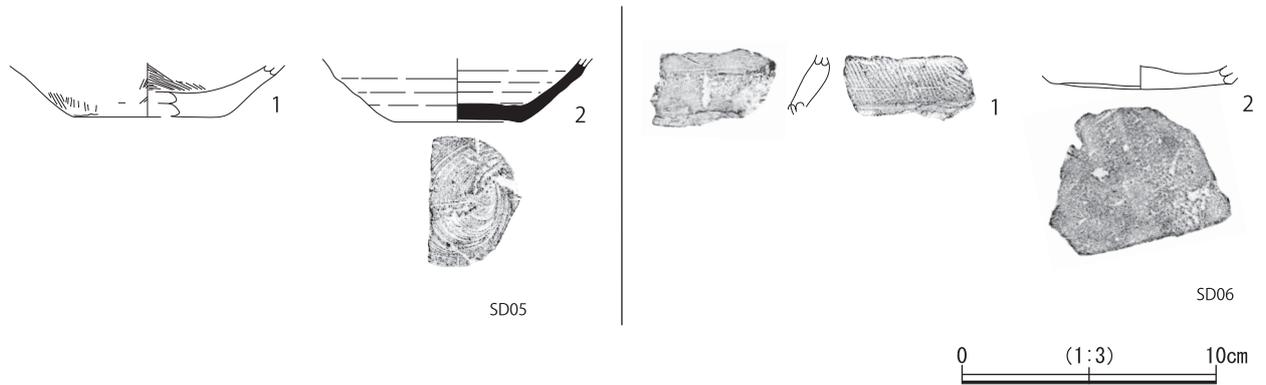
付属遺構：なし

遺物（第46図、第21表、図版13）

出土状況：本遺構から11点、総重量342.2gの遺物が出土した。土師器8点（70.1g）、須恵器1点（35.0g）、陶器1点（5.3g）、礫1点（231.8g）である。そのうち2点を図示した。

時期

出土遺物から中世の可能性はある。



第46図 第5・6号溝状遺構出土遺物実測図（SD05・SD06）

第21表 第5号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
46-1	SD05	土師器 甕形	底部	—	39.9	外面 ハケメ(斜め)	φ1mm以下白色粒子中量	やや 良	外面 灰褐(5YR4/2)	底部剥落
13-SD05-1				[2.0] [6.0]		内面 ハケメ(縦)			内面 灰褐(7.5YR5/2)	
46-2	SD05	須恵器 环形	底部	—	35.0	ロクロ成形 底部回転糸切痕	φ1mm以下褐色粒子中量	良	外面 灰(7.5Y5/1)	東金子か
13-SD05-2				[2.5] [5.0]					内面 灰(7.5Y4/1)	

第6号溝状遺構—SD06

遺構（第44図、図版7-1）

位置：K-7・8

重複関係：SI10を切る。

形状：本調査区の南東角付近から北西方向へ概ね直線状に伸びる。南側は調査区外へと続いている。調査区内で確認された長さは2.86mである。上端幅は1.23m～0.62m前後、下端幅は0.84m～0.56m前後、確認面からの深さは0.26m前後であり、調査区壁面へと緩やかに下るが、調査区壁面直前でやや立ち上がり、また緩やかに下る。断面は幅広な逆台形状であり、浅い。

主軸方向：N-60°-E

覆土：土層断面図による堆積状況の記録がないため不明である。

付属遺構：なし

遺物（第46図、第22表、図版13）

出土状況：本遺構から19点、総重量148.0gの遺物が出土した。土師器18点（112.5g）であり、ロクロ土師器が1点（35.5g）ある。そのうち2点を図示した。

時期

出土した土師器はSI10からの流れ込みが考えられ、他の溝状遺構と同様に中世の可能性はある。

第22表 第6号溝状遺構出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
46-1 13-SD06-1	SD06	土師器 甕形	胴部	—	15.3	外面	ハケメ(斜め)	φ1mm以下褐色粒子中量 φ1mm以下金雲母片微量	やや 良	外面	橙(5YR6/6)	
内面						ヘラケズリ(横)	内面			橙(5YR6/8)		
46-2 13-SD06-2	SD06	ロクロ 土師器 环形	底部	— [0.9] [7.0]	35.5	外面	底部 ヘラケズリ(横)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下白色粒子微量	やや 良	外面	橙(7.5YR7/6)	
内面						ナデ	内面			にぶい橙(7.5YR7/4)		

第7号溝状遺構—SD07

遺構（第47図、図版3-4、4-2）

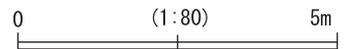
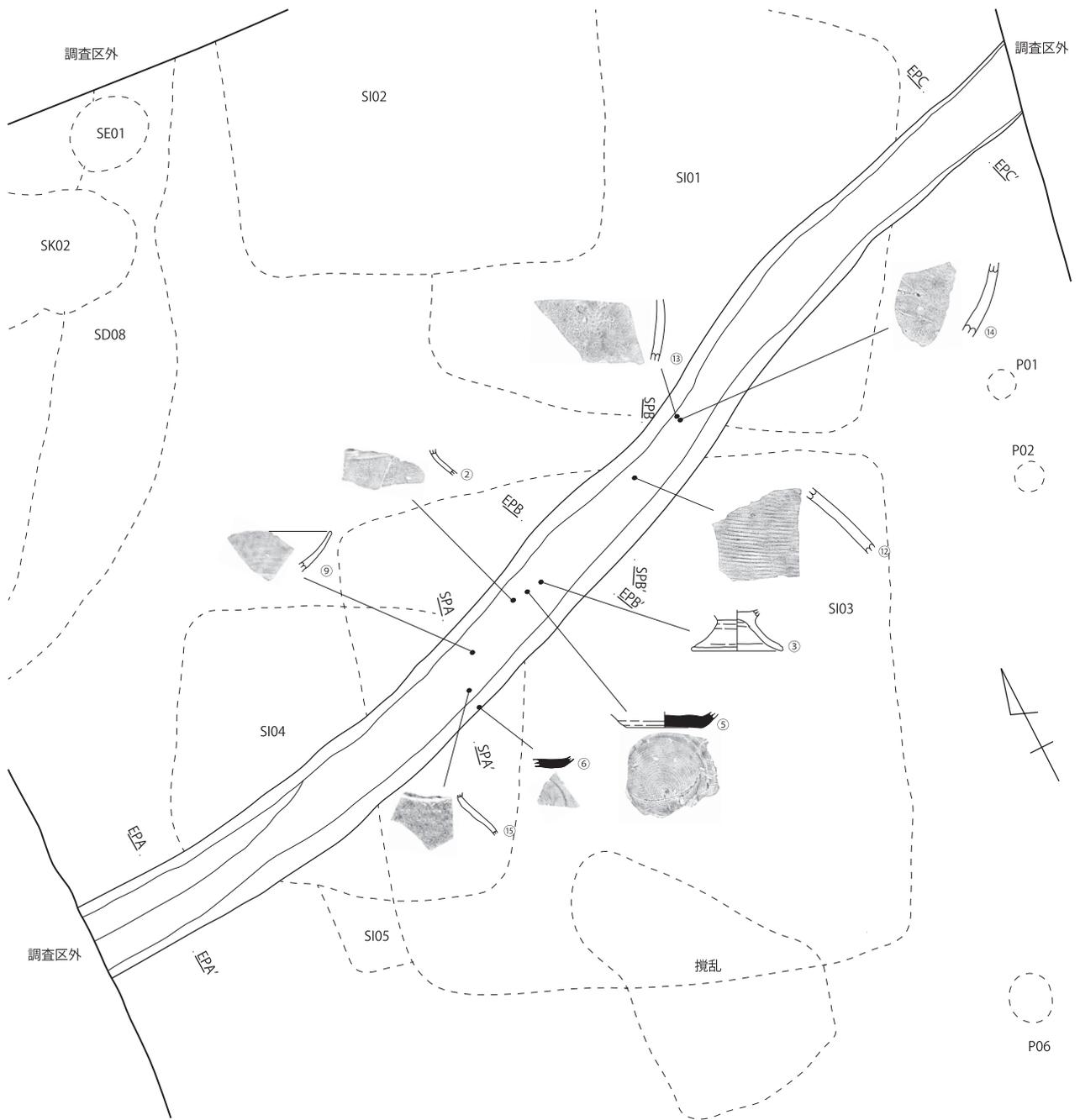
位置：A~E-2・3

重複関係：SI01、SI03、SI04、SI05を切る。

形状：東側と西側が調査区外へと続いており、調査区内での形状は緩やかに南側へ曲がる。形状は上端が平行を保ちながらも、若干蛇行する。調査区内で確認された長さは14.71mである。上端幅は0.98m～0.92m前後、下端幅は0.76m～0.41m前後、確認面からの深さは0.40m前後であり、東側に行くにつれ、浅くなる傾向がある。断面は台形状（SPA-SPA'、SPB-SPB'）を呈する。

主軸方向：N-70°-E

覆土：SPA-SPA'、SPB-SPB'の2箇所覆土を観察した。2層に分層し、水平な堆積状況から、



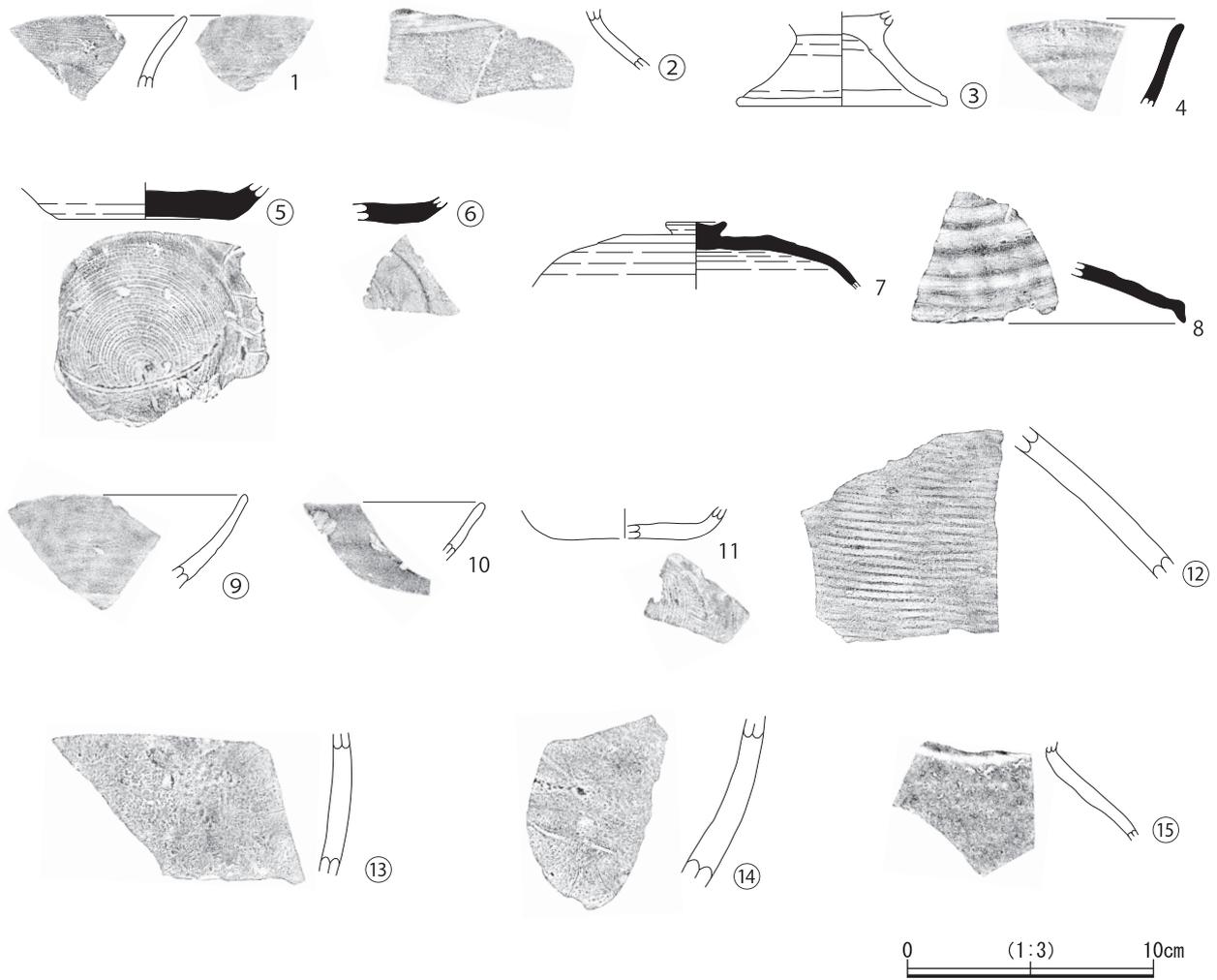
SD07 土層説明

SPA-SPA'、SPB-SPB'

1層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小ブロック多量 焼土粒子微量

2層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子中量 黄褐色小ブロック多量

第47図 第7号溝状遺構実測図・遺物出土状況図 (SD07)



第48図 第7号溝状遺構出土遺物実測図 (SD07)

第23表 第7号溝状遺構出土遺物観察表 (1)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
48-1 13-SD07-1	SD07	土師器 壺形	口縁部	—	7.7	外面 ヘラナデ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黑色粒子微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4)	内面 にぶい黄橙(10YR7/4)	
48-② 13-SD07-②	SD07	土師器 壺形	胴部	—	15.6	外面 ヘラケズリ 上部:ナデ	内面 ナデ	φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下白色粒子少量	良	外面 明赤褐(5YR5/6)	内面 にぶい赤褐(5YR4/4)	
48-③ 13-SD07-③	SD07	土師器 脚付鉢形	脚部	[3.8] 8.4	82.6	外面 ヘラケズリ(横)	内面 ヘラケズリ(横)	φ1mm以下金雲母片少量 φ1mm以下白色粒子微量	良	外面 橙(2.5YR6/8)	内面 明赤褐(2.5YR5/6)	
48-4 13-SD07-4	SD07	須恵器 环形	口縁部	—	6.6	ロクロ成形		φ1mm以下白色粒子中量 φ1mm以下黑色粒子少量	良	外面 灰(N6/)	内面 灰(N6/)	
48-⑤ 13-SD07-⑤	SD07	須恵器 环形	底部	[1.3] 7.0	85.4	ロクロ成形 底部回転糸切痕		白色針状物質中量 φ1mm石英粒子微量	良	外面 灰(5Y6/1)	内面 灰(5Y6/1)	南比企産
48-⑥ 13-SD07-⑥	SD07	須恵器 环形	底部	—	8.1	ロクロ成形 底部回転糸切痕		φ1mm褐色粒子少量 φ3mm褐色粒子極微量	良	外面 灰(5Y5/1)	内面 灰(5Y5/1)	

第24表 第7号溝状遺構出土遺物観察表(2)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
48-7 13-SD07-7	SD07	須恵器 蓋	口縁部	2.4 [2.7]	36.9	外面 回転ヘラケズリ 内面 回転ヘラケズリ		φ1mm以下白色粒子中量	良	外面 灰(N6/) 内面 灰(N6/)		
48-8 13-SD07-8	SD07	須恵器 蓋	口縁部	—	20.4	ロクロ成形		φ1mm白色粒子少量 φ1mm以下石英粒子微量	良	外面 灰(N5/) 内面 灰(N5/)		
48-⑨ 13-SD07-⑨	SD07	ロクロ土 師 环形	口縁部	—	11.6	ロクロ成形		φ1mm以下金雲母片微量 φ1~2mm黒色粒子微量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		
48-10 14-SD07-10	SD07	ロクロ土 師 环形	口縁部	—	5.3	ロクロ成形		φ1mm以下赤色粒子少量 φ1mm以下黒色粒子少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR7/4)		
48-11 14-SD07-11	SD07	ロクロ土 師 环形	底部	— [5.4]	7.0	ロクロ成形 底部回転糸切痕		φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや 良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR7/3)		
48-⑫ 14-SD07-⑫	SD07	陶器 甕形	胴部	—	110.7	外面 平行タタキ		φ1~2mm白色粒子少量	良	外面 灰(7.5Y4/1) 内面 黄灰(2.5Y6/1)		
48-⑬ 14-SD07-⑬	SD07	陶器 甕形	胴部	—	61.1	ロクロ成形 外面:自然釉		φ1mm黒色粒子多量 φ1mm以下白色粒子中量	良	外面 灰オリーブ(5Y4/2) 内面 灰白(5Y7/1)		
48-⑭ 14-SD07-⑭	SD07	陶器 甕形	胴部	—	58.0	ロクロ成形 外面:自然釉		φ1mm黒色粒子中量 φ1mm以下白色粒子少量	良	外面 灰オリーブ(5Y5/3) 内面 灰白(2.5Y7/1)		
48-⑮ 14-SD07-⑮	SD07	陶器 甕形	胴部	—	24.1	ロクロ成形 外面:自然釉		φ3mm白色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子少量	良	外面 暗オリーブ灰(2.5GY3/1) 内面 灰(N6/)		

自然堆積の可能性がある。

付属遺構：なし

遺物(第48図、第23・24表、図版13・14)

本遺構から232点、総重量1,545.1gの遺物が出土した。土師器138点(438.2g)、ロクロ土師器4点(80.3g)、須恵器73点(717.4g)、陶器17点(309.2g)である。そのうち15点を図示した。

時期

出土遺物から平安～中世の可能性がある。また、本遺構出土の土師器はSI01・SI03・SI04・SI05から流れ込んだものと考えられる。

2 土坑

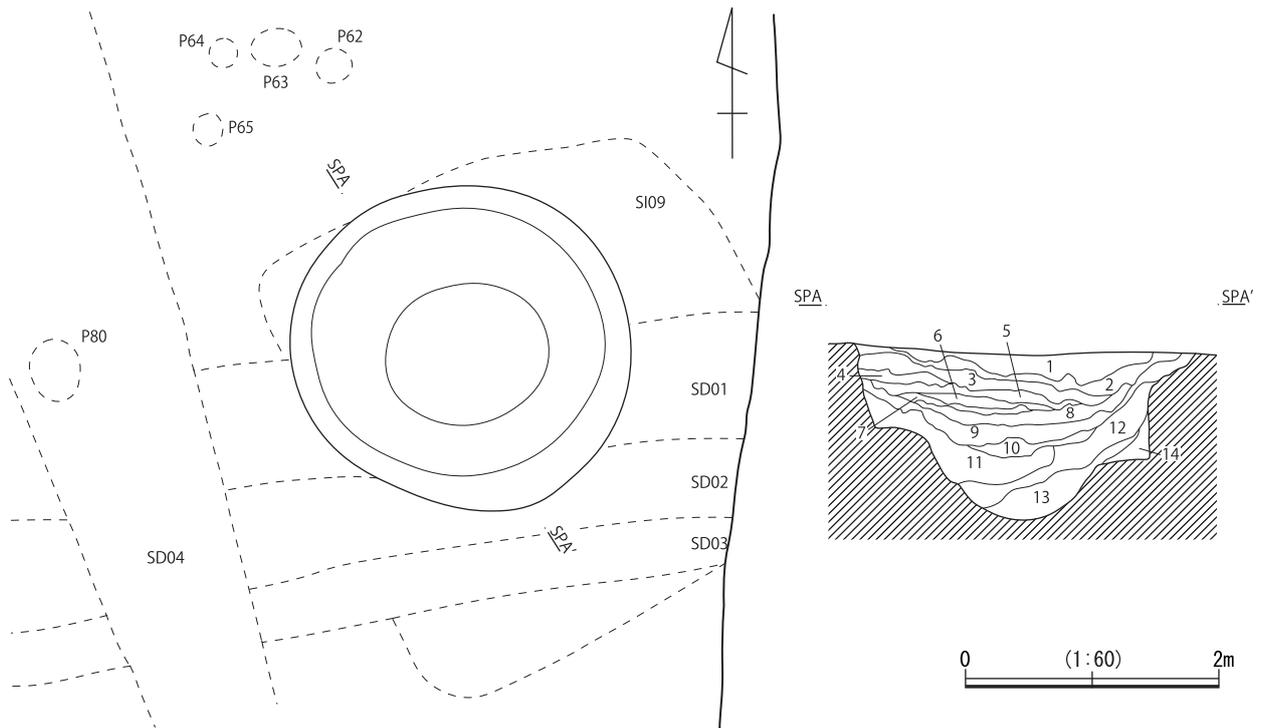
第1号土坑-SK01

遺構(第49図 図版6-2)

位置：K-6

重複関係：SI09、SD01、SD02、SD03を切る。

平面形・規模：円形を呈し、径2.63mを測る。中端2.15m前後、下端1.08m前後である。確認面からの深さは1.29m前後である。断面は下底が丸みを帯びる逆台形状を呈する。



SK01 土層説明

SPA-SPA'

- 1層 明褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子少量 φ30mmの黄褐色ブロック少量 赤色粒子微量 炭化物微量
- 2層 明褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色ブロック微量 赤色粒子微量 炭化物微量
- 3層 明褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子を層全体に一様に多量に含む 灰褐色粒子少量 赤色粒子少量
- 4層 明褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 黄褐色ブロック微量
- 5層 明褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子少量 灰褐色粒子少量
- 6層 暗褐色土 粘性：良 しまり：強 φ20～30mmの黄褐色粒子をブロック状に含む
- 7層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子少量
- 8層 暗灰褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子多量 灰褐色粒子多量 層全体に一様に含まれる 黄褐色砂質粘土多量
- 9層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子多量 φ20～50mm黄褐色ブロック中量
- 10層 暗褐色土 粘性：良 しまり：良 黄褐色粒子少量
- 11層 暗褐色土 粘性：強 しまり：良 黄褐色粒子多量 φ10～30mmのブロック状に含む
- 12層 暗褐色土 粘性：強 しまり：強 黄褐色粒子少量 炭化物少量 赤色粒子少量
- 13層 黒褐色土 粘性：強 しまり：強 黄褐色粒子少量 赤色粒子少量
- 14層 黒褐色土 粘性：強 しまり：強 黄褐色粒子多量

第49図 第1号土坑実測図 (SK01)

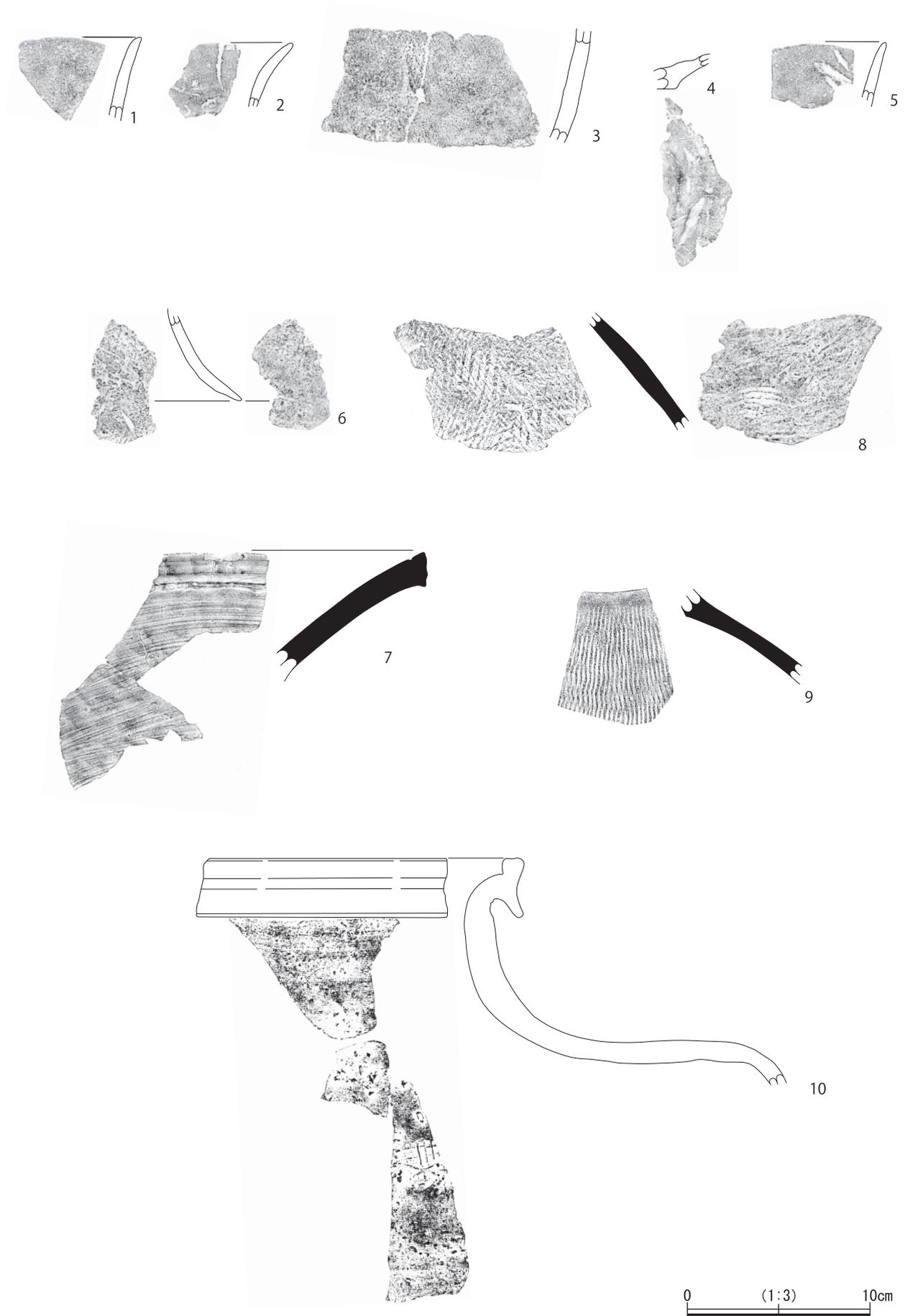
主軸方向：平面形が円形のため不明。

覆土：SPA-SPA'の1箇所では覆土を観察した。14層に分層し、自然堆積の可能性はある。

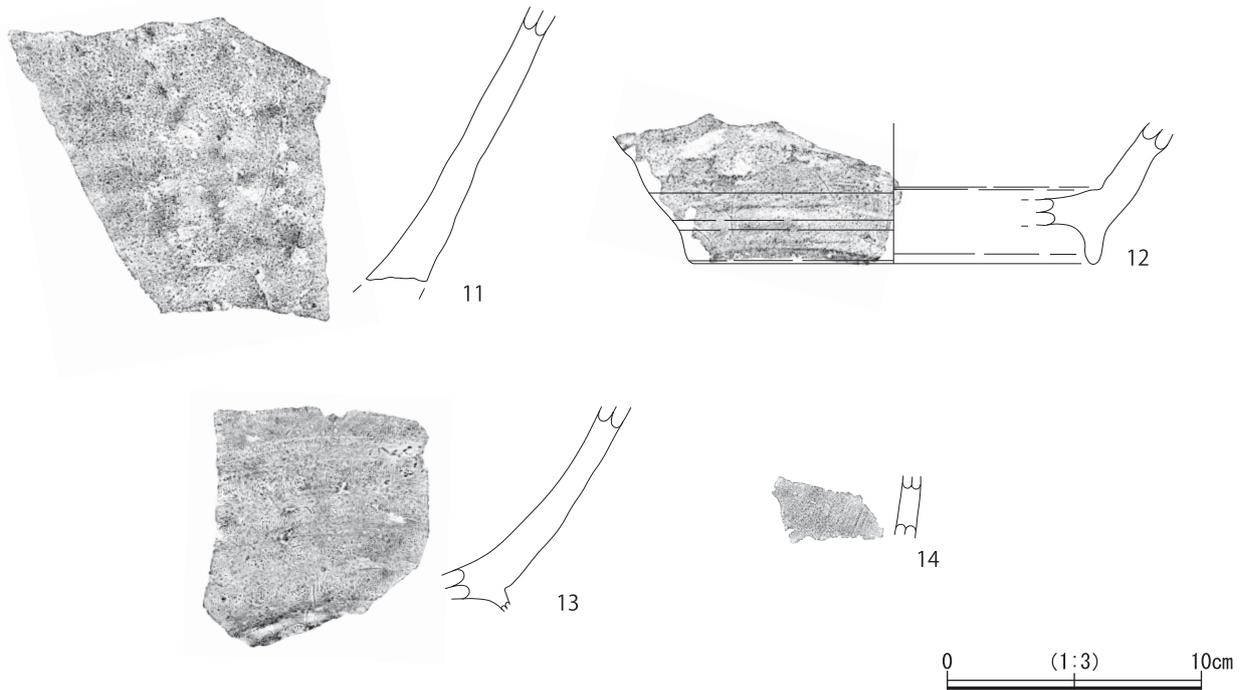
付属遺構：なし

遺物 (第50・51図、第25・26表、図版14)

出土状況：本遺構から123点、総重量2,973.6gの遺物が出土した。土師器92点 (1,097.6g)、須恵器12点 (132.8g)、陶器17点 (881.4g)、礫2点 (861.8g) ある。そのうち、14点を図示した。



第50图 第1号土坑出土遗物实测图 (SK01) (1)



第51図 第1号土坑出土遺物実測図 (SK01) (2)

第25表 第1号土坑出土遺物観察表 (1)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
50-1 14-SK01-1	SK01	土師器 壺形	口縁部	—	12.3	外面 ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ1~2mm赤色粒子微量 φ1mm黒色粒子少量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)			
50-2 14-SK01-2	SK01	土師器 壺形	口縁部	—	9.7	外面 ヘラナデ(縦) 内面 ヘラナデ(横)	φ1~3mm赤色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 赤(10R5/6) 内面 にぶい橙(7.5YR6/4)			
50-3 14-SK01-3	SK01	土師器 壺形	胴部	—	89.0	外面 ヘラナデ(斜め)→ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ2mm赤色粒子微量 φ1mm以下褐色粒子少量	良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 にぶい黄橙(10YR7/4)			
50-4 14-SK01-4	SK01	土師器 壺形	底部	—	27.6	外面 ナデ 内面 ナデか	φ2mm赤色粒子中量 φ1mm以下褐色粒子少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 浅黄橙(7.5YR8/4)			
50-5 14-SK01-5	SK01	土師器 甕形	口縁部	—	10.6	外面 ヘラナデ(斜め) 内面 ヘラナデ(横)	φ2mm赤色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 橙(7.5YR7/6)		器面摩滅	
50-6 14-SK01-6	SK01	土師器 高环形	脚部	—	17.6	外面 ナデ 内面 ヘラナデ(横)	φ1~2mm褐色粒子少量 φ1~2mm赤色粒子少量	良	外面 赤(10R4/6) 内面 橙(5YR6/6)			
50-7 14-SK01-7	SK01	須恵器 甕形	口縁部	—	165.3	ロクロ成形	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面 灰(N4/) 内面 暗オリーブ灰(2.5GY4/1)			
50-8 14-SK01-8	SK01	須恵器 甕形	胴部	—	86.6	外面 タタキ(格子目) 内面 タタキ(斜め・横)	φ1mm以下褐色粒子多量	良	外面 暗灰(N3/) 内面 灰(N4/)			
50-9 14-SK01-9	SK01	須恵器 甕形	胴部	—	57.8	外面 タタキ	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面 灰白(2.5Y8/1) 内面 灰白(2.5Y7/1)			
50-10 14-SK01-10	SK01	須恵器 甕形	口縁~ 胴部	—	326.6	ロクロ成形	φ5mm黒色粒子中量 φ3~5mm白色粒子中量	良	外面 にぶい赤褐(5YR4/3) 内面 にぶい赤褐(2.5YR4/3)		常滑産	

第26表 第1号土坑出土遺物観察表(2)

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
51-11 14-SK01-11	SK01	陶器 甕形	胴部	—	219.2	外面	ナデ	φ1~2mm白色粒子中量 φ2mm黑色粒子微量	良	外面	にぶい褐(7.5YR5/4)	常滑産か
内面						ヘラケズリ(横)	内面			灰褐(7.5YR5/2)		
51-12 14-SK01-12	SK01	陶器 甕形	底部	— [5.5] [16.0]	111.4	ロクロ成形		φ1~2mm白色粒子中量	良	外面	灰白(5Y7/1)	
内面							内面			灰白(7.5Y7/1)		
51-13 14-SK01-13	SK01	陶器 甕形	胴部~ 底部	—	165.9	ロクロ成形		φ1mm以下白色粒子微量 φ3mm白色粒子微量	良		灰(5Y6/1)	
										灰(7.5Y6/1)		
51-14 14-SK01-14	SK01	陶器 甕形	胴部	—	13.6	外面	タタキ	φ1mm以下白色粒子少量 φ1mm以下黑色粒子微量	良	外面	灰(N5/)	
							内面				内面	

時期

SI09・SD01・SD02を掘削し本遺構が形成されており、出土遺物のうち土師器はSI09からの流れ込みと考えられる。そのため中世の可能性はある。

3 井戸跡

第2号井戸跡—SE02

遺構(第52図)

位置：D-7

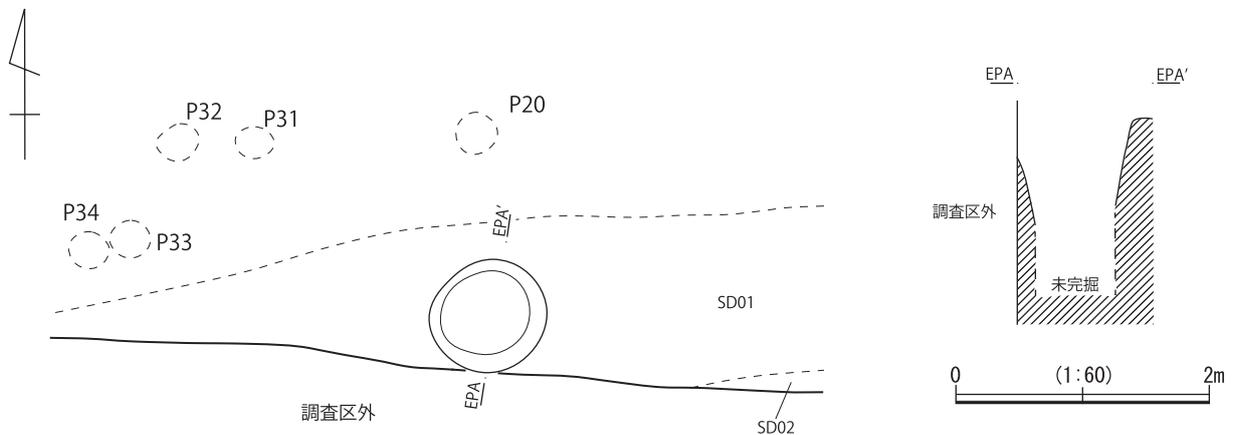
重複関係：SD01を切る。

平面形・規模：円形を呈し、径0.93mを測る。下端は0.68m前後である。底部まで完掘されておらず、確認できた深さは1.41m前後である。断面形状は掘削された部分は円筒形を呈する。

主軸方向：円形のため不明。

覆土：土層断面図による堆積状況の記録がないため不明。

付属遺構：なし。



第52図 第2号井戸跡実測図(SE02)

遺物

出土状況：本遺構から遺物は出土していない。

時期

遺物が出土していないが、SD01との切合から中世相当の可能性はある。

4 ピット

ピットは87基検出した。調査区のC-5・6・7、I・J-6・7、K-5に集中する傾向がある。掘立柱建物及び、柵列について検討したものの、有意な組み合わせは判別し得なかった。

第27表に各ピットの計測値を示す。

遺物

出土状況：58点、総重量210.1gであり、土師器51点（179.3g）、ロクロ土師器3点（7.7g）、須恵器3点（20.7g）、陶器1点（2.4g）である。図示したものはない。



第53図 ピット全体実測図

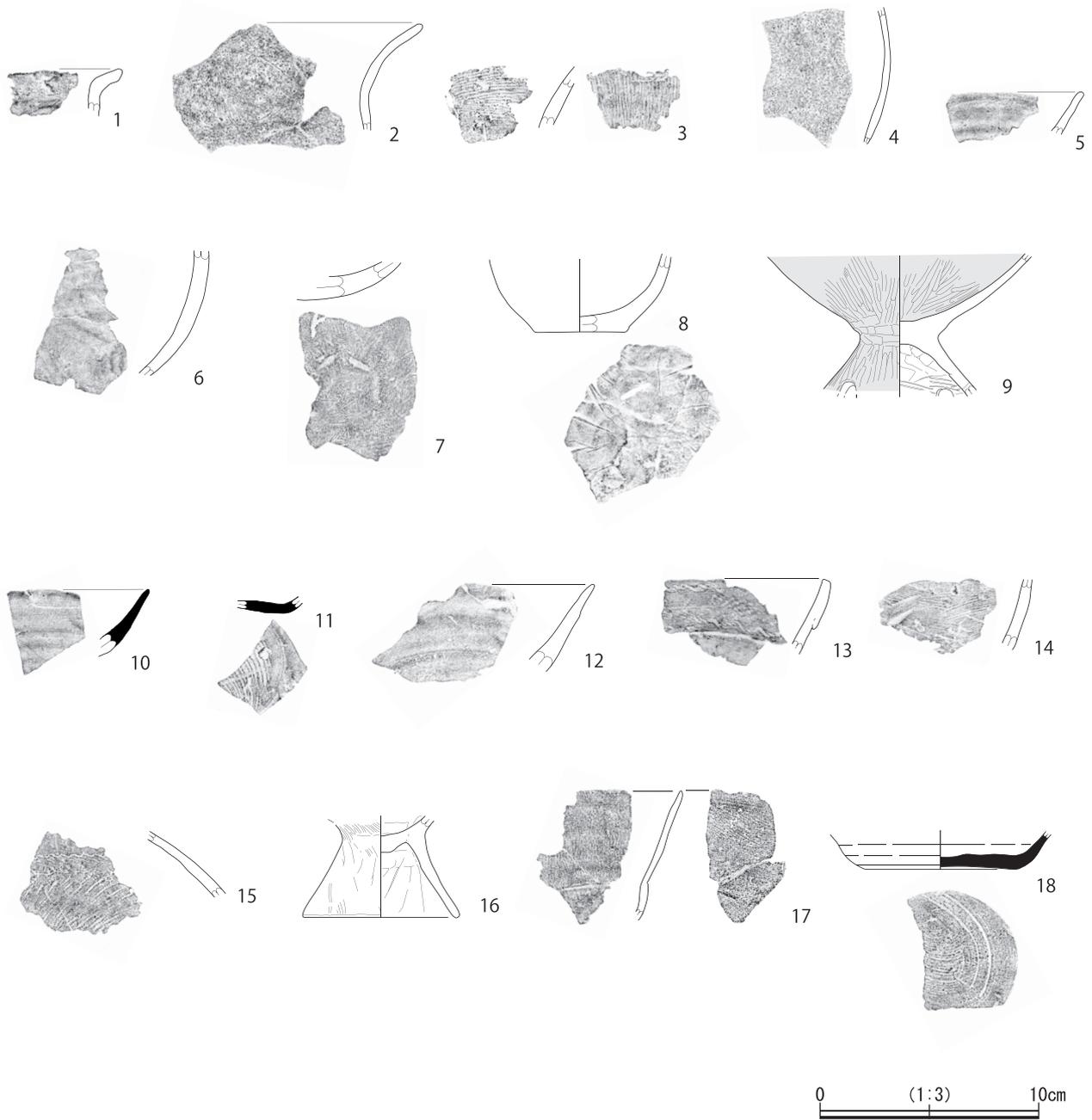
第27表 ピット計測表

番号	位置	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)	出土遺物
P01	E-3	円形	0.34	0.34	0.20	土師器 1点、13.5g
P02	E-3	円形	0.38	0.34	0.19	—
P03	E-4	円形	0.24	0.24	0.07	—
P04	E-4	円形	0.38	0.34	0.19	—
P05	E-4	円形	0.38	0.36	0.30	—
P06	D-5	円形	0.60	0.50	0.45	—
P07	D-5	円形	0.56	0.48	0.19	土師器 5点、11.8g 陶器 1点、2.4g ロクロ土師器 2点、6.5g
P08	D-5	円形	0.42	0.40	0.39	—
P09	D-5	円形	0.44	0.44	0.44	須恵器 1点、10.4g
P10	D-6	円形	0.24	0.24	0.10	土師器 1点、4.0g
P11	E-6	円形	0.26	0.26	0.08	—
P12	E-6	円形	0.26	0.26	0.10	土師器 1点、2.0g
P13	C-5	円形	0.28	0.28	0.23	—
P14	C-5	円形	0.26	0.24	0.30	—
P15	C-5	長方形	0.44	0.34	0.30	—
P16	C-5	円形	0.40	0.36	0.20	—
P17	C-6	円形	0.82	0.74	0.13	—
P18	C-6	円形	0.30	0.30	0.07	土師器 1点、2.3g 須恵器 1点、6.6g
P19	D-6	円形	0.24	0.20	0.18	—
P20	D-7	円形	0.32	0.30	0.10	—
P21	C-6	円形	0.32	0.30	0.21	—
P22	C-6	円形	0.32	0.30	0.13	土師器 2点、4.1g
P23	C-6	長方形	0.42	0.30	0.37	—
P24	C-6	円形	0.32	0.30	0.17	—
P25	C-6	円形	0.56	0.44	0.29	—
P26	C-6	円形	0.60	0.54	0.19	土師器 6点、19.9g 須恵器 1点、3.7g
P27	C-6	円形	0.34	0.32	0.09	—
P28	C-6	円形	0.28	0.26	0.22	—
P29	C-6	円形	0.20	0.20	0.11	—
P30	C-7	円形	0.26	0.20	0.09	—
P31	C-7	円形	0.30	0.26	0.21	土師器 5点、9.8g ロクロ土師器 1点、1.2g
P32	C-7	円形	0.32	0.28	0.22	—
P33	C-7	円形	0.32	0.28	0.15	—
P34	C-7	円形	0.30	0.28	0.14	—
P35	B-7	円形	0.24	0.22	0.20	土師器 1点、6.5g
P36	B-7	円形	0.32	0.26	0.13	—
P37	F-4	円形	0.30	0.22	0.15	—
P38	F-4	円形	0.26	0.24	0.14	—
P39	F-4	円形	0.40	0.40	0.50	—
P40	F-4	円形	0.26	0.24	0.09	—
P41	F-4	円形	0.30	0.28	0.29	—
P42	H-5	円形	0.60	0.58	0.29	土師器 1点、8.3g
P43	I-4	円形	0.48	0.42	0.20	—
P44	K-4	円形	0.30	0.30	0.38	—

番号	位置	平面形状	長軸長(m)	短軸長(m)	深さ(m)	出土遺物
P45	K-4	円形	0.40	0.34	0.35	—
P46	K-5	円形	0.22	0.20	0.12	—
P47	K-5	円形	0.24	0.24	0.24	—
P48	K-5	円形	0.26	0.20	0.33	—
P49	K-5	円形	0.26	0.22	0.15	—
P50	K-5	円形	0.36	0.34	0.48	土師器 1点、2.6g
P51	K-5	円形	0.20	0.18	0.15	土師器 1点、14.2g
P52	L-5	円形	0.26	0.22	0.13	—
P53	L-5	円形	0.26	0.20	0.17	—
P54	L-5	円形	0.26	0.24	0.15	—
P55	K-5	円形	0.28	0.24	0.15	—
P56	K-5	円形	0.30	0.22	0.14	—
P57	K-5	円形	0.22	0.20	0.15	—
P58	K-5	円形	0.26	0.26	0.21	—
P59	K-5	円形	0.23	0.22	0.23	—
P60	K-5	円形	0.22	0.19	0.19	—
P61	K-5	円形	0.28	0.24	0.19	土師器 2点、13.2g
P62	K-5	円形	0.28	0.26	0.17	土師器 2点、9.0g
P63	K-5	円形	0.40	0.28	0.10	—
P64	K-4	円形	0.24	0.22	0.08	土師器 3点、7.4g
P65	K-4	円形	0.16	0.14	0.23	—
P66	J-5	円形	0.36	0.36	0.13	—
P67	J-5	円形	0.32	0.30	0.14	—
P68	J-6	円形	0.20	0.20	0.17	土師器 1点、3.3g
P69	I-6	円形	0.40	0.36	0.22	—
P70	J-6	円形	0.60	0.50	0.26	土師器 2点、6.7g
P71	J-6	円形	0.42	0.38	0.10	—
P72	J-6	円形	0.52	0.44	0.43	—
P73	J-6	円形	0.56	0.48	0.27	—
P74	I-6	円形	0.16	0.16	0.09	—
P75	I-6	円形	0.28	0.26	0.04	—
P76	I-6	円形	0.1	0.12	0.13	—
P77	I-6	円形	0.64	0.58	0.38	土師器 11点、23.7g
P80	J-6	円形	0.48	0.40	0.41	土師器 3点、15.5g
P81	K-7	円形	0.32	0.30	0.11	土師器 2点、2.7g
P82	K-7	円形	0.42	0.40	0.29	—
P83	K-7	円形	0.45	0.33	0.14	—
P84	K-7	円形	0.38	0.32	0.19	—
P85	K-7	長方形	0.26	0.23	0.14	—
P86	L-8	円形	0.28	0.24	0.17	—
P87	K-8	円形	0.34	0.27	0.19	—
P88	J-5	円形	0.41	0.33	0.32	—
P89	J-5	円形	0.43	0.34	0.32	—

5 遺構外出土遺物（試掘・表採含む）（第54図、第28表、図版15）

本調査では試掘調査時の表土採取を含め、遺構外からの出土遺物は586点、総重量3,528.7gの遺物が出土した。そのうち18点を図示した。第28表に出土遺物総数の内訳を示す。



第54図 遺構外出土遺物実測図

第28表 遺構外出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土 遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 残存部高 底径	重量 (g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
						外面	内面			外面	内面	
54-1 15-遺構外-1	遺構外	土師器 壺形	口縁部	—	6.5	外面 ヘラナデ(横)	内面 ヘラナデ(横)	φ1mm以下黒色粒子微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4)	内面 にぶい黄橙(10YR6/4)	
54-2 15-遺構外-2	遺構外	土師器 甕形	口縁部	—	24.1	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1mm白色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm褐色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/8)	内面 橙(5YR6/6)	
54-3 15-遺構外-3	遺構外	土師器 壺形	胴部	—	11.2	外面 ハケメ(縦)	内面 ハケメ(横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ2~3mm赤色粒子少量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 明赤褐(5YR5/6)	
54-4 15-遺構外-4	遺構外	土師器 埴形か	胴部	—	9.6	外面 ナデ	内面 ナデ	φ1~2mm赤色粒子少量 φ1mm以下白色粒子微量 φ2mm黒色粒子少量	良	外面 橙(7.5YR6/6)	内面 橙(5YR6/6)	
54-5 15-遺構外-5	遺構外	須恵器 環形	口縁部	—	4.4	ロクロ成形		白色針状物質微量 φ1mm以下白色粒子少量	良	外面 灰(N4/)	内面 灰(N6/)	南比企産
54-6 15-遺構外-6	試掘	土師器 壺形	胴部	—	21.0	外面 ヘラナデ	内面 ヘラナデ	φ2mm赤色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量 φ1mm以下褐色粒子少量	良	外面 赤(10R5/6)	内面 にぶい橙(7.5YR6/4)	外面赤彩
54-7 15-遺構外-7	試掘	土師器 壺形	底部	—	30.2	外面 ナデ	内面 ナデ	φ2mm赤色粒子微量 φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	やや良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4)	内面 にぶい橙(7.5YR7/3)	
54-8 15-遺構外-8	試掘	土師器 埴形	底部	— [3.9] [4.2]	30.5	外面 ヘラナデ(縦)→ナデ	内面 ナデ	φ1~3mm赤色粒子少量 φ1~2mm黒色粒子微量	良	外面 橙(5YR7/6)	内面 橙(7.5YR7/6)	
54-9 15-遺構外-9	試掘	土師器 高環形	器台部	— [6.6] —	97.5	外面 胴部ヘラミガキ メ→ヘラミガキ	内面 胴部ヘラミガキ 脚部ナデ	φ3~5mm褐色粒子中量 φ1~2mm黒色粒子少量	良	外面 暗赤(7.5R3/6)	内面 赤(7.5R4/6)	外面・受部内 面赤彩
54-10 15-遺構外-10	試掘	須恵器 環形	口縁部	—	9.1	ロクロ成形		φ1mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下白色粒子少量	良	外面 灰(5Y6/1)	内面 黄灰(2.5Y5/1)	
54-11 15-遺構外-11	試掘	須恵器 環形	底部	—	6.5	ロクロ成形 底部回転糸切→ヘラケズリ		白色針状物質少量 φ1mm以下黒色粒子少量 φ2mm白色粒子少量	良	外面 灰白(2.5Y7/1)	内面 黄灰(2.5Y6/1)	南比企産
54-12 15-遺構外-12	試掘	ロクロ 土師器 環形	口縁部 ~胴部	—	19.3	ロクロ成形		φ1mm以下赤色粒子少量 φ2mm以下黒色粒子少量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(7.5YR6/6)	内面 橙(5YR6/6)	
54-13 15-遺構外-13	表探	土師器 壺形	口縁部	—	14.0	外面 単節LR縄文による横位の押 圧	内面 ヘラナデ(横)→ナデ	φ1~2mm黒色粒子微量 φ1mm以下金雲母片微量	良	外面 橙(5YR6/6)	内面 橙(5YR6/6)	
54-14 15-遺構外-14	表探	土師器 壺形	口縁部	—	11.8	外面 ヘラナデ(横)	内面 ナデ(横)	φ5mm褐色粒子微量 φ1mm褐色粒子微量 φ2mm赤色粒子微量	良	外面 にぶい橙(5YR6/4)	内面 明赤褐(5YR5/6)	
54-15 15-遺構外-15	表探	土師器 壺形	胴部	—	17.5	外面 S字状結節LR	内面 ナデ(横)	φ1~2mm赤色粒子中量	良	外面 橙(7.5YR7/6)	内面 にぶい橙(7.5YR6/4)	外面上部赤彩
54-16 15-遺構外-16	表探	土師器 台付甕形	脚部	— [4.7] [7.2]	(59.9)	外面 ハケメ 脚部ハケメ→ナデ	内面 ヘラナデ	φ1mm以下黒色粒子少量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/3)	内面 にぶい黄橙(10YR7/4)	
54-17 15-遺構外-17	表探	土師器 埴形	口縁部 ~胴部	—	10.1	外面 ハケメ(縦)→ヘラナデ(横)	内面 ハケメ(横・斜め)	φ1mm以下白色粒子微量	良	外面 にぶい橙(5YR7/4)	内面 明赤褐(2.5YR5/8)	
54-18 15-遺構外-18	表探	須恵器 環形	底部	— [1.8] [7.0]	33.3	底部回転糸切→ヘラケズリ		φ2mm白色粒子少量 φ1mm以下褐色粒子少量	良	外面 灰(N6/)	内面 灰白(N7/)	東金子か

第29表 遺構別出土点数・重量一覧

	土師器 (弥生後期～古墳前期)		ロクロ土師器		須恵器		陶器		その他			合計	
	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	種別	重量(g)	点数	重量(g)
SI01	321	1,962.7	8	49.1					2	礫	449.6	331	2,461.4
SI02	150	589.6	11	138.4	6	115.4	1	19.9	2	礫	7.9	170	871.2
SI03	425	2,717.5	4	32.3	2	2.9	3	14.5	3	叩石1 礫2	1,420.9	437	4,188.1
SI04	113	3,105.0	3	10.4	1	0.9						117	3,116.3
SI05	93	442.0	3	20.3	1	2.7	1	9.0	1	礫	9.0	99	483.0
SI06	256	898.0			2	11.1						258	909.1
SI07	144	2,008.6							2	礫	314.7	146	2,323.3
SI08	236	779.0							1	礫	271.4	237	1,050.4
SI09	23	116.5			1	1.3			1	礫	4.8	25	122.6
SI10	102	331.0										102	331.0
SI11	3	26.1										3	26.1
SD01	266	1,443.2	1	8.0	8	124.3	12	746.0	2	礫	371.1	289	2,692.6
SD02	15	200.1										15	200.1
SD03	18	175.0										18	175.0
SD04	133	1,173.3	2	39.9	1	1.2	1	17.2				137	1,231.6
SD05	8	70.1			1	35.0	1	5.3	1	礫	231.8	11	342.2
SD06	18	112.5	1	35.5								19	148.0
SD07	138	438.2	4	80.3	73	717.4	17	309.2				232	1,545.1
SD08	41	274.1			1	54.1	3	40.5	1	礫	235.1	46	603.8
SK01	92	1,097.6			12	132.8	17	881.4	2	礫	861.8	123	2,973.6
SK02	67	530.9	1	24.1	3	7.2			1	礫	1.6	72	563.8
SK03												0	0.0
SE01	53	252.5	4	32.2	12	132.8	2	108.6				71	526.1
SE02												0	0.0
Pit	51	179.3	3	7.7	3	20.7	1	2.4				58	210.1
遺構外	97	459.2	1	4.6	62	322.4	7	101.9				167	888.1
遺構外(試掘)	159	595.9	1	3.2	7	51.3	1	5.5	2	礫	26.8	170	682.7
遺構外(表採)	237	1,560.6	2	4.5	9	90.8	2	69.8	1	礫	232.2	249	1,957.9
合計	3,259	21,538.5	49	490.5	205	1,824.3	69	2,331.2	22		4,438.7	3,602	30,623.2

第4章 まとめ

今回の南原遺跡第7次発掘調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡11軒、溝状遺構1条、土坑1基、井戸跡1基、ピット16基、中世の溝状遺構7条、土坑1基、井戸跡1基、ピット5基、時期不明のピット66基を検出した。以下に各時代の様相について述べる。

1 弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭

(1) 竪穴住居跡

本調査区では、竪穴住居跡を11軒検出した。部分的な検出のため全体の様子が不明なもの2軒(SI10・SI11)、溝状遺構と土坑に大きく削平されたもの1軒(SI09)以外は、竪穴住居跡相互の切合はあるものの、比較的良好な検出状態である。全体的な配置を見ると、北側にやや集中する傾向が見て取れる。(SI01～05)。また調査区東南側でも、詳細は不明であるがSI09～11が比較的近距离に位置している。竪穴住居跡の方位についても概ね同じ方角を向く傾向がある。また、竪穴住居跡同士が重複する事例が多く、SI01・SI02、SI03・SI04・SI05、SI06・SI07、SI10・SI11である。これは、竪穴住居跡の建替を行うことで、他の土地には移動せず、短期間の滞在ではないことが理解できる。注目すべきは、SI03・SI04・SI05である。土層断面より、SI05→SI03→SI04と構築されたことが明らかであり、最も大きいSI03があいだに構築されており、竪穴住居跡に居住した集団に差異があった可能性が指摘できよう。

竪穴住居跡の全体の形状は概ね隅丸形状である。これは、当該期の竪穴住居跡の形状と整合的である。住居の主柱穴は、4本柱穴と推測されるものにSI03、SI05、SI06、SI07、SI08、SI10がある。4基以上の主柱穴があるものは、竪穴住居跡の建替が想定される。付属施設は、SI06に炉穴が検出されている。整理作業では、当初はカマドとして検証したもののカマドを構成する裾部等の構築物がないため、暫定的にSI06に付随する炉跡と判断した。しかし、SI06に付随せず、SI06廃絶後、後世に構築されたファイヤーピットである可能性も否定し得ない。また、今回の調査区では、焼失住居は検出されていない。南原遺跡での焼失住居は、第2次調査で2軒、第5次調査で5軒、第6次調査で3軒、第13次調査で1軒と、合計11軒検出されている。本調査で焼土および炭化物が竪穴住居跡内の床面において検出されたものは、SI07において比較的広範囲に検出されている。その他にもSI02では、その他の竪穴住居跡の柱穴よりも大きいピットが4基検出された。大きさは約0.7m～1.1mであり、柱穴とは判断し難く、貯蔵穴である可能性がある。なお、竪穴住居跡の掘り方は、発掘現場での記録がなく、詳細は不明である。

(2) そのほかの遺構

竪穴住居跡以外の遺構では、溝状遺構1条、土坑1基、井戸跡1基を検出している。

溝状遺構はSD08が該当する。SD08は、部分的な検出であるため憶測を含むが、上端がやや蛇行しており、後述する中世相当の直線的な溝状遺構とは、平面形状が異なる。

土坑はSK02、SK03が該当する。SK03は竪穴住居跡の項目で触れたため、ここでは割愛する。SK02の平面形は横長の楕円形であり、中央部付近がやや括れる。SD08を掘削して構築されている。具体的な機能は不明である。

井戸跡はSE01が該当する。井戸枠は検出されていないため素掘りで掘られたもので、SK02と同様にSD08を掘削し、掘り込まれている。

SD08、SK02、SE01は、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の遺物を主体的に含んでいることから、当該期に帰属する可能性がある。しかし、中世に相当する可能性も少なからず残っていることは付記しておく。今後、南原遺跡での弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭における空間利用について、竪穴住居跡や周溝状遺構を中心としつつ、それ以外の溝状遺構や井戸跡も含めて総合的に検討する必要がある。

2 中世

(1) 溝状遺構、土坑、井戸跡

本調査区では中世のものと考えられる溝状遺構は、SD01、SD02、SD03、SD04、SD05、SD06、SD07である。この内、SD01、SD02、SD03は本調査区を概ね東西方向に横断している。また、SD03→SD02→SD01の順で構築されており、何らかの理由により溝が2回再構築されていたことが考えられる。本調査区の東に位置する第5次調査区では、東西に伸びる溝状遺構が検出されており(小島1991)、本調査区のSD01～SD03と連結するものと考えられる。他にもSD04は概ね南北方向に伸びるもので、SI08、SI10を切っている。また先述したSD01、SD02、SD03により掘削されていることから、中世段階では溝の再構築が行われ、SD04の後にSD03を構築する際に、溝の方向が変更になった可能性が指摘できよう。上記のSD01～SD04は概ね直線的な平面形状であるが、SD07のように上端がやや蛇行して、東西方向に伸びるものがある。SD07は、SI01、SI03、SI04、SI05を切って構築されている。これは溝として機能が異なっていた、もしくは時期差があったことの可能性を示唆するものである。また、SD05は部分的な検出であるが、L字状を呈している。整理段階では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭において、戸田市内で多く検出されている周溝状遺構ではないかと検討したが、全体形状が不明であり、出土遺物も11点と少ないことから、中世相当の溝状遺構と判断した。

南原遺跡では、南原遺跡第5次調査(小島前掲)、第8次調査(岩井ほか2015)、第9次調査(早田ほか2010)、第11次調査(岩井ほか2013)等で、長大で直線状を呈する溝状遺構が検出されている。総じて、包蔵地内の南半に多い傾向にあることが指摘できよう。

土坑は1基でありSK01である。SI09、SD01、SD02、SD03を切っており、また出土遺物から中世のものと判断した。直径2m以上の大型のもので、深さは1.29mを測る。

井戸跡はSE02の1基である。SD01を切ることから中世相当と判断した。残念ながら調査時に底面まで掘削が及んでおらず、井戸の形状については断片的な情報のみである。また、出土遺物もない。井戸跡の類例は第11次調査において中世相当の井戸が8基検出されており、注目される(岩井ほか前掲)。

3 結語

南原遺跡第7次調査では、調査面積800.0㎡の調査区より、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭を主とする良好な遺構・遺物を検出した。特に弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡11軒は、過去の調査の中でも検出数が多く、南原遺跡における居住域について多くの情報を提供するものである。また、中世段階では溝状遺構の検出から、人々が如何にして水を生活域から遠ざけたのか、低地である戸田市特有の生活空間の構成を知る手がかりとなる。

今後は、発掘調査による類例の増加や周辺遺跡との比較検討を行うことで、南原遺跡における当時の人々の生活がより明らかになるであろう。

引用・参考文献

赤熊 浩一

2012 『南原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第396集 公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

浅野 晴樹

1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心として—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集 国立歴史民俗博物館

岩井 聖吾・坂上 直嗣・山崎 裕子

2013 『南原遺跡XI』戸田市文化財調査報告XVIII 戸田市教育委員会

岩井 聖吾・諸星 良一

2015 『南原遺跡XIII』戸田市文化財調査報告XXII 戸田市教育委員会

岩井 聖吾・柏山 滋・宅間 清公

2016 『南原遺跡XII』戸田市文化財調査報告XXV 戸田市教育委員会

岩井 聖吾・若松 良一

2015 「付篇 南原遺跡第8次発掘調査出土の埴輪」『前谷遺跡IV』戸田市文化財調査報告XX 戸田市教育委員会

小島 清一

1991 『南原遺跡V』埼玉県戸田市遺跡調査会報告書第3集 戸田市遺跡調査会

1996 『南原遺跡VI』埼玉県戸田市遺跡調査会報告書第5集 戸田市遺跡調査会

古代の入間を考える会

2012 『古代入間の土器と遺跡（I）—須恵器坏の編年と遺跡動態を考える—』古代の入間を考える会

2013 『古代入間の土器と遺跡（II）—須恵器坏の編年（9・10世紀）—』古代の入間を考える会

2014 『南比企窯と東金子窯（I） 8世紀の東金子窯の編年と土器の分布』古代の入間を考える会

2015 『南比企窯と東金子窯（II） 東金子窯の開窯と9世紀の編年』古代の入間を考える会

酒井 清治

2001 「生産地の様相と編年 多摩・比企」『土師器と須恵器』普及版・季刊考古学 雄山閣

塩野 博

1969 『南原（高知原）遺跡第1次発掘調査概要』戸田市文化財調査報告III 戸田市教育委員会

1972 『南原（高知原）遺跡第2・3次発掘調査概要』戸田市文化財調査報告V 戸田市教育委員会

1981 「第2章第2節 南原遺跡」『戸田市史 資料編1 原始・古代・中世』戸田市

早田 利宏・河野 一也・井 博幸

2010 『南原遺跡IX』戸田市文化財調査報告XVII 戸田市教育委員会

望月 幹夫

2001 「土師器の編年」『土師器と須恵器』普及版・季刊考古学 雄山閣

写 真 图 版



1 調査区全景（北東から）



2 調査区全景（南から）



1 SI01 調査状況（東から）



2 SI02 完掘状況（東から）



1 SI03 完掘状況（東から）



2 SI03 遺物出土状況



3 SI04 遺物出土状況



4 SD07 完掘状況（北東から）



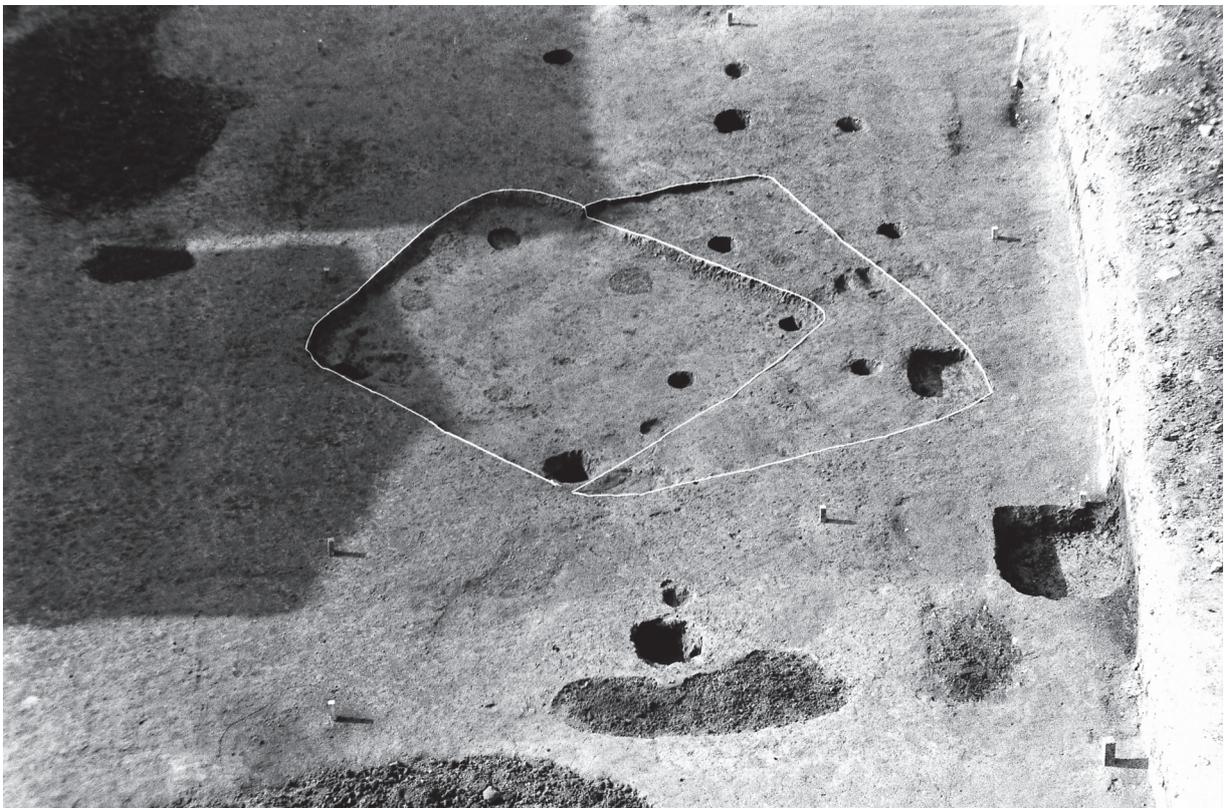
1 SI05完掘状況（東から）



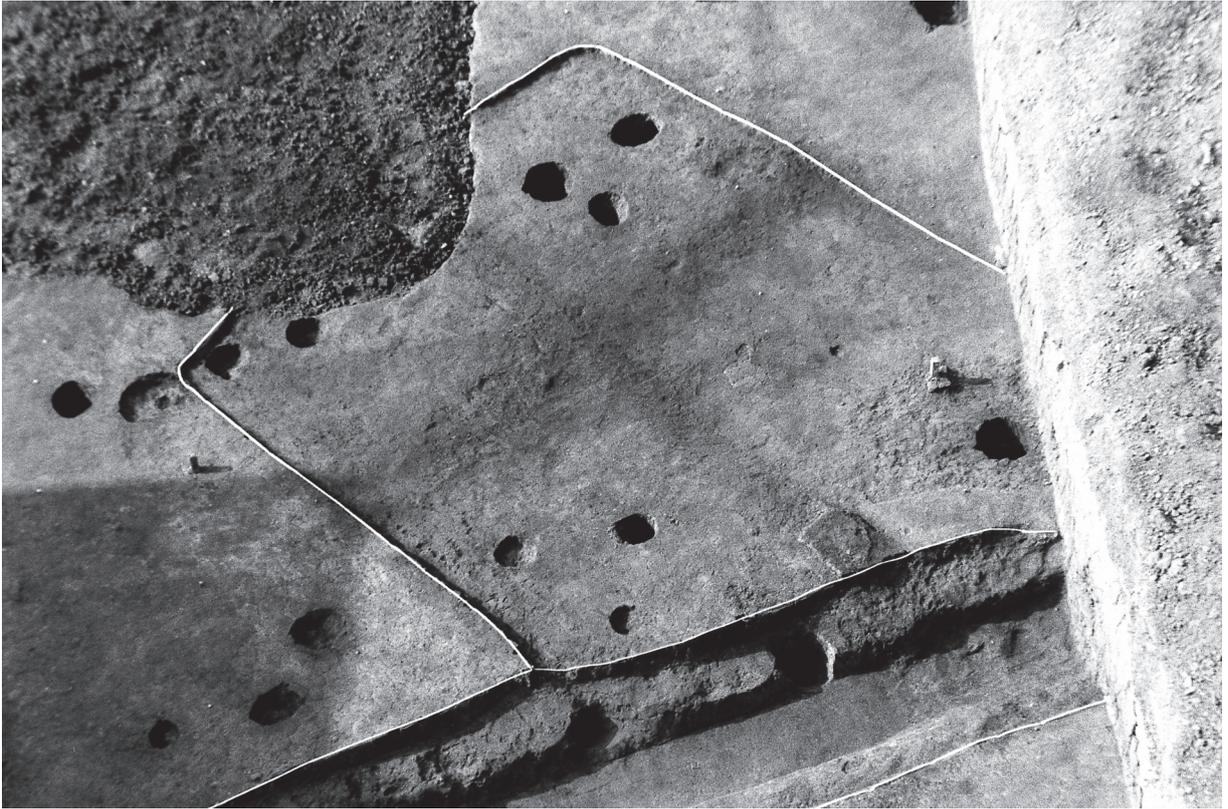
2 SI01・02・03・04・05、SD07完掘状況（東から）



1 SI07 完掘状況（南東から）



2 SI06・07 完掘状況（東から）



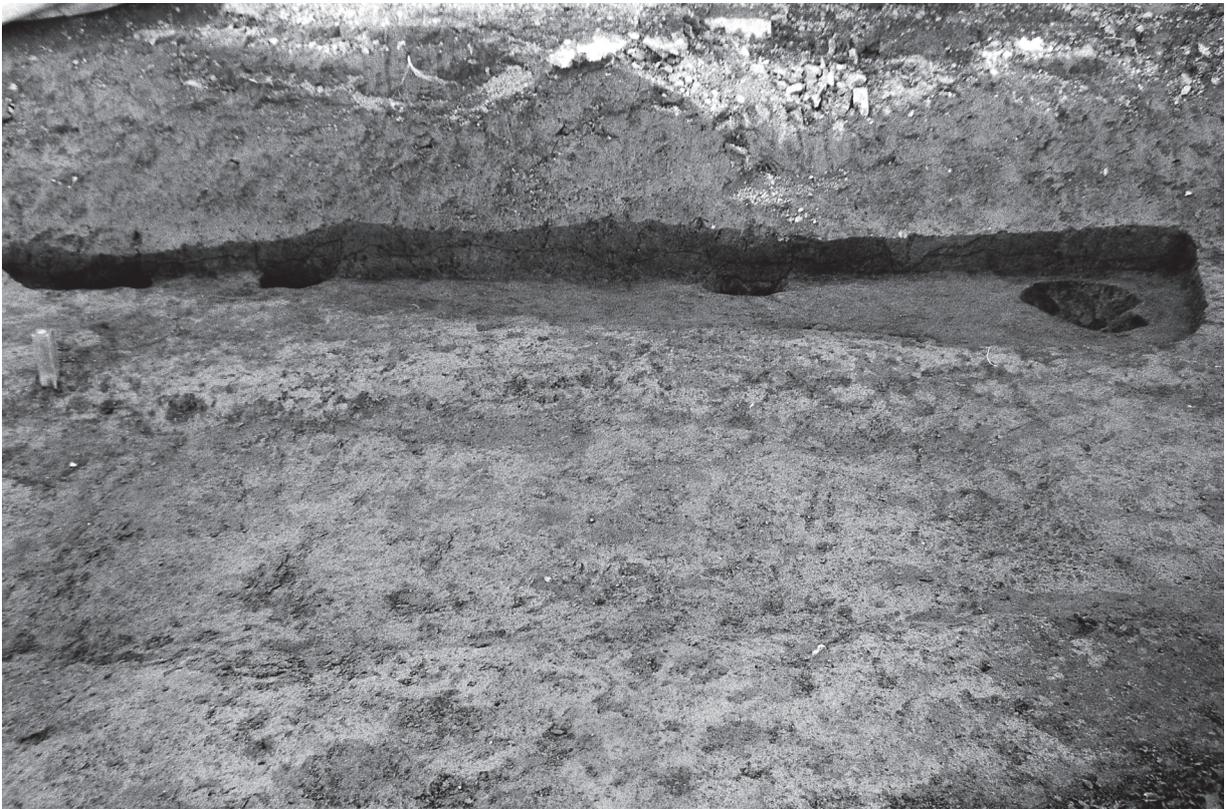
1 SI08 完掘状況（東から）



2 SI09・SK01 完掘状況（東から）



1 SI10 調査状況（南から）



2 SI11 完掘状況（北から）



1 SK01 完掘状況（南西から）



2 基本土層



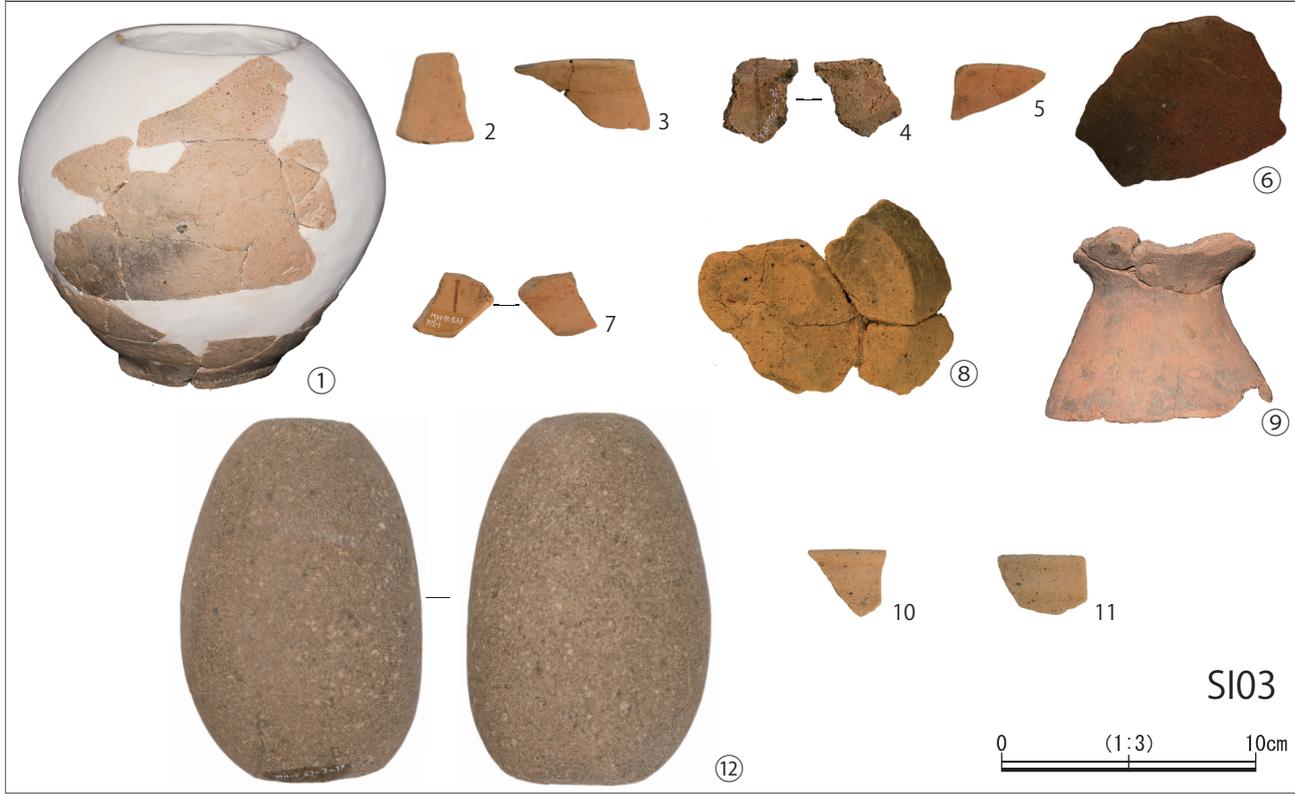
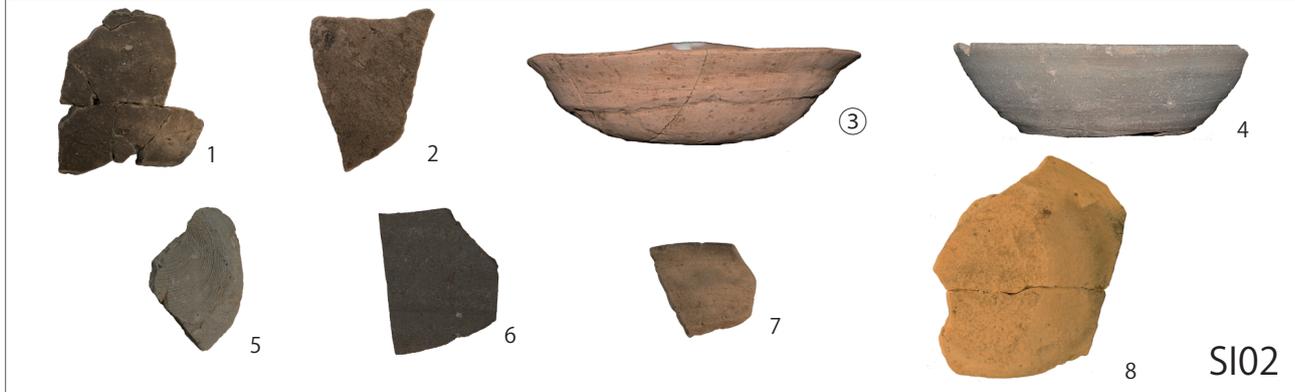
3 調査風景1



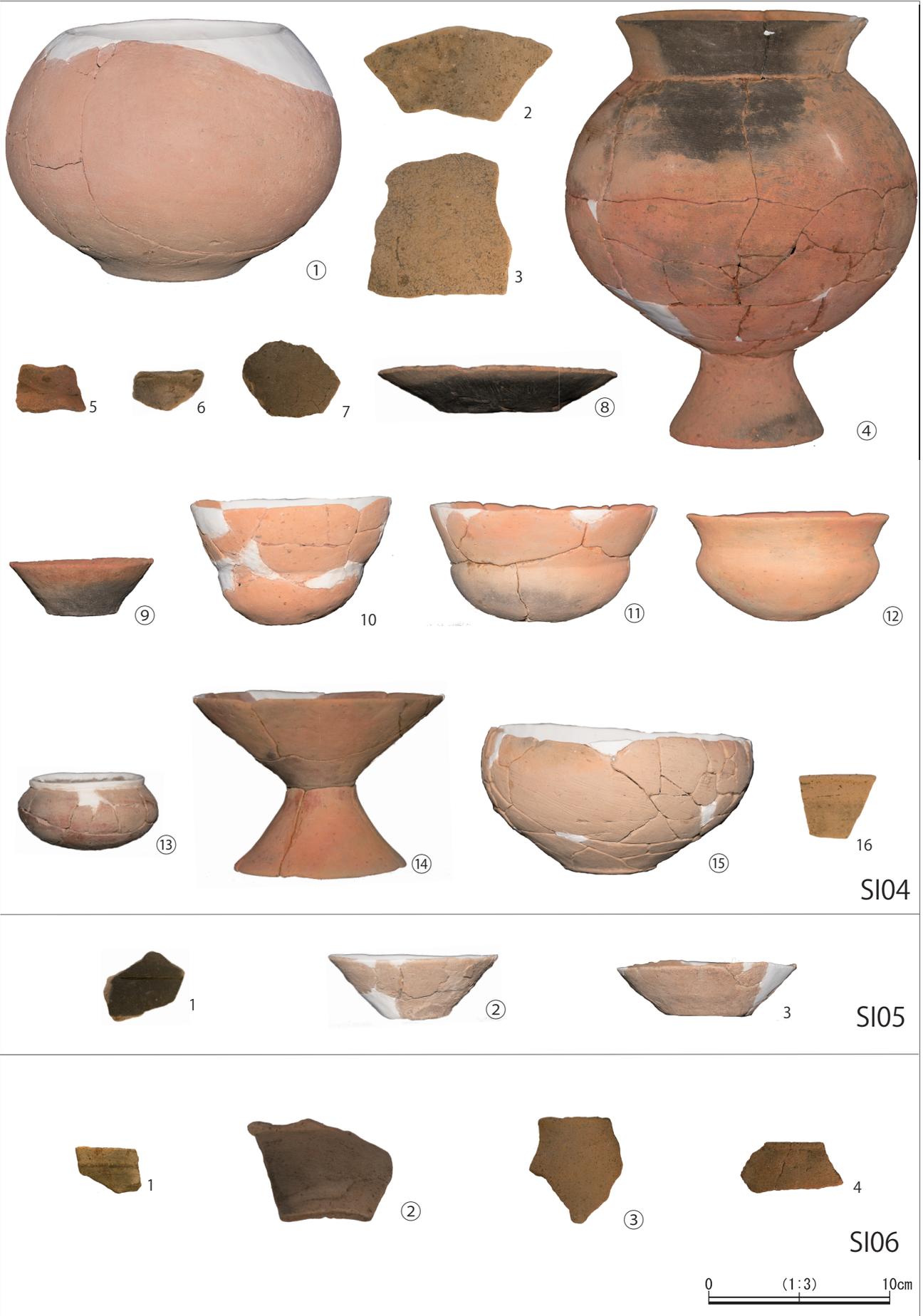
4 調査風景2



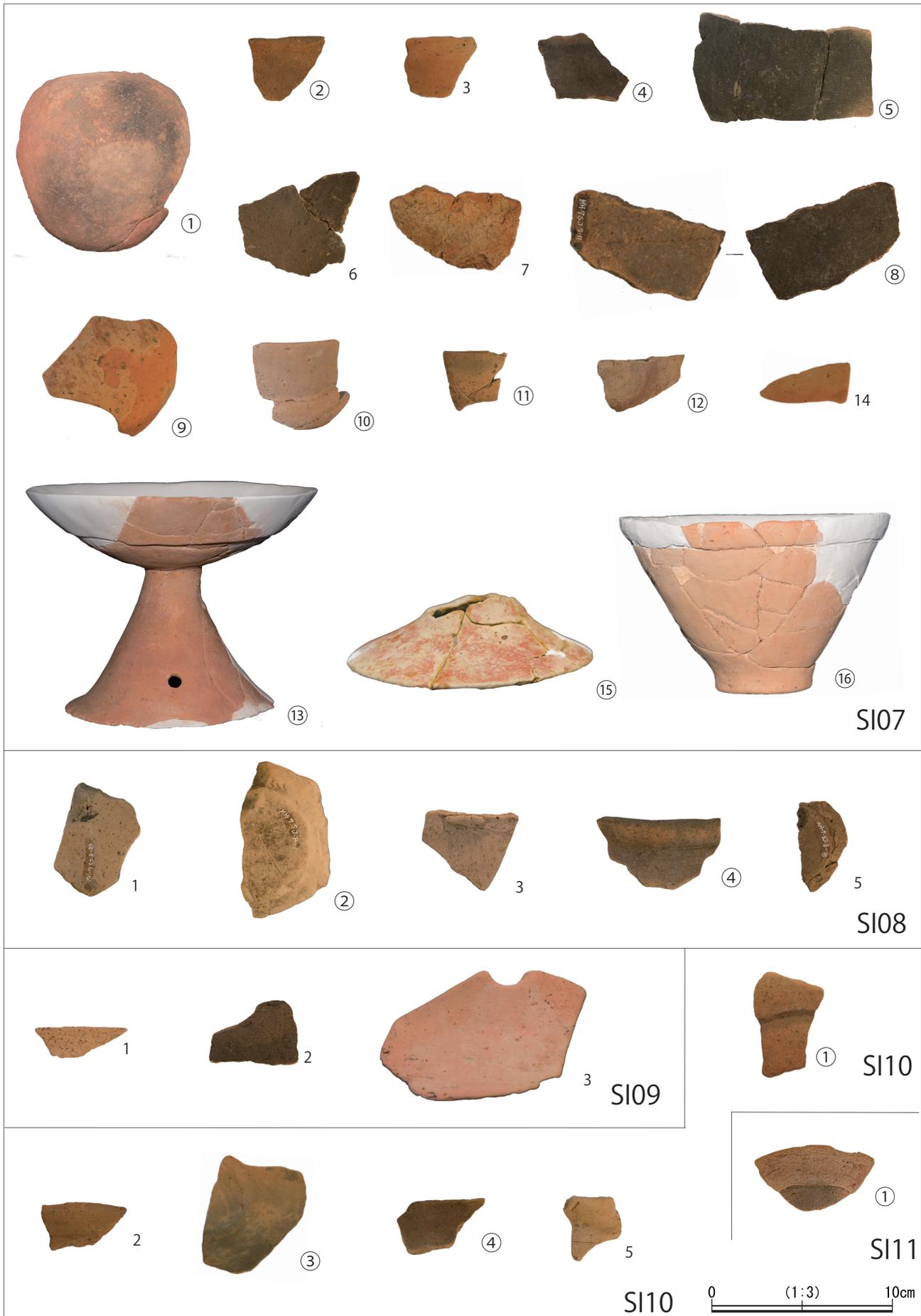
5 調査風景3



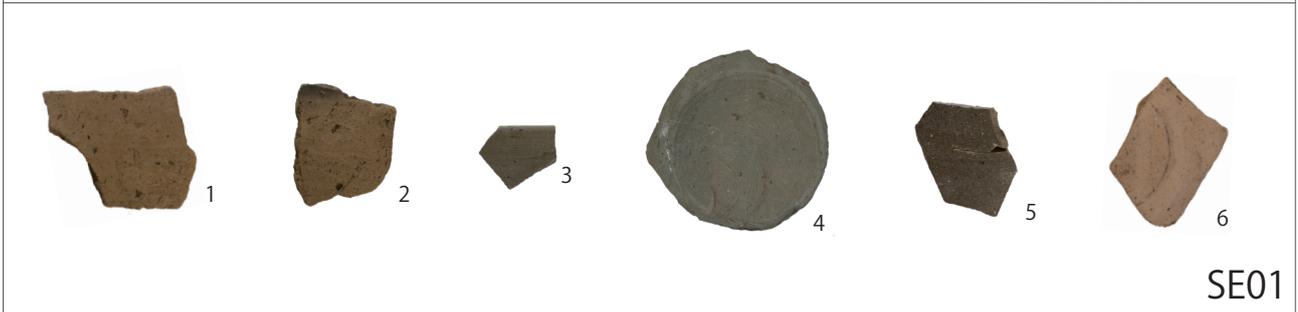
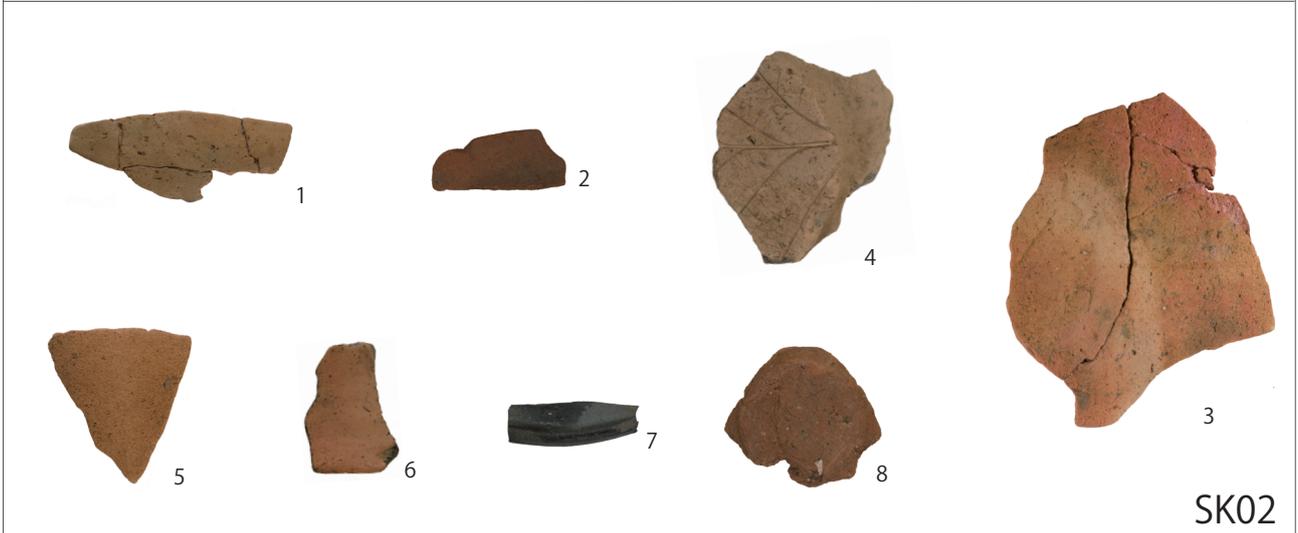
出土遺物写真 (1)



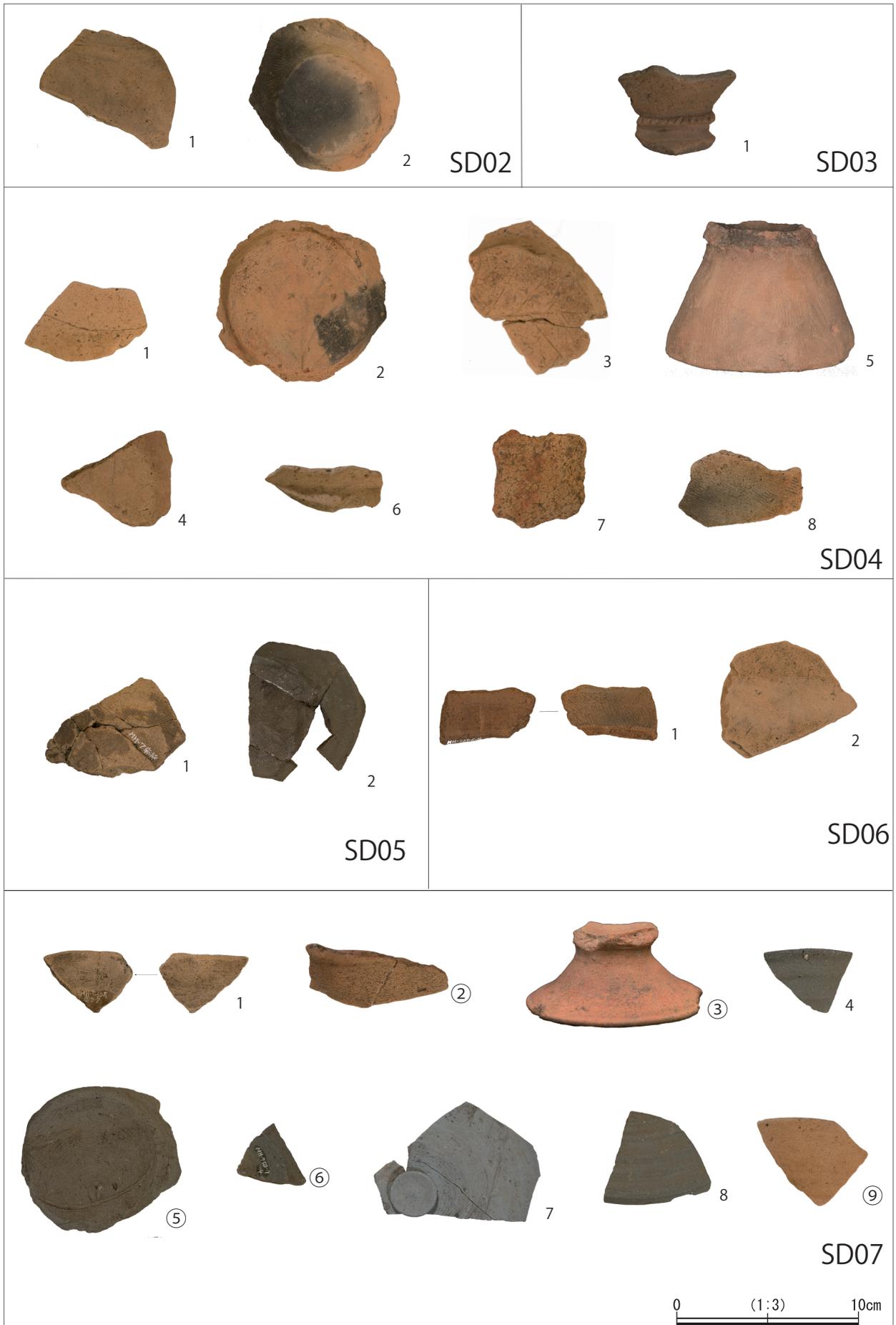
出土遺物写真 (2)



出土遺物写真 (3)



出土遺物写真 (4)



出土遺物写真 (5)



出土遺物写真 (6)



出土遺物写真 (7)

報告書抄録

ふりがな	みなみはらいせきなな まいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこくしょ							
書名	南原遺跡Ⅶ 埋蔵文化財発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	戸田市文化財調査報告							
シリーズ番号	26							
編著者名	長澤 有史							
編集機関	戸田市教育委員会							
所在地	〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1 TEL 048 (441) 1800							
発行年月日	2017 (平成29) 年 3月24日							
ふりがな	ふりがな	コ		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
みなみはらいせき だい じちよう さ 南原遺跡 第7次調査	と だ し みなみちやう 戸田市南町 ぼん ぼん 2274番1、2275番1	11224	06-002	35° 80' 55"	139° 67' 40"	2003.11.10 ～ 2003.12.28	800.0	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
南原遺跡	集落跡	弥生時代後期から古墳時代前期	竪穴住居跡 11軒 溝状遺構 1条 土坑 2基 井戸跡 1基 ピット 16基	土師器 石製品 (叩石)	竪穴住居跡が11軒検出され、重複するものが多い。			
		中世	溝状遺構 7条 土坑 1基 井戸跡 1基 ピット 5基	須恵器 ロクロ土師器 陶器	調査区を横断する溝状遺構が3条検出された。			
		その他	ピット 66基	—				
要約	<p>本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である南原遺跡の範囲に属し、JR埼京線戸田公園駅から南西約450mの戸田市南町2274番1、2275番1に位置する。本調査地点の東に近接して、南原遺跡第5次発掘調査が行われている。</p> <p>南原遺跡は、荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に、氾濫や流路変更によって発達した微高地（自然堤防）上に立地している。調査の結果、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡11軒、溝状遺構1条、土坑2基、井戸跡1基、ピット16基、中世の溝状遺構7条、土坑1基、井戸跡1基、ピット5基、時期不明のピット66基を検出した。</p>							

戸田市文化財調査報告 XXVI

南原遺跡Ⅶ

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集 埼玉県戸田市教育委員会
〒335-8588 埼玉県戸田市上戸田1-18-1
TEL 048(441)1800

印刷 巧和工藝印刷株式会社
〒333-0842 埼玉県川口市前川3-25-3

発行日 平成29年3月24日